# 平成２９年度
# 事 業 報 告 書

社会福祉法人 北海道ハピニス

# 【目　次】


| | | |
|---|---|---|
| | 法人総括 | 2 頁　～　9 頁 |
| １． | 法人事務局 | 10 頁　～　16 頁 |
| ２． | 障がい者支援施設グリンハイム | 17 頁　～　26 頁 |
| ３． | 特別養護老人ホーム　和幸園 | 27 頁　～　34 頁 |
| ４． | 看護課 | 34 頁　～　36 頁 |
| ５． | 栄養課 | 36 頁　～　38 頁 |
| ６． | 訓練 | 39 頁　～　41 頁 |
| ７． | 相談支援事業所グリンハイム | 41 頁　～　45 頁 |
| ８． | 通所事業部 | 46 頁 |
| ９． | 和幸園デイサービスセンター | 46 頁　～　50 頁 |
| １０． | 和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森 | 50 頁　～　55 頁 |
| １１． | 生活介護事業所グリンハイム<br>（日中一時支援事業所グリンハイム） | 55 頁　～　61 頁 |
| １２． | 地域事業部 | 61 頁　～　62 頁 |
| １３． | 和幸園指定居宅介護支援事業所 | 62 頁　～　66 頁 |
| １４． | 和幸園・グリンハイムホームヘルプサービス事業所 | 67 頁　～　69 頁 |
| １５． | 介護予防センター石山・芸術の森 | 70 頁　～　76 頁 |

# 法　人　総　括

## １．総括

### （１）経営・運営状況

介護保険法の施行（平成１２年：２０００年）、支援費制度の施行（平成１５年：２００３年）、障害者総合支援法の施行（平成２８年：２００６年 旧障害者自立支援法）以降、当法人が運営する高齢者・障がい者入居型施設、在宅型サービス事業所を取り巻く環境は大きな変革を続け、福祉・介護に係る市場化が急激に進んだ。福祉・介護の分野が大きな市場となったことで大手民間企業等の介護事業参入が相次ぎ、社会福祉法人という非営利法人としての役割を果たすことと同時に企業として「経営」を常に意識していくことが必要となった。「経営」を意識することにより、当法人が提供するサービスの質、量、また地域のニーズに合わせた事業展開を進めていくことに繋がり、平成１２年当時と比較し、事業収入、職員数ともに約１．５倍まで規模を拡大することができた。当法人が、措置から経営という国の方針に合わせた経営改善、意識改革を図ることができたことにより、良い方向で経営・運営を推進することができている結果であると考えている。

また、介護保険法、障害者総合支援法の改正による度重なる介護報酬のマイナス改定に対しては、法人の運営する入居型施設、在宅型サービス事業所において、リーダー・主任等の職員による実績管理と係長職以上の職員による経営分析、業績管理を行い、好循環経営を目指し取り組んできた。その他、新規加算取得への多職種でのチームアプローチ、配置医師、歯科医、協力病院とのネットワークの強化等により、入居型施設、在宅型サービス事業所ともに安定した経営を継続することができている。

さらに、平成２９年度に創設した通所事業部においては、通所事業に特化した事業管理を行うとともに、新規通所事業所の開設に向けて準備を行ってきた。業界の方向性、地域のニーズ、また当法人の通所事業所種別等を考慮し、パワーリハビリー中心の機能訓練に特化した高齢者デイサービスを平成３０年４月に常盤地区に開設することとなった。デイサービス開設に合わせて、地域事業部事務所も移転し、新たに常盤・芸術の森地区での事業運営を開始することとなり、当法人の基盤である石山地区から常盤・芸術の森地区まで法人の運営基盤を拡大することとなった。

今後の法人経営・運営に対する大きな課題としては、この業界全体の課題ともなっている介護人材の確保である。当法人では、早期に地道な採用活動を実践したことが功を奏し、平成２９年４月１日付新卒者採用９名、平成３０年４月１日付新卒者採用５名と概ね予定通りの新卒者の採用を実現することができた。今後、介護人材の不足がさらに加速することが予想されることから、その対策の１つとして平成２９年８月に事業所内保育所「ハピりす保育園」を開設した。ハピりす保育園の開設は、現在働いている職員の定着と育児と仕事の両立を目指す潜在的な介護人材の確保を目的としており、保育園開設により職員２名の定着（育休後復帰）と３名の新規職員の確保に繋げることができた。また、園児と当法人ご利用者が交流を図ることにより、ご利用者の生活にも良い効果をもたらしている。

当法人では、法人として「５つの視点」での経営目標を挙げ、各入居型施設、在宅型サービス事業所が、その具現化のために何を為すべきかを検討するとともに職員一人ひとりが経営の健全化に対し、正しい認識を持ち、主体的に努力することを目指してきた。平成２９年度においても、法人としての「５つの視点」に基づき、各入居型施設、在宅型サービス事業所の管理者、主任等が中心となり、真摯にその目標に向き合い、職員一丸となって取り組んでくれたことが、法人の安定した経営・運営に繋がっていると評価している。

## ２．法人の５つの視点

### （１）利用者の視点

・ご利用者、ご家族、職員間の良好な関係作りに向けた接遇の向上に取り組んだ結果、ご利用者、ご家族より「職員の表情が良くなった」「対応が丁寧になった」等の評価をいただくことができた。また、職員の定着率の向上が見られた。

・職員の知識、技術の向上へ向けた研修の実施、個別ケアの推進、グループケア、ユニットケアの充実等ご利用者のＱＯＬの向上に向け、専門的視点での関わりを深めた。

・「自立支援」の視点を持ち関わることにより、ご利用者の潜在能力を引き出すケアを実践し、和幸園では平成２９年度もご利用者全員が入居当日よりおむつのない生活を実現することができ、「日中おむつゼロ」を維持することができた。また、常食率８５％～９０％を維持し、口から食べる楽しみを継続する支援を実践している。

・協力医療機関となった南札幌脳神経外科、定山渓病院との連携強化により、ご利用者、ご家族に寄り添った医療の提供を継続することができている。さらに、ご利用者、ご家族の希望に即したターミナルケアを多職種協働により実践している。

・厨房業務の委託運営については、「握り寿司」「そば打ち」「バイキング」等、新たに「食の楽しみ」を重視した行事が増加し、専門業者への委託による良い効果が見えている。

・法人内研修を他法人事業所も含めた地域の複数事業所での合同研修として実施するとともに、各事業所においても独自に研修を実施した。職域リーダー向け研修の実施により、育成能力の向上を図るように取り組んだ。

・年２回の避難訓練を実施し、各種災害への危機意識を高めるとともに避難時における知識、技術の向上を図った。

### （２）財務視点

① 収入の安定確保

・各事業所により、実績の管理、報告を毎月行い、常に事業所の実績状況を把握できるようになった。

・係長以上の役職者が出席する経営者会議を毎月開催し、稼働率や利用実績の精査をすることで各事業所の役職者が常に経営を意識する土壌となり、稼働率の向上に繋がった。

・新規通所事業所として、パワーリハビリーを中心とした機能訓練特化型のデイサービスを開設することとなった。

・地域機関との関係強化により、ご利用者確保に繋がった。特に、通所事業所においては、他法人居宅介護支援事業所からの紹介ケースが増加している。

・各事業所が真摯にご利用者と向き合い、「自立支援」と「尊厳を守る」ケアを推進することで、ご利用者のＡＤＬ、ＱＯＬの向上に繋がり、地域の信頼を得てきた結果がご利用者の増加に繋がっている。

・各サービス事業所、居宅介護支援事業所との連携や病院関係等への直接的な情報提供の他、地域での介護予防事業の積極的な実施、地域貢献事業を含めた地域活動への参画を進めて関係強化を図った。

② 支出の適正化

・支出の精査

長期にわたり物品納入や委託契約等を締結している当法人契約業者に対し、他業者との見積り合わせや入札による業者見直しを行い、徹底したコスト削減を図った。

・予算執行状況の明確化
各事業所、職域責任者との予算作成により、実質的な数値を提示することで、コスト管理意識の強化を図るとともに、役職者の責務として計画的な予算執行の推進を図った。
・施設の老朽化対策として施設整備積立金、法人設立５０周年記念事業等として人件費積立金を各々計画通りに積み立てることができた。

**（３）人材視点（採用力と定着力の強化）**

・採用力の強化としては、ホームページを充実させ、働きやすい職場環境、資格取得のための支援体制、福利厚生の充実、各事業所の具体的な取り組み内容等、職員を中心にした情報発信に取り組んだ。また、全国の介護福祉士養成校とのパイプ作りのため、地道に情報発信活動を実践した。
・定着力の強化としては、新任職員の育成のために研修プログラムやプリセプター制度の充実を図るとともに、職員とのコミュニケーションを充実させ、離職者の減少に努めた。
・「職場定着促進事業」として、セクションごとに交流研修会を開催し法人より職員一人３，０００円の助成金を支給した。職場を離れての交流はお互いを知る好機となりチームワークの強化に繋がっている。
・介護職員処遇改善金の支給の他、全職員に対し謝礼金「ありがとう」の支給を実施した。また、平成２９年度より夜勤手当の増額支給を実施した。
・介護福祉士資格取得のため、法人内職員が講師となる受験対策勉強会を定期的に開催するとともに、介護福祉士養成大学助教授を講師に招き、受験直前対策講座を開催、高い合格率となった。
・内部研修、外部派遣研修への参加や外部研修講師としての職員派遣により、知識、技術の向上に努めた。
・ワークライフバランスの取り組みを継続し、育児休暇、介護休暇、有給休暇の取得、５日から７日の連続休暇の取得推奨に取り組んだ。また、ノー残業デイ実施日を統一したことで実施率の向上を図ることができた。さらに、職員の安定化、各種ソフトの導入により時間外勤務が減少したこと及び、有休や時間外等の申請がペーパーレスとなり資料のデーターベース化により閲覧・承認が早くなり紙の印刷コスト削減を行うことができた。

**（４）地域視点**

① 地域貢献事業

・地域の高齢者、障がいをお持ちの方々等の外出支援を行う「いしやま朝市送迎バス」を運行した。利用される方が増加し、地域に喜ばれる活動として評価を受けている。
・認知症の方の介護をしているご家族（地域の方）を対象に、認知症によるＢＰＳＤ（行動・心理障害）を竹内理論の実践を通して消失、改善を図ることで認知症のご本人、ご家族ともに平穏な日常を取り戻していただきたいとの目的で「認知症状改善塾」を開講した。
・「介護なんでも相談」（１回／月）を開催し、約９年が経過した。会場を提供していただいているイオン藻岩店様と連携し、地域の方々が買い物の際に気軽に介護相談できるような環境整備に取り組んだ。
・平成２１年度から実施している職員有志での地域のごみ拾いを年２回実施した。年々、ごみ拾いに参加する職員も増加し、職員個々の地域への貢献意識の高まりも感じられるようになってきた。
・近隣幼稚園との交流の継続と小・中・高校生、福祉・医療分野の専門学校生の見学、職業体験、実習を積極的に受け入れ、将来の福祉、医療、介護を担う人材作りに取り組むことができた。

② その他

・地域関係機関の会合等への参加と広報活動の推進を図った。(広報誌「かけはし」の発行、ホームページの定期的更新)

（5）ガバナンス視点

・平成２９年度は、改正社会福祉法を遵守し、定時評議員会、理事会を開催し、予算、事業計画、決算、事業報告、定款・規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の審議、決定及び報告を行った。また、会計、サービス内容の両面にわたる経営と運営の適正化に向けた監事監査を受けた。

・苦情解決第三者委員会、虐待防止第三者委員会を開催し、公正中立の立場での意見を聴取し、苦情の解決、課題の改善を図った。

・適正且つ迅速な試算表作成により、的確な経営管理を実践するとともに、毎月顧問会計事務所による監査、助言、指導を受け、より正確な会計管理を実践することができた。

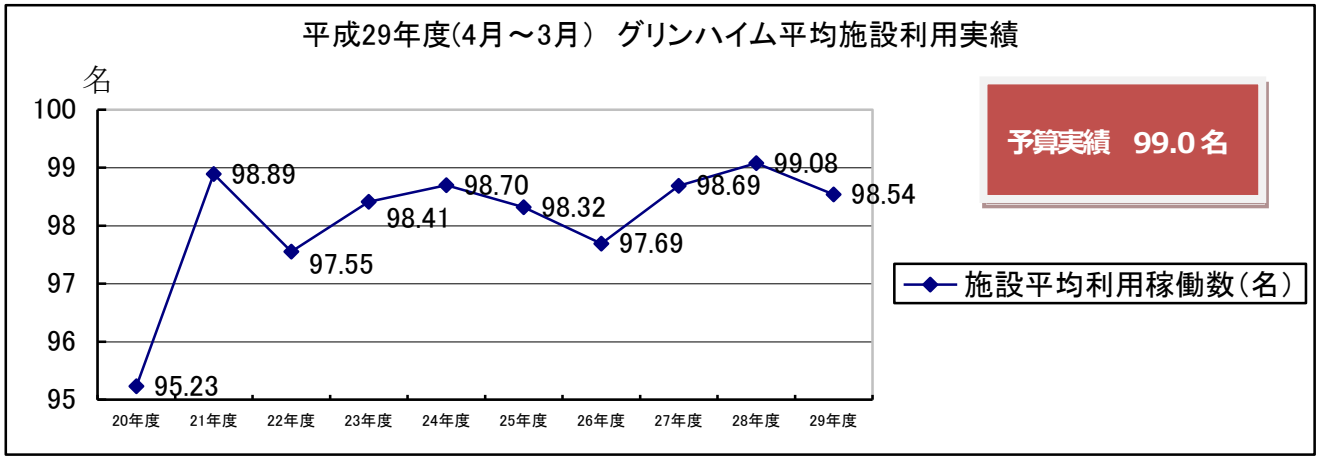
・介護業界を主な活動分野とする社会保険労務士と顧問契約を締結し、介護分野における労務管理に関する助言、指導を受けると共に助成金の活用や申請に関する情報を得ることができた。

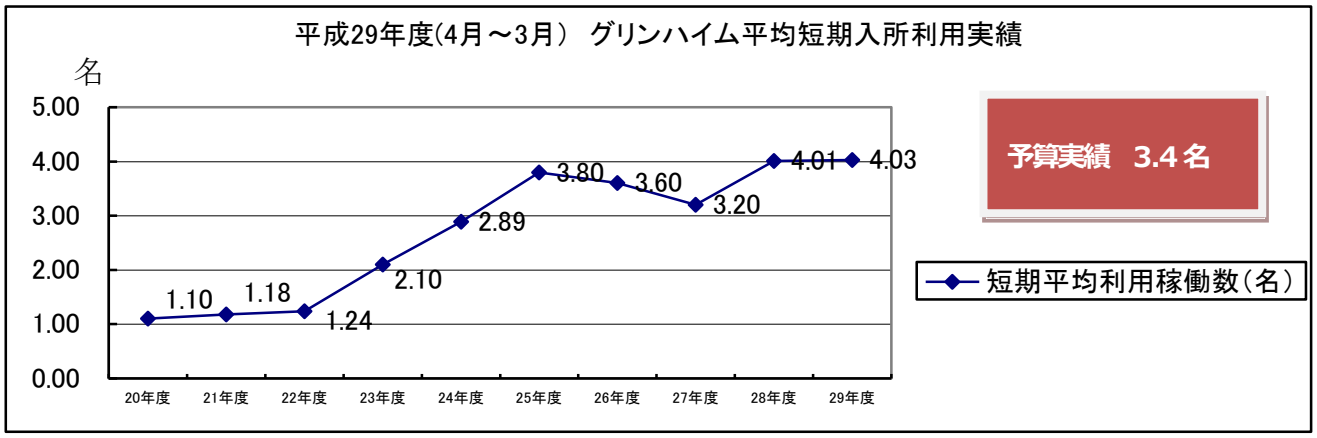
・情報公開、アカウンタビリティ（説明責任）の推進のため、内部ではインフォメーション等を使用し、外部へはホームページや広報誌「かけはし」、Facebook 等により情報発信を図った。

３．各事業所事業実績状況

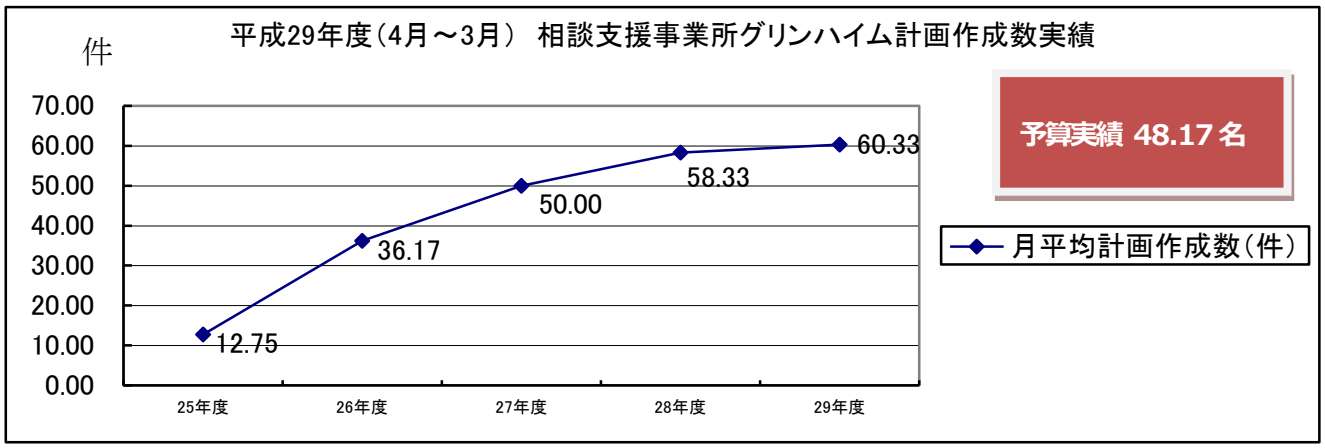
（1）グリンハイム管理区分

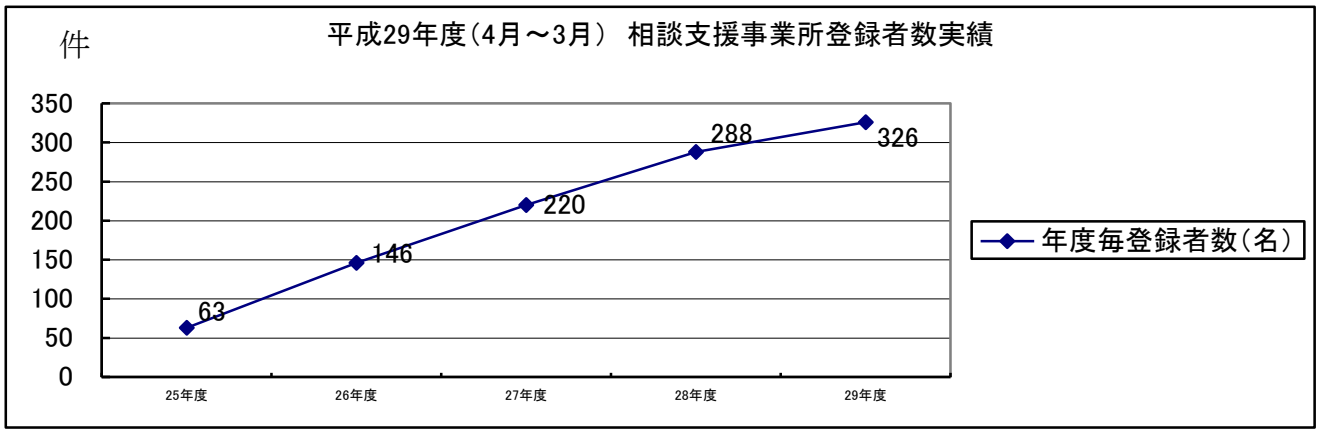
【障がい者支援施設グリンハイム】



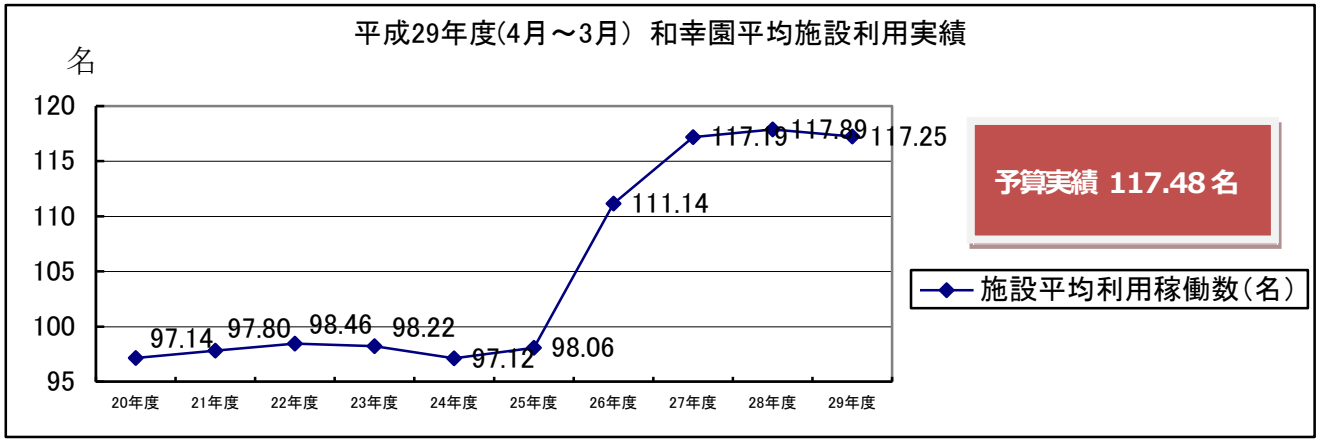
【相談支援事業所グリンハイム】

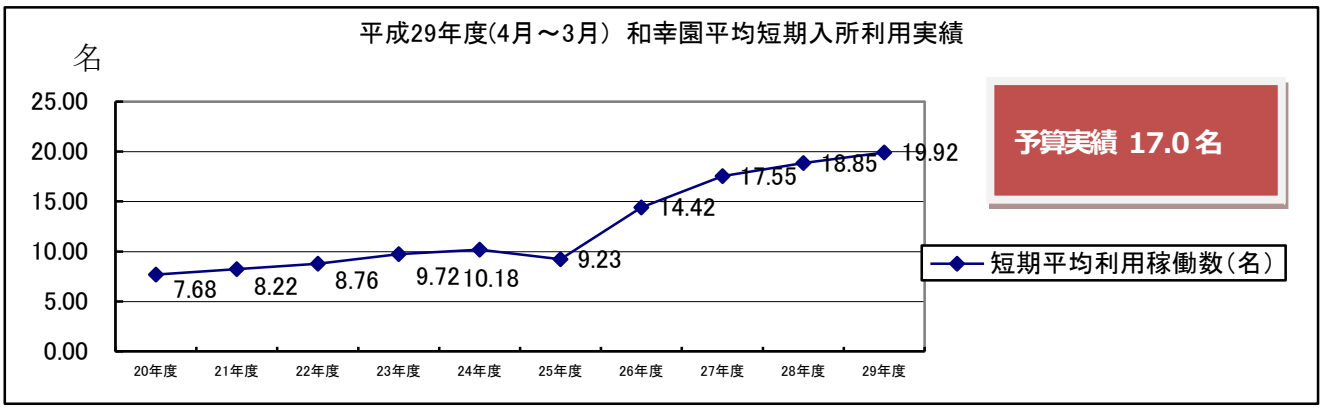



（２）和幸園管理区分

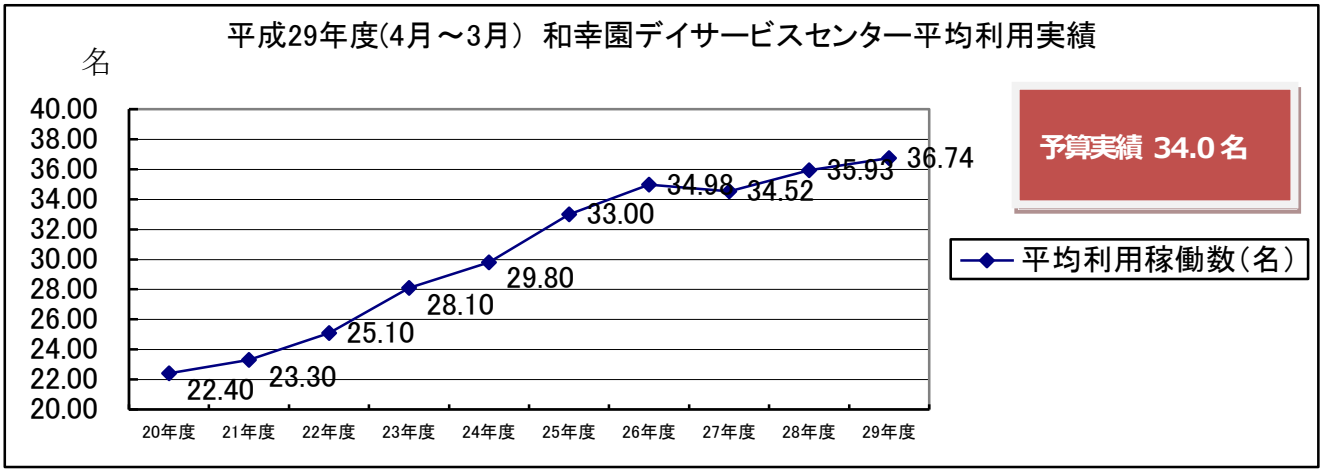
【特別養護老人ホーム和幸園】



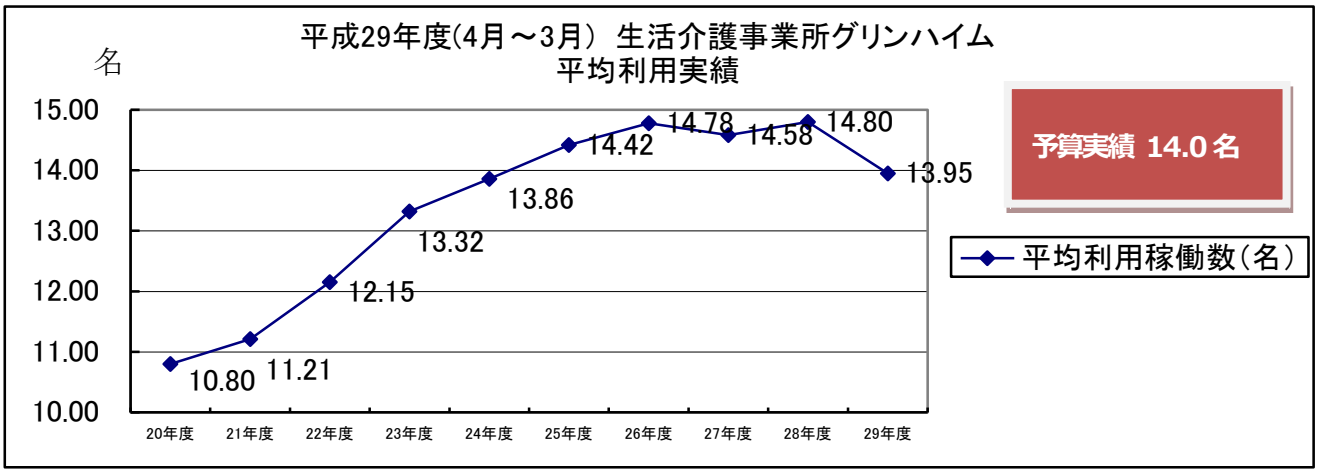



（3）通所事業部管理区分

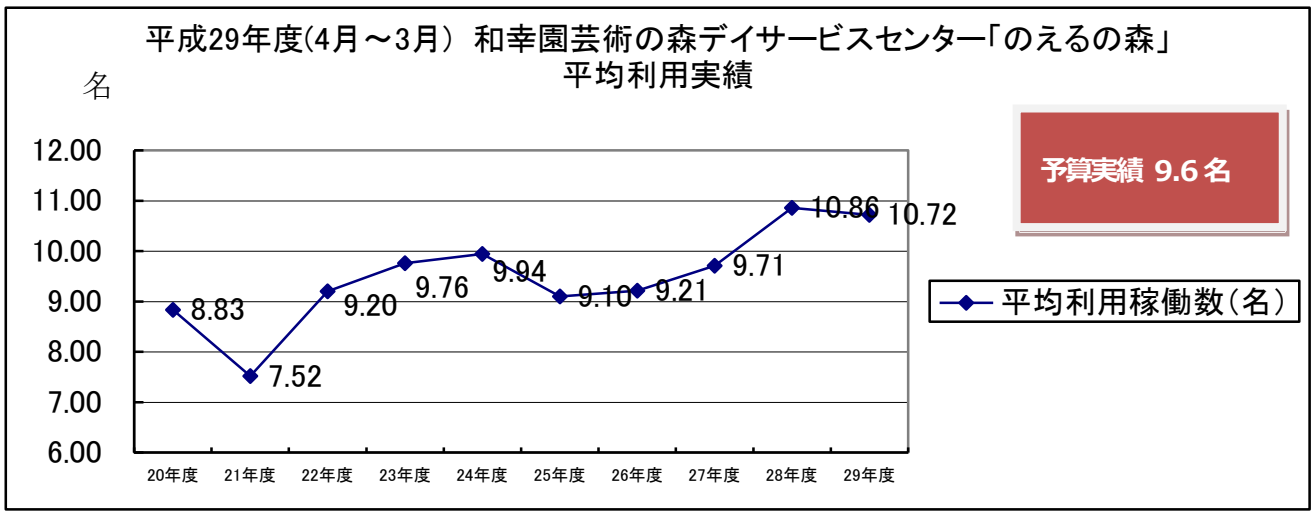
【和幸園デイサービスセンター】




【生活介護事業所グリンハイム】

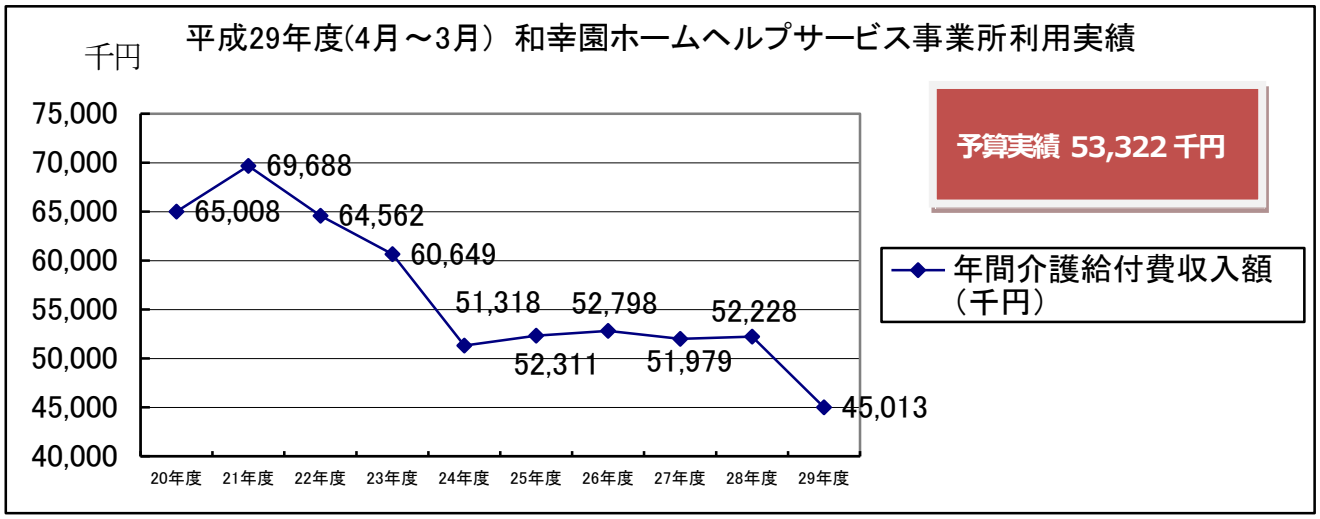


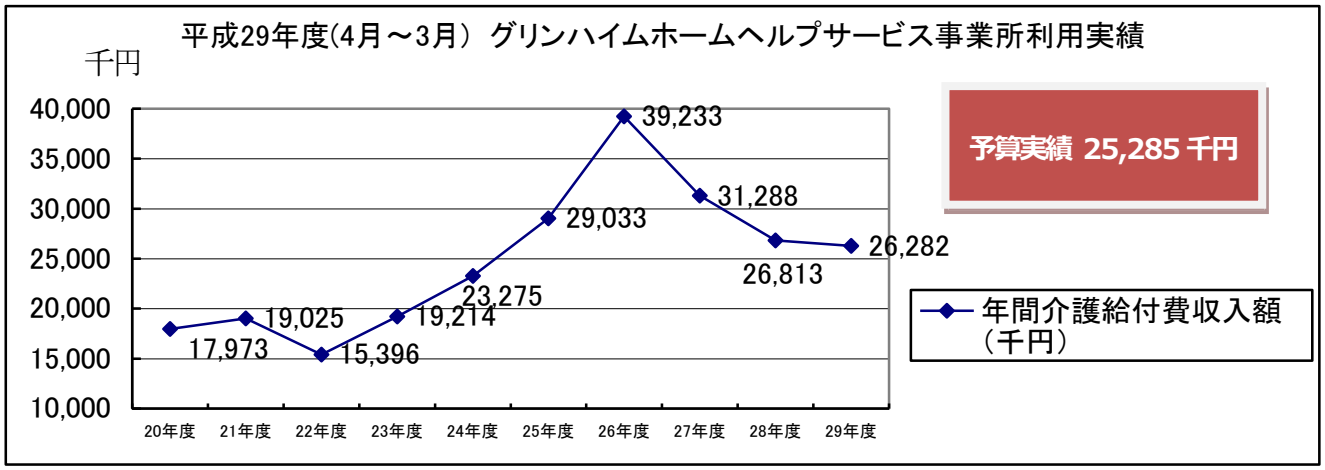
【和幸園芸術の森デイサービスセンター「のえるの森」】



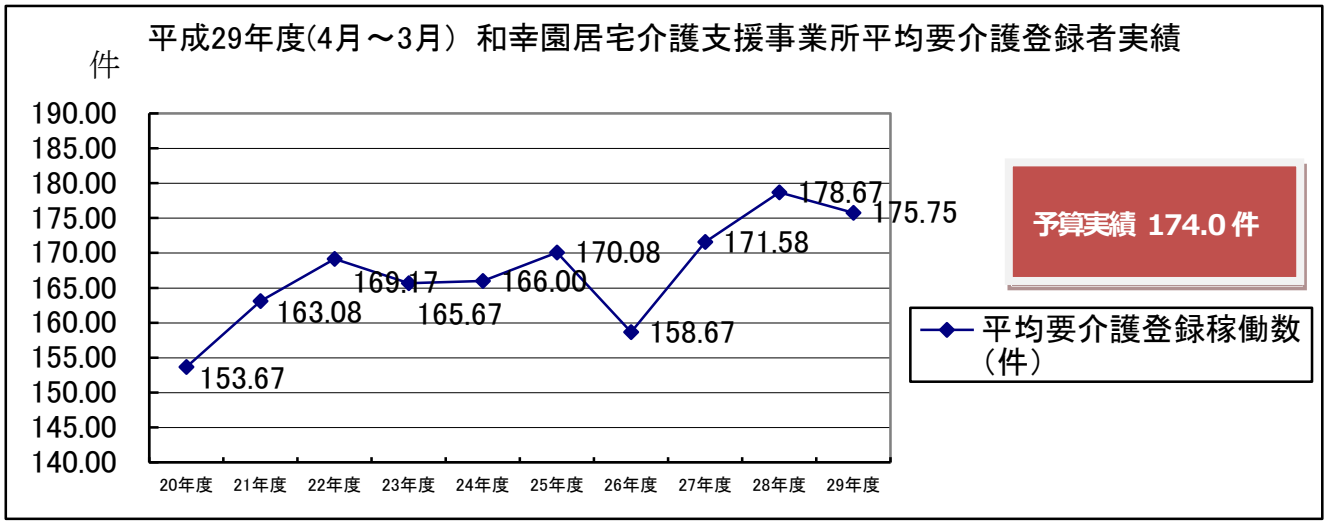

（4）地域事業部管理区分

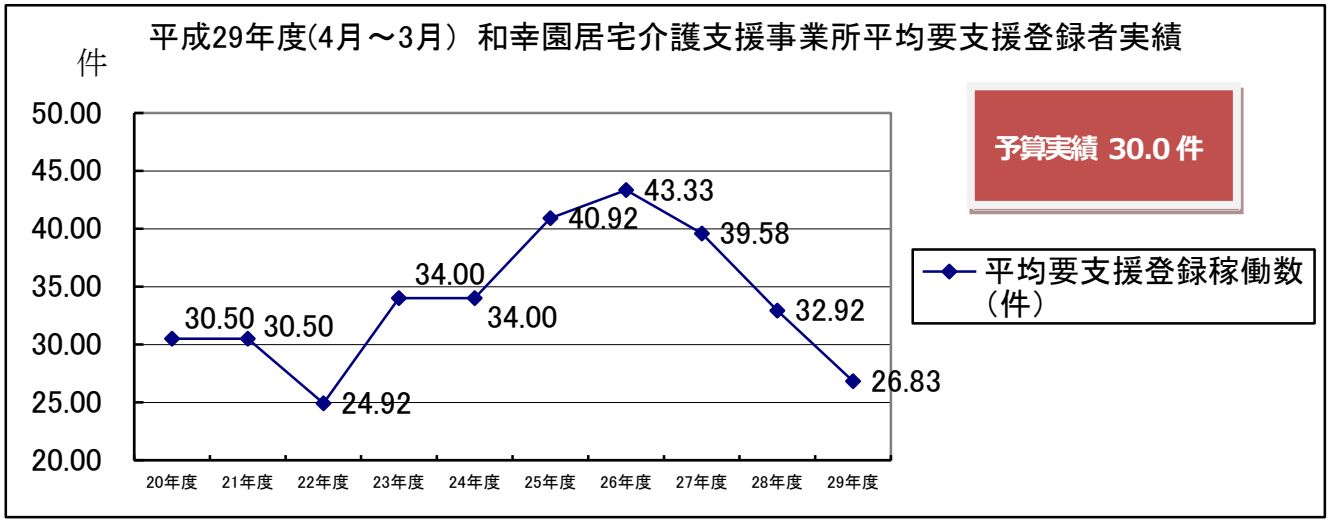
【ホームヘルプサービス事業所】



【和幸園居宅介護支援事業所】



# １．法人事務局

## （１）法人事務

法人事務局では、改正社会福祉法を遵守した法人運営を目指し、定時評議員会、理事会において、予算、事業計画、決算、事業報告、定款・規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の審議、決定を行うための運営支援を行ってきた。法人執行部が実践する経営・運営の改善に向けた法人運営施策への支援及び円滑な法人運営のための環境整備を行い、法人の経営・運営状態は良い状態を維持することができている。

法人事務経理部門については、リーダーを中心に経理業務を丁寧、正確且つ迅速に進めることに努め、時間外業務をせずに適正に業務を遂行することができている。また、法人事務総務部門については、給与・人事ソフトの本格運用を開始し、給与計算の短時間化や職員の勤務状況の正確な把握が可能となり、業務の効率化に繋がっており、時間外業務の削減を実現できている。

事務職員としてのご利用者との交流及びご利用者支援への参画については、平成２９年度も継続し、ご利用者行事等への参画を行った。公園清掃はグリンハイムご利用者と一緒に公園の清掃作業を行い、その後喫茶店での時間を共に過ごすことができた。グリンハイムご利用者に好評を頂いている事務喫茶は６年目を迎え、平成２８年度からは和幸園でも開催している。今後もご利用者と交流できる機会として、より内容を充実していきたい。

## （２）理事・評議員・監事（定数：理事６名、評議員９名、監事２名）

平成３０年３月３１日現在

| 役　　職 | 氏　　名 | 職　　業 | 任　　期 |
|---|---|---|---|
| 理事長・評議員 | 太 田 三 夫 | 弁護士 | 平成29. 6.10 ～ 平成31.6 |
| 常務理事 | 今 村 欣 子 | 総合施設長・通所事業部部長 | 平成29. 6.10 ～ 平成31.6 |
| 理　事 | 大 沼 百合子 | 前常務理事 | 平成29. 6.10 ～ 平成31.6 |
| 〃 | 佐 藤 史 彰 | 和幸園施設長 | 平成29. 6.10 ～ 平成31.6 |
| 〃 | 平 松 朋 紀 | グリンハイム施設長・法人事務局長 | 平成29. 6.10 ～ 平成31.6 |
| 〃 | 檜 森 道 子 | 地域事業部部長 | 平成29. 6.10 ～ 平成31.6 |
| 評　議　員 | 浅 香 博 文 | 札幌市身体障害者福祉協会 会長 | 平成29. 4. 1 ～ 平成33.6 |
| 〃 | 石 川 秀 也 | 北海道医療大学 非常勤講師 | 平成29. 4. 1 ～ 平成33.6 |
| 〃 | 岩 本 龍 明 | アイケン工業（株）代表取締役 | 平成29. 4. 1 ～ 平成33.6 |
| 〃 | 大 磯 英太郎 | 石山商店街振興組合 理事長 | 平成29. 4. 1 ～ 平成33.6 |
| 〃 | 北 山 和 子 | 札幌市赤十字奉仕団石山分団 団長 | 平成29. 4. 1 ～ 平成33.6 |
| 〃 | 千 葉　徹 | （福）札幌育児園 施設長 | 平成29. 4. 1 ～ 平成33.6 |
| 〃 | 塚 本 昭 一 | 南区老人クラブ連合会 前会長 | 平成29. 4. 1 ～ 平成33.6 |
| 〃 | 西 村　稔 | （福）札幌南福祉会 理事長 | 平成29. 4. 1 ～ 平成33.6 |
| 〃 | 福 士 昭 夫 | 石山地区町内会連合会 会長 | 平成29. 4. 1 ～ 平成33.6 |
| 監　　事 | 土 肥 富 彦 | 元道立福祉村 施設長 | 平成29. 6.10 ～ 平成31.6 |
| 〃 | 石 川 由 男 | 税理士 | 平成29. 6.10 ～ 平成31.6 |

（３）理事会開催状況

第１回　（日時）　平成２９年５月２５日（木）午後３時３０分から　グリンハイム会議室
（出席者）　太田三夫、青木　護、大沼百合子、今村欣子、佐藤史彰、檜森道子（理事６名）
土肥富彦、石川由男（監事２名）
平松朋紀事務局長（事務局１名）
（議題）　平成２８年度事業報告（案）について
平成２８年度決算報告（案）について
監事監査（平成２８年度全般）結果について
常務理事（業務執行理事）の選任について
事業所内保育園運営委託業者の選定について
定時評議員会の開催について
（報告）　評議員の退任（辞任届出）につい
（その他）　ハピニス祭の開催について
ご利用者、役員懇談会の開催について
苦情解決第三者委員会及び虐待防止第三者委員会の開催について

第２回　（日時）　平成２９年６月１０日（土）午後４時００分から　グリンハイム会議室
（出席者）　太田三夫、大沼百合子、今村欣子、佐藤史彰、平松朋紀、檜森道子（理事６名）
土肥富彦、石川由男（監事２名）
（議題）　任期満了に伴う役員（理事長）の選任について
任期満了に伴う役員（常務理事）の選任について

第３回　（日時）　平成２９年９月３０日（土）午後３時００分から　グリンハイム会議室
（出席者）　太田三夫、大沼百合子、今村欣子、佐藤史彰、平松朋紀、檜森道子（理事６名）
土肥富彦、石川由男（監事２名）
（議題）　平成２９年度 第１次収支補正予算（案）について
地域事業部事務所の老朽化等対策及び新規事業展開について
駐車場用地（南区常盤５条２丁目物件）の取得について
（報告）　監事監査結果報告について
評議員の退任について
ハピりす保育園の運営について
平成２９年度（４月～７月期）事業実績状況について

第４回　（日時）　平成２９年１２月２３日（土）午後１時００分から　グリンハイム会議室
（出席者）　太田三夫、大沼百合子、今村欣子、佐藤史彰、平松朋紀、檜森道子（理事６名）
土肥富彦、石川由男（監事２名）
（議題）　平成２９年度 第２次収支補正予算（案）について
グリンハイム建物増改築（ハピりす保育園）及び土地取得による基本財産組入れに伴う定款の改正について
就業規則の一部改正について
厨房業務委託契約の更新について
評議員会の開催について
（報告）　監事監査結果報告について
地域事業部事務所の移転及び新規事業展開について
平成２９年度上半期（４月～９月期）経営状況について

第５回　（日時）　平成３０年３月２９日（木）午後３時００分から　グリンハイム会議室
（出席者）　太田三夫、大沼百合子、今村欣子、佐藤史彰、平松朋紀、檜森道子（理事６名）
土肥富彦、石川由男（監事２名）
（議題）　平成２９年度 第３次収支補正予算（案）について
平成３０年度 事業計画（案）について
平成３０年度 収支予算（案）について
常務理事（業務執行理事）の退任について
理事候補者の選任等について
評議員候補者の選任等について
定款の改正について
就業規則及び経理規程、給与規程の改正について
（報告）　監事監査結果報告について
地域事業部事務所の移転及び新規事業の開設について
平成２９年度（４月～１月期）経営状況について

**（４）評議員会開催状況**

第１回　（日時）　平成２９年６月１０日（土）午後３時００分から　グリンハイム多目的室
（出席者）　浅香博文、岩本龍明、大磯英太郎、北山和子、高橋稀一、千葉徹、塚本昭一、西村稔、福士昭夫（評議員９名）
土肥富彦、石川由男（監事２名）
太田三夫、今村欣子、佐藤史彰、檜森道子（理事４名）
平松朋紀事務局長他９名（事務局１０名）
（議題）　平成２８年度事業報告（案）について
平成２８年度決算報告（案）について
監事監査（平成２８年度全般）結果について
新役員（理事・監事）の選任について
事業所内保育園運営委託業者の選定について
役員等報酬支給基準の制定について
（報告）　評議員の退任（辞任届出）について
（その他）　ハピニス祭の開催について
ご利用者、役員懇談会の開催について
苦情解決第三者委員会及び虐待防止第三者委員会の開催について

第２回　（日時）　平成３０年１月６日（土）午後３時００分から　ホテル札幌ガーデンパレス
（出席者）　石川秀也、岩本龍明、大磯英太郎、北山和子、千葉徹、塚本昭一、西村稔、福士昭夫（評議員８名）
土肥富彦、石川由男（監事２名）
太田三夫、今村欣子、佐藤史彰、平松朋紀、檜森道子（理事５名）
須藤看護係長他８名（事務局９名）
（議題）　グリンハイム建物増改築（ハピりす保育園）及び土地取得による基本財産組入れに伴う定款の改正について
（報告）　監事監査結果報告について
評議員の退任について
地域事業部事務所の移転及び新規事業展開に伴う建物賃貸借契約及び土地の取得について
ハピりす保育園の運営について
平成２９年度上半期（４月～９月期）経営状況について

（５）ご利用者・法人役員懇談会開催

（日時）平成２９年　７月２３日（日）午後２時００分～

（６）苦情解決第三者委員会開催

（日時）平成２９年　７月２３日（日）午後３時００分～

（７）職員表彰関係

| 表　彰　内　容 | 受　賞　内　容 | | |
|---|---|---|---|
| 全国老人福祉施設協議会 | 15 年勤続 | 和幸園 | 2 名 |
| | 20 年勤続 | 和幸園 | 1 名 |
| 北海道社会福祉協議会長表彰（北海道社会福祉協議会） | 20 年勤続 | 和幸園 | 2 名 |
| | | ｸﾞﾘﾝﾊｲﾑ | 1 名 |
| 札幌市社会福祉事業表彰（札幌市社会福祉協議会） | 15 年勤続 | 和幸園 | 1 名 |
| 長期勤続職員表彰（北海道民間共済会） | 5 年勤続 | ｸﾞﾘﾝﾊｲﾑ | 5 名 |
| | | 和幸園 | 4 名 |
| | 10 年勤続 | ｸﾞﾘﾝﾊｲﾑ | 4 名 |
| | | 和幸園 | 2 名 |
| | 20 年勤続 | ｸﾞﾘﾝﾊｲﾑ | 1 名 |
| | | 和幸園 | 2 名 |
| | 30 年勤続 | ｸﾞﾘﾝﾊｲﾑ | 1 名 |
| 全国身体障害者施設協議会 | 15 年勤続 | ｸﾞﾘﾝﾊｲﾑ | 2 名 |
| 永年勤続表彰（北海道ハピニス） | 10 年勤続 | ｸﾞﾘﾝﾊｲﾑ | 4 名 |
| | | 和幸園 | 2 名 |
| | | 和幸園デイ | 1 名 |
| | | ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟｻｰﾋﾞｽ | 1 名 |
| | | 芸術の森 | 3 名 |
| | 20 年勤続 | ｸﾞﾘﾝﾊｲﾑ | 1 名 |
| | | 和幸園 | 2 名 |
| | | ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟｻｰﾋﾞｽ | 1 名 |
| | 30 年勤続 | ｸﾞﾘﾝﾊｲﾑ | 1 名 |

（８）防災訓練実施状況

| 実　施　日 | 実施内容 | 指　示　条　件 |
|---|---|---|
| 平成29年6月2日（金） | 通報・ご利用者の避難誘導<br>消火器の取り扱い | グリンハイムより出火想定訓練(南側へ避難)<br>①出火想定時間及び場所<br>夜間想定、午後11時00分<br>グリンハイム本館2階北側居室202号室<br>②他階・和幸園及びデイサービスでは<br>日中想定訓練(午前11時00分) |
| 平成29年10月6日（金） | 通報・ご利用者の避難誘導<br>消火器の取り扱い | 和幸園より出火想定訓練（3丁目側へ避難）<br>①出火想定時間及び場所<br>夜間想定、午後11時00分<br>和幸園（2階）2条1丁目9番地（居室）<br>②他階・グリンハイム及びデイサービスでは<br>日中想定訓練（午前11時00分） |
| 平成29年11月15日（水）<br>平成29年11月17日（金） | 札幌南消防署の指導の下、職員20名が水消火器を使用しての消火訓練 | |

（９）業務委託状況

| 業　務　内　容 | 委　託　先 |
|---|---|
| 施設厨房業務 | 北海道フジフードサービス（株） |
| 夜間警備業務 | 北海道東急ビルマネジメント（株） |
| 送迎車輌運転業務 | 北海道東急ビルマネジメント（株） |
| 清掃業務 | (株)シムス |
| 昇降機定期点検業務 | ＳＥＣエレベーター(株)<br>三菱電機ビルテクノサービス(株) |
| 専用水道水質検査業務 | (財)北海道薬剤師会公衆衛生検査センター |
| 自動ドア保守点検業務 | フルテック(株) |
| 非常火災設備保守点検業務 | (株)ネットワークイン |
| 冬期除雪業務 | (有)小林重機 |
| デジタル交換機保守 | 新日本通信工業(株) |
| 税務・会計顧問 | 税理士法人幌西会計 |
| 労務・総務顧問 | 社会保険労務士事業所テラス |
| 職員検診 | 医療法人社団明日佳　札幌検診センター |
| ストレスチェック | 医療法人社団五稜会　札幌ＣＢＴ＆ＥＡＰセンター |

（１０）法人建物・車輌の維持管理

① 建物

| 実　施　内　容 | | |
|---|---|---|
| 年間 | 電気設備点検（グリンハイム・和幸園）<br>専用水道水質検査（グリンハイム・和幸園） | ［北海道電気保安協会］<br>［道薬検］ |
| ４月 | 貯水槽清掃　（グリンハイム・和幸園） | ［小川技研］ |
| ６月 | 厨房用ヒートポンプ外調機点検整備 | ［正栄機工］ |
| ８月 | 厨房グリストラップ清掃<br>エコキュート点検整備（グリンハイム） | ［小川技研］<br>［前川製作所］ |
| ９月 | 消防用設備保守点検　（グリンハイム・和幸園） | ［ネットワークイン］ |
| 10 月 | 汚水槽清掃点検（グリンハイム・和幸園）<br>ユニット内食堂洗面廻り改修工事（和幸園） | ［小川技研］<br>［東栄工務店］ |
| 11 月 | 厨房用ヒートポンプ外調機点検整備 | ［正栄機工］ |
| 12 月 | エコキュート点検整備（グリンハイム） | ［前川製作所］ |
| ３月 | 消防用設備保守点検　（グリンハイム・和幸園）<br>１号ボイラー点検整備 | ［ネットワークイン］<br>［NTEC サービス］ |

② 車輌

車輌台数　年度末２９台／車検１２台実施

| 所　　属 | 台数 |
|---|---|
| グリンハイム・和幸園職員送迎バス | １台 |
| 障がい者支援施設グリンハイム | ４台 |
| 特別養護老人ホーム和幸園 | ３台 |
| 和幸園デイサービスセンター | ６台 |
| 生活介護事業所グリンハイム | ３台 |
| 和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森 | ３台 |
| 和幸園指定居宅介護支援事業所 | ４台 |
| グリンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所 | ３台 |
| 和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森 | ２台 |
| 計 | ２９台 |

（１１）ご利用者預り金管理

| 区　　分 | 預かり人数 | 預り金残高（平成 30.3.31） |
|---|---|---|
| グリンハイム | 98 名 | 218,030,690 円 |
| 和幸園 | ８名 | 1,878,819 円 |

（１２）施設内研修

| NO | 研　　修　　名 | 開催日 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「ワークライフバランスを実現するためのチームワークについて」<br>社会保険労務士事務所メディアケアリンク千歳<br>代表　及川　進　氏 | 平成 29 年 6 月 9 日 | 91 名 |
| 2 | 「なぜ人は支え合うのか～相模原市障害者支援施設殺傷事件を踏まえて～」<br>ノンフィクションライター　渡辺　一史　氏 | 平成 29 年 8 月 16 日 | 94 名 |
| 3 | 「人とのかかわり・発想の転換～しんどい時ほど笑え～」<br>日本笑い学会<br>講師　古屋　良一　氏 | 平成 29 年 10 月 6 日 | 95 名 |
| 4 | 「事例から学ぶ介護事業者の事故対応」<br>あいおいニッセイ損保(株)代理店<br>(有)オフィスブレイン<br>代表　佐々木　厚史　氏 | 平成 29 年 12 月 6 日 | 85 名 |
| 5 | 「介護福祉士受験対策講座」<br>旭川大学短期大学部　生活福祉専攻<br>助教授　宮下　史惠　氏 | 平成 30 年 1 月 10 日 | 23 名 |
| 6 | 「人と認知症と向き合うということ」<br>(有)グッドライフ　グループホームアウル<br>総合施設長　宮崎　直人　氏 | 平成 30 年 2 月 26 日 | 68 名 |

（１３）地域貢献活動

・介護なんでも相談会
　イオン藻岩店様店内特設ブースにて年１１回相談会を開催
・認知症状改善塾
　平成２９年４月から平成３０年３月までの期間で２期、全１２回開催
　地域住民から２期合わせて３３名の参加
・いしやま朝市送迎バス
　毎月２回地域住民が「いしやま朝市」へ参加するための送迎バスの運行を実施
・地域福祉活動
　町内会ゴミ拾い(年２回)
　　第１回　平成２９年　５月
　　第２回　平成２９年　１０月

（１４）広報活動（広報委員会）

平成２９年度は広報活動強化の為、人員体制の変更及び委員の改選を行い新体制での委員会運営を開始する。

・広報誌「かけはし」の作成（年３回発行）
　平成２９年６月発行（４１号）、平成２９年１０月発行（４２号）、平成３０年１月発行（４３号）
・ホームページ及びFacebook の運営

## ２．障がい者支援施設　グリンハイム

### １．総括

平成２９年度は、施設長の交代により、新しい組織体制での施設運営となった。施設長、看護係長、生活係長、相談係長が施設運営の核として定期的な役職者会議を開催し、施設の方針の決定、経営、運営状況等の確認を進めながら着実な施設運営と組織改革に取り組んできた。また、役職者会議での検討内容を主として、主任会議をはじめとした各種会議、委員会へ情報発信を行うという形で透明性の高い組織体制を構築することを意識し取り組んできた。

この組織体制の下で、平成２９年度の施設運営の柱を「職員定着率の向上」と「安定した施設経営の推進」として、係長をはじめとした職員が一丸となって取り組むことができた。その結果、「職員定着率の向上」については、１年を通じて退職者３名（平成２８年度退職者２３名）と高い定着率を達成することができた。この１年間は、施設長・生活係長による職員全員との個別面談の実施や主任、リーダー、プリセプターとの新人職員の育成状況の確認とフォローアップ面談を継続して実施してきた。そのことにより、施設全体で職員を育成、フォローアップするという体制ができ、職員間の良いコミュニケーションを推進することができたと考えている。また、ご利用者はもとより、職員の働きやすい環境を創ることを目的として実践した「接遇向上Challenge」研修についても、職員間の良いコミュニケーションの促進に効果があったと考えている。さらに、「接遇向上Challenge」研修に取り組んだ効果として、「ご利用者家族会」でのアンケート等により、「職員が明るくなった」「対応が良くなった」「接遇ができている」等の非常にありがたい言葉をいただくことができた。これらは、職員が創り出した実績であり、このことが日頃のケアに結びつき、支援の質、量の向上に繋がるものとなっている。例えば、グループ毎の行事やクラブ活動、全体行事等、職員の創造力を発揮した新しい取組みを実践することができているとともに、ターミナルケアの実践等の専門性の高いケアを実践することもできた。その他、「接遇向上Challenge」や「日誌ソフトプロジェクト」においても、組織としての機能をしっかりと働かせることで、職員個々が持ち味を発揮する素晴らしい活躍を見せてくれた。

次に「安定した施設経営の推進」については、施設入居実績９８．５４％（予算比▲０．４６％）、ショートステイ１００．７５％（予算比＋１５．７５％）との結果となり、総合実績において予算実績を上回るものとなった。例年と比較し、退去者、入院者（外泊者）が多い中で、入居部門の空床をショートステイに利用する等のベッドコントロールを行い、高い実績を維持することができ、安定した施設経営に繋げることができた。

最後に、次期リーダー候補の選定と育成を年度後半から進め、平成３０年度には新規にリーダーと主任を２名ずつ昇格するとともに、職員育成を目的としたグループ間、事業所間、職種間の人事異動を行い、次期の役職者の育成にも着手し始めることができた。

１年を通じて、職員体制が安定したことにより、しっかりと地盤を固めるための職員育成と職員が安定したことでのチームケア力の向上に努めることができたと評価している。

### ２．本年度の重点目標

**【相談係】**

**① 利用実績の安定・向上を目指す**

施設入所の利用実績は平均利用人数９８．５４名であり、目標に掲げていた９９．００名には届かなかった。要因として前年度よりご利用者の外泊による不在が５７日増加し、入院による不在が４１日増加したことがあげられる。外泊や入院による不在はご利用者やご家族の状況に左右される部分が大きいが、入

院については、次年度も各医療機関の医療相談員と連携を図り、現状の把握や退院の目処などの情報収集をこまめに行うことで入院期間短縮への取り組みを行っていきたい。

**② 法人統括事業推進課、法人内の障がいサービス事業所と連携を図りながら、ご利用者が利用しやすい包括的なサービス提供を行い、利用者確保に努める**

今年度は戦略会議を開催せずに、相談係会議を通して実績確認や、利用者確保に向けた取り組みを行った。待機者状況は、男女ともに新たな入所申込み者は少なかったが、年度末にかけて入所相談や申し込みがあり、待機者増に繋がっている。次年度も安定的な施設運営のため、広報活動を展開しながら待機者確保に努めていきたい。また、法人内の障がいサービス事業所間では、連携を図りながらご利用者支援に繋げることができているので、次年度も継続しながら利用者確保に努めていきたい。

**③ 職員間での情報共有を密にし、ご利用者の多様なニーズに応えられる支援体制を構築する**

相談係内では定期的な会議開催や日々の業務連携のなかで、ご利用者情報を共有し支援に繋げることができた。また、他部署との情報共有についても、各種会議やケース記録、日々のコミュニケーションを通した情報共有ができたことで、多岐に亘るご利用者のニーズに対応できたと考える。今年度は、相談員を２階、３階、西館ごとに担当相談員として配置することで、介護職員を中心に他部署との連携や情報共有が円滑になったと考えている。一方で、相談員として、担当以外のご利用者状況が見えづらくなっている傾向があるため、次年度は個々の相談員が施設全体の情報を共有できる方法を検討していきたい。

**④ 職員の適切な業務分担と業務の効率化を行い、支援課としての時間外労働削減を目指し、ワークライフバランスの向上・人件費の低減を図る**

業務については、新たに内部異動で通院介助専門のパート職員を置くことで、相談員がすべき業務を施設内で行う時間を増やすことができた。また、２階、３階、西館ごとに担当相談員を配置することで、職員間の連携がスムーズ行うことができ、相談員の時間外労働約４００時間の減少に繋がったと考えている。次年度は、業務の効率化について検討しながら、職員のワークライフバランスの向上を目指していきたい。

**⑤ 各種加算の確実な実施、コンプライアンスの遵守**

体制加算である重度障害者支援加算、栄養ケアマネジメント加算は、継続的に算定することができた。また、リハビリテーション加算対象者については、目標としていた６０名を維持できている。次年度は対象者の長期入院や退所を想定し、加算対象者を１～２名増加する予定としている。重度障害者支援加算については、加算算定を継続するために、看護課や配置医である南札幌脳神経外科と連携しながら体制を構築していきたい。

**⑥ 制度改正の内容（単価、加算要件等）について十分理解し、改正の内容に即した事業展開を図る**

障害支援区分について、２９年度は入所者のうち２６名の認定調査があり、うち４名の区分が上がっている。障害支援区分で重度に当たる区分５、６の割合は年度末で８２％と前年度末８４％と大きく変わっていない。また、状態像変化による区分変更については、次年度に数名を予定している。今後も引き続き、ご利用者の状態像把握に努め、通常の認定調査のほか、中途で状態が変わった場合の区分変更についても検討し対応していきたい。また、次年度は制度改正による介護報酬の変更があり、施設入所は基本単価や算定している加算が一部微増した。

【生活係】

① ご利用者の２４時間シートと個別支援計画書に基づく介護サービスの実施

新規入所ご利用者とターミナルケアご利用者に２４時間シートを作成し、活用した。２４時間シートを作成することで、ご利用者個人のニーズに目を向け、全体介護から業務の見直しを行う事は、今後の課題となる。個別支援計画書は３か月での見直しを行い、職員の再確認と計画の実施達成に成果があった。

② 介護事故の防止に努める

転倒・転落・服薬事故の発生はあったが、昨年度と比べ「ヒヤリ」としてのケースも多くあり注意観察することで事故を未然に防げたことも多かった。防止策の内容からも、マニュアルや環境整備、介護の中での観察と気づきが持てる職員育成が課題となる。

③ 介護職員の定員を充足させ安定稼働を行う

今年度も職員育成に時間を要し、時間外勤務の劇的な解消には繋がらなかったが、職員の定着を目指した新人育成に力を入れたことで、職員の退職に伴う負担は大きく減少した。また、職員の有休消化率も向上し、連休も希望しやすくなったことで、職員の働きやすい環境創りを進めることができた。次年度も新人職員の定着を目指した育成を継続していく。

## ３．法人の５つの視点に対する取り組み

### （１）利用者視点

【相談係】

入所については、２階、３階、西館に担当相談員をおくことで、相談員一人ひとりが担当者として責任を持ちながらご利用者、ご家族と向き合い、ご利用者が「その人らしい生活」を送れるよう個別支援計画の立案をすることができた。担当相談員をおくことで、ご利用者やご家族にとっても、職員にとっても誰に相談すると良いのかが明確になり、円滑な情報共有やご利用者支援に繋げることができたことは多きな収穫であったと考える。

ご利用者の外出支援や、日中活動、行事等についても、レク係会議を開催しながら、職員の想像力を発揮した取り組みを実践することができ、ご利用者の楽しみや喜びに繋がる結果となった。

施設内虐待防止員会で啓発活動や研修を開催しながら、身体拘束廃止委員会では、身体拘束状態の解除に向けた取り組みを行いながら、検討を継続している。

短期入所については、引き続き担当相談員を中心にご利用者やご家族と連絡を密に取りながら、ニーズに合わせた利用に繋げることができた。また、生活係や看護課の理解や協力を得ながら、新規のご利用者を受け入れることもでき短期入所事業としての役割を発揮することができたと考えている。

【生活係】

入所のご利用者の個別ニーズについては、各担当が、相談係や他セクションとも連携を取り、実現に向けた取り組みができた。しかし、障がいや身体状況の変化にいち早く対応するための利用者アセスメントに取り組めず、一時的な防止策で終わる事故・介護ケースがあった。今年度も超低床ベッドを導入し、使用することで転倒・転落防止に努めた。体調不良または転倒・転落など事故発生時には看護課と相談員・介護職員が連携を取り、早めに受診する事ができ、また、ご家族への連絡の際も受診の結果をお知らせすることで安心して頂くことができた。介護において、体調不良で無い限り離床し、人との交流の中で刺激を受ける生活が、すべてのご利用者に提供できるよう、限られた時間の中で職員がミニカンファレンスを

行い、問題解決と情報共有を行った。緊急ショートの受け入れはベッドに空床がある限り今までと同じように対応することとした。職員の言葉や態度が虐待に繋がらない事を目標に虐待防止委員会でも取り組んできたが、ご利用者、ご家族等からご指導を受ける事もあり、職員への周知と理解が進んでいない事が課題となった。

今年度はノロウイルス・インフルエンザの感染流行が無く経過した。職員の感染に対する意識が高く、手指消毒や環境整備を重点的に行なった。感染レベル表のマニュアルに従う事で職員も感染に対する素早い対応ができるようになった。

短期入所では利用されるご利用者の状況に合わせた介護を提供すべく相談員、介護員、看護師、栄養士、訓練士と連携して実施することができた。受け入れの際、介護に透明性を持つため２４時間表を作成し、夜間の状況確認等も行い、介護の内容に不明な点が無いよう検討を重ね、受け入れを行なった。忘れ物や記録漏れがあり、この点については次年度の課題となった。

**（２）財務視点**

入所の実績目標９９．００名に対し、９８．５４名の結果となった。毎月相談係会議を開催しながら、実績の確認を行い、入院者の情報収集や事前のインテーク調整を行った。しかし、上半期において、ご利用者の退所が相次ぎ、入所前インテークが間に合わない状況があったが、可能な限り空床期間を最小限にできるよう調整を行った。１年を通して退所者は過去５年で最も多い９名であった。

短期入所については、実績目標３．６名に対し４．０３名の結果であり、昨年度に引き続き高い実績を維持することができた。ご利用者のニーズに対する職員の理解や、受け入れにあたっての事前準備や専門性の高いケアの実践が適切になされた結果であるとともに、入院者の空床ベッドの活用が目標達成の大きな要因となった。

**（３）人材確保と育成**

**【相談係】**

１年を通し相談員間でこまめにコミュニケーションを図りながら業務にあたることができ、相互の信頼関係を深めることができたと感じている。また、職員一人ひとりの状況を踏まえた業務分担や、研修参加を推進することで、個々のスキルアップに繋がっていると考えている。次年度に向けては、相談員として必要な知識や技術のさらなる獲得に向けて、内部の勉強会を実施しながら、相談員としての支援の質を高めていきたい。

**【生活係】**

職員育成マニュアルに従い新人職員の業務の取得状況に合わせた育成を行ってきた。今年度は新人の離職者が無く継続して育成を行う事ができた。職員全員との面談を行なう事で職場の不安や問題解決に取り組むきっかけとなった。職員の「接遇」に対する研修や啓発により職員全体の意識に変化がでたとご家族からも評価を頂くことができた。今後も有休消化の取得促進を継続し「ワークライフバランス」の推進に努める。

今年度は、離職者が少なく、人員が安定した結果、昨年度までの課題であった主任・リーダーの有休消化率をあげることができた。今年度は、実習生から就職に繋がる事はなかったが、実習受け入れは継続し今後も入職を意識した学生実習を継続し、学校との関係強化を図る。

キャリア職員の役割としてどのフロアにも応援に行けるような育成が十分にできなかった為、次年度の課題となる。外部研修に関しては希望ある職員が参加し、職員に研修発表を行い、高い評価があった。

### （4）地域貢献の推進

施設見学として西野学園、北海道医療大学の学生や真駒内養護学校教諭を受け入れ、施設概要や提供サービス等の説明を行った。その他、定期的に真駒内養護学校もなみ学園分校の生徒による清掃ボランティアの受け入れも実施した。真駒内養護学校に関しては、教諭の皆様に施設入所や短期入所、生活介護について情報を提供することができ、卒業後の生活を支えるサービスを知っていただけたこと、学校との関係構築のきっかけになったことは有意義なものであったと考えている。

また、継続的に札幌ワンズ様にドッグダンスの練習場所として多目的ホールを提供している。練習前後には、ご利用者との触れ合いの時間を作っていただき、動物と触れ合える機会の提供にも繋がった。

虐待緊急保護ケースとして、江別市からの相談があり、１件のショートステイ受け入れを行った。来年度も、ショートステイベッド、入院者空床ベッドの状況をみながら、虐待等の緊急保護ケースの依頼があった際には迅速に情報を内部共有し、積極的に受け入れを進めていきたい。

### （5）ガバナンス体制の強化

定期的に実績記録や個別支援計画書等、各種計画書類の同意を確認しながら進め、適切に書類整備ができていると考える。次年度も、記録や計画書類の整備を行い、行政からの記録、書類の照会や実地指導等に対応できるよう体制を維持していきたい。

また、日々の業務において情報共有や業務改善は実施しているが、相談係会議を実施することで、相談員全員で種々の情報共有や支援方針を話し合うことができ、非常に有用であったと考える。次年度も会議の実施を継続し、ご利用者支援にあたっていきたい。

## ４．年間行事報告

| 行　事　名 | 実施日 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 常盤公園清掃 | 5～11 月隔週水曜(全 9 回) | 公園清掃を行い、地域の飲食店で交流を図る |
| 音楽レク・健身操 | 全 31 回<br>(基本的に毎月 3 回) | 講師とともに音楽と体操を楽しむ |
| 陶芸の日 | 全 12 回(毎月第 3 日曜) | 陶芸や日用品の工作を楽しむ |
| 事務喫茶 | 各グループ 1 回(全 5 回) | 事務員主催による喫茶店を実施 |
| グループ毎喫茶 | 各グループ 2 回(全 10 回) | グループ合同や単独で喫茶を楽しむ |
| セラピー犬 | 多目的ホール練習時 | 札幌ワンズ所属の犬と触れ合い |
| イトーヨーカドー<br>訪問販売 | 4 月 16 日、9 月 10 日、1 月 14 日 | 訪問販売により食品や衣類等を自ら購入する |
| ご当地フェア | 4 月 25 日、5 月 25 日 | フジフード主催、全国ご当地の食事を楽しむ |
| 春季合同避難訓練 | 6 月 2 日(金) | グリンハイム中心の火災避難訓練 |
| 移動動物園 | 6 月 21 日(水) | 前庭にて、動物たちと触れあう |
| 天ぷらバイキング | 6 月 9 日(金)、16 日(金) | 天ぷらとバイキング形式の食事を楽しむ |
| 焼肉昼食会① | 7 月 14 日(金) | 前庭にて焼き肉など屋外での食事を楽しむ |
| 焼肉昼食会② | 8 月 18 日(金) | 前庭にて焼き肉など屋外での食事を楽しむ |
| ハピニス祭 | 9 月 3 日(日) | 地域に参加を呼びかけての法人全体のお祭り |

| | | |
|---|---|---|
| 敬老の集い | 9月15日(金) | 65歳以上の方々を対象にお祝いと会食 |
| 秋季合同避難訓練 | 11月21日(金) | 和幸園中心の火災避難訓練 |
| 身障協避難訓練 | 10月15日(日) | 市内の障害施設が集まった合同訓練 |
| 蕎麦の日 | 10月18日(水)、20日(金) | フジフード主催、そばを楽しむ<br>目の前でそばを打つ場面を見て視覚的にも楽しむ |
| 仮装大会 | 11月17日(金) | グループごとにテーマを決めて仮装し、互いに披露し合い楽しむ |
| 寿司の日 | 11月7日(火)、8日(水)<br>13日(月)、14日(火)、15日(水) | フジフード主催、生寿司を楽しむ<br>目の前で寿司を握る場面をみて視覚的にも楽しむ |
| クリスマス忘年会 | 12月20日(水)、22日(金) | 会食と演芸やゲームを楽しむ |
| 餅つき | 12月27日(木) | 餅つきで季節感や臨場感を感じる<br>ご利用者にも体験していただく |
| 新春ゲーム | 1月1日（月） | グループ別のゲームに景品提供 |
| 節分 | 2月3日（土） | 年男・年女による豆まき |
| 鍋の日 | 2月9日(金)<br>3月9日(金) | 寄せ鍋やすき焼きを楽しむ |

## ５．事業運営状況及び事業実績

### （１）職員の配置状況

平成３０年３月３１日現在

| 職　名 | 配置基準数 | 現員数 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 施　設　長 | 1 | 1 | |
| 事　務　員 | 必要数 | 6 | |
| サービス管理責任者 | 2 | 2 | |
| 生活支援員 | 2<br>（常勤換算） | 4 | |
| 介　護　員 | | 59 | うち、非常勤7名（パート） |
| 看　護　師 | | 5 | 5名和幸園兼務、非常勤1名 |
| 理学療法士 | | 1 | |
| 医　　師 | 必要数 | 1 | 配置医 |
| 栄　養　士 | 1 | 1 | |
| 管　理　員 | ― | 3 | |
| 計 | ― | 83 | |

### （２）職員配置比率（定員／入居１００人、短期４人）

| 職　種 | 常勤換算（人） | 算出基準 | 配置比率 |
|---|---|---|---|
| 生活支援員 | 4 | 97.5人/66.9名<br>（基準97.5人/1.7＝57.35人） | 1.45人 |
| 介　護　員 | 57.5 | | |
| 看　護　師 | 4.4 | | |
| 理学療法士 | 1.0 | | |
| 計 | 66.9 | | |

※　基準では前年度実績入居者数を1.7で除した数値以上となっている。

（３）職員内部研修

| No. | 開催日 | 会　議・研　修　名 | 参加職種 |
|---|---|---|---|
| 1 | 29. 8.20 | 接遇研修①(外部講師) | 介護員、相談員、看護師 |
| 2 | 29. 9.29 | 接遇研修②(外部講師) | |
| 3 | 29.10.19 | 虐待防止研修(外部講師) | 介護員、相談員、看護師、栄養士、理学療法士 |
| 3 | 29.10.20 | 接遇研修③(外部講師) | 介護員、相談員、看護師 |
| 4 | 29.12.15 | 接遇研修④(内部) | |
| 5 | 30. 2. 9 | 接遇研修⑤(内部) | |

（４）ご利用者状況

① 入退居状況

| | 30. 3. 31 | 29. 4. 1 ～ 30. 3. 31 | | 29. 3. 31 |
|---|---|---|---|---|
| | 在　籍　者 | 入　　居 | 退　　居 | 在　籍　者 |
| 男 | 52 | 6 | 6 | 52 |
| 女 | 50 | 3 | 3 | 50 |
| 計 | 102 | 9 | 9 | 102 |

② 退居理由

| 区　分 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 死亡 | 4 | 2 | 6 |
| 他の施設・病院 | 2 | 1 | 3 |
| 家庭復帰（地域移行） | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 6 | 3 | 9 |

③ 月別平均ご利用者数（**定員／入居１００人、短期４人**）

| | 入居 | | | 短期 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平成29年度 | 平成28年度 | 平成27年度 | 平成29年度 | 平成28年度 | 平成27年度 |
| 4月 | 97.53% | 98.30% | 97.60% | 77.50% | 88.33% | 70.83% |
| 5月 | 98.87% | 98.87% | 97.77% | 99.19% | 87.10% | 70.16% |
| 6月 | 99.10% | 98.83% | 98.83% | 111.67% | 99.17% | 75.00% |
| 7月 | 98.90% | 97.81% | 99.35% | 114.52% | 132.26% | 71.97% |
| 8月 | 97.45% | 98.94% | 98.71% | 104.03% | 107.26% | 82.26% |
| 9月 | 96.80% | 97.30% | 97.97% | 115.83% | 100.83% | 100.00% |
| 10月 | 99.48% | 99.26% | 100.58% | 115.32% | 113.71% | 100.00% |
| 11月 | 100.87% | 100.30% | 99.97% | 94.17% | 95.83% | 90.00% |
| 12月 | 99.84% | 98.94% | 98.29% | 94.35% | 92.74% | 80.65% |
| 1月 | 95.94% | 99.90% | 98.19% | 89.52% | 98.39% | 75.81% |
| 2月 | 98.46% | 100.46% | 96.48% | 98.21% | 96.43% | 52.59% |
| 3月 | 99.26% | 100.58% | 100.55% | 94.35% | 91.13% | 76.61% |
| 計 | 98.54% | 99.08% | 98.70% | 100.75% | 100.34% | 80.05% |

④ 年齢別状況

| | 15～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～64 | 65～69 | 70～79 | 80～ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 2 | 7 | 9 | 9 | 15 | 9 | 1 | 52 |
| 女 | 0 | 1 | 3 | 10 | 10 | 13 | 7 | 6 | 50 |
| 計 | 0 | 3 | 10 | 19 | 19 | 28 | 16 | 7 | 102 |

⑤ 利用期間状況

| | 1年未満 | 3年未満 | 5年未満 | 10年未満 | 15年未満 | 20年未満 | 25年未満 | 25年以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 6 | 7 | 3 | 15 | 8 | 0 | 1 | 12 | 52 |
| 女 | 3 | 3 | 4 | 15 | 5 | 3 | 4 | 13 | 50 |
| 計 | 9 | 10 | 7 | 30 | 13 | 3 | 5 | 25 | 102 |

⑥ 障がい支援区分

| | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 4 | 8 | 6 | 34 | 52 |
| 女 | 2 | 4 | 16 | 28 | 50 |
| 計 | 6 | 12 | 22 | 62 | 102 |

⑦ ショートステイ（短期）実績表

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | H29 | H28 |
| 男性 | 8 | 8 | 10 | 12 | 10 | 10 | 11 | 9 | 11 | 10 | 10 | 9 | 118 | 117 |
| 女性 | 6 | 8 | 9 | 8 | 7 | 8 | 8 | 8 | 7 | 8 | 6 | 7 | 90 | 97 |
| 計 | 14 | 16 | 19 | 20 | 17 | 18 | 19 | 17 | 18 | 18 | 16 | 16 | 208 | 156 |
| 利用日数 | 93 | 123 | 130 | 142 | 129 | 139 | 139 | 113 | 117 | 112 | 110 | 115 | 1,462 | 1,466 |

実利用人数：26名（平成28年度 26名）

⑧ 訪問の状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | H29 | H28 |
| 延べ人数 | 74 | 77 | 57 | 74 | 83 | 75 | 82 | 64 | 69 | 69 | 82 | 68 | 874 | 748 |
| 実ご利用者数 | 37 | 40 | 27 | 37 | 34 | 42 | 46 | 32 | 33 | 34 | 39 | 34 | 435 | 396 |

年度中に訪問のなかったご利用者：11名

⑨ 外出状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | H29 | H28 |
| 男　性 | 11 | 11 | 15 | 16 | 11 | 15 | 14 | 12 | 9 | 6 | 9 | 11 | 140 | 112 |
| 女　性 | 7 | 8 | 12 | 10 | 13 | 9 | 12 | 11 | 8 | 2 | 10 | 13 | 115 | 137 |
| 計 | 18 | 19 | 27 | 26 | 24 | 24 | 26 | 23 | 17 | 8 | 19 | 24 | 255 | 249 |
| 実人員 | 16 | 18 | 25 | 24 | 22 | 22 | 24 | 18 | 11 | 8 | 18 | 21 | | |

実 人 数　58人（平成28年度 59人）

⑩ 外泊状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | H29 | H28 |
| 外泊延人数 | 4 | 5 | 3 | 4 | 6 | 3 | 2 | 1 | 7 | 8 | 1 | 2 | 46 | 31 |
| 外泊延日数 | 7 | 20 | 3 | 10 | 11 | 29 | 15 | 4 | 26 | 36 | 21 | 3 | 185 | 128 |

⑪ 通院状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | H29 | H28 |
| 件　　数 | 71 | 80 | 57 | 63 | 73 | 63 | 64 | 61 | 66 | 59 | 50 | 50 | 757 | 669 |
| 実　人　数 | 44 | 51 | 39 | 38 | 42 | 40 | 41 | 45 | 45 | 43 | 35 | 38 | 501 | 460 |

⑫ 入院状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | H29 | H28 |
| 入　院　者 | 9 | 6 | 3 | 8 | 10 | 6 | 5 | 1 | 3 | 5 | 8 | 7 | 71 | 64 |
| 延　日　数 | 127 | 77 | 61 | 91 | 100 | 94 | 47 | 30 | 31 | 87 | 78 | 82 | 905 | 864 |

⑬ 事故報告件数

| | 事故件数 | ヒヤリハット件数 | 施設外医療機関対応（件） |
|---|---|---|---|
| 転倒・転落 | 65 | 276 | 1 |
| 服薬 | 58 | 140 | 0 |
| 異食 | 0 | 3 | 0 |
| 介護 | 9 | 155 | 1 |
| 誤嚥 | 0 | 25 | 0 |
| その他 | 51 | 299 | 0 |
| 計 | 183 | 898 | 2 |

⑭ 苦情受付件数

| | 件数 |
|---|---|
| 食事に関すること | 2 |
| 設備に関すること | 1 |
| 行事・活動に関すること | 1 |
| その他 | 0 |
| 計 | 4 |

**（7）ボランティア活動状況**

| 行事・活動 | 所属・団体 | 人　数 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 傾聴ボランティア | 地域ボランティア | 1 | 週に２回程度ご利用者との交流 |
| ボランティア実習 | 札幌養護学校もなみ学園分校 | 10 | 施設内トイレの清掃体験(年２回) |

## ３．特別養護老人ホーム 和幸園

### １．総括

特別養護老人ホーム和幸園は、法人理念に基づき、人権の尊重を基本とし、ご利用者自身がその人らしい生活を主体的に過ごせるように、介護の専門性を高め、科学的な根拠を持った４つの基本ケアを中心とする自立支援に取り組んできた。それにより職員がご利用者の潜在的能力を発見する視点を育て、さらにご利用者の笑顔、ご家族の満足度向上につながる様々な取組を実施することができた。一方で２９年度は多くの退職者が発生し、人員不足による悪影響が生じてしまう事態が発生してしまった。その中で職員育成や定着における課題、多くの職員が入れ替わる中で基本ケアに関する理解の不十分さなどの課題が表出している。よりよいサービスを提供し、和幸園が成長、発展していく為には職員が定着し、モチベーションを高く持って生き生きと働けることが重要である。次年度は職員育成や、基本理念の浸透、理解などの課題の改善に力を入れていきたい。

### ２．具体的な取り組み

#### （１）利用者視点

① 終の棲家として和幸園で過ごせて幸せだったと思えるような生活を送っていただけるよう支援していく。協力医の協力の元、ターミナルケアを継続して行った。ご本人・ご家族の希望により、７名のご利用者が、和幸園で最期まで過ごすことができた。また、普通の生活の継続を目指し、行事食の日や外出機会などの行事による楽しみも昨年度より増やすことができた。

② ご利用者の外出や外泊は、年末年始を始め、ご家族の都合に合わせ多くのご利用者が行った。しかし、在宅復帰ケースは、家族状況が整わず実例はなかった。今後も、入居時には在宅復帰の意向をご家族にお聞きするなど、可能な限り在宅復帰を目指す支援を継続していきたい。

③ 介護力向上講習会は、現在「web 会議」に替わり、web 上になったことにより参加人数も毎月１５～２０名となり、事例の取り組みも誠実に行ってきた。今後も、継続して各職員が理解して基本ケアの理論を適切な実践に結びつけて支援ができるようにしていく必要がある。

④ 基本ケアである「水分」、「常食常菜」、「排泄」、「歩行・運動」について、個別に目標を決め取り組み、ユニット会議・ケース会議では、他職種で入居者ごとに、検討・見直しを行った。

⑤ 常食化については、平成３０年３月には常食常菜の割合が７６．２％となった。常食化の取組みにより、入居時に粥食等だった多くの方々の食事を米飯に変更することができた。その為、多くの方々に外出レクや敬老会、クリスマス会、生寿司パーティー、天ぷらパーティーなどで普通の食事を楽しんでいただくことができ、日常の食事では、食べられなくなっていると考えられたご利用者が、お寿司・ピザなどを積極的に食べる姿がみられたことに驚かされた。

⑥ 排泄については、下剤に頼らない自然排便を目指していたが、排便の調整がなかなか進まないケースが増え、結果として昨年度より浣腸や下剤の使用本数は増加してしまった。３０年度は、改めて自然排便の取り組みを見直し、改善を図らなければならない。

⑦ 歩行率については、認知症が悪化している方や全介助の方に関しては、立位５秒つかまり立ちができず、そこで留まってしまうことが多く、歩行がほとんどできていないケースも多く歩行率の改善には苦慮している。その改善方法として、「歩行の日を設ける」、「主任・リーダー会議などでチャレンジするご利用者を限定し、集中的に取り組む方を絞る」などし、進めていった。結果、毎日行うまでには至らず、著しい効果は出なかったため、今後は毎日行うことで一層、ご本人にとって実用的な歩行に近づいていける

ようにしたい。今後も、入居の相談時から、「基本ケア」「日中おむつゼロ」の取り組みを説明し、ご理解とご協力を頂いた上で、入居をして頂けるよう進めていきたい。

⑧ 褥瘡の減少

褥瘡委員会を中心に問題意識の向上を図るとともに、予防として日々の体位交換や除圧、福祉用具の利用、皮膚状況の観察、失禁の軽減に取り組んだ、また、皮膚トラブル発生時も褥瘡介護計画書を作成し、チームでの迅速で適切な対応により、悪化させずに早期に治すことができてきている。また、予防のために、理学療法士による入居者ごとに必要な介助方法の指導や、外部講習会を受講した職員による、適切な介助方法を習得するためのポジショニング研修を行った。また、その研修の中で、移乗シートや移乗グローブを使っての除圧の方法も伝達し、日常的に福祉用具も使うことを習慣化することで、実際の介護の技術も向上できた。

⑨ 介護事故について

事故件数は、全体件数では減少しているが介護事故が原因として病院へ受診した件数は増加傾向にある。今年度は骨折事故が多く、同月内に頻発してしまった事案もあった。原因としては歩行状態がフリーな人に対する目離しや介助ミスによるものなどがあり、基本的なケアの見直しにより同様の事故が発生しない様に留意した。

事故発生後の連絡や再発防止策を早急に行う事でご家族へ対する不安を軽減する事ができたと考えられる。今後も事故発生後には速やかにご家族へ連絡し、対応策なども提示していきたい。

⑩ 感染予防

平成３０年２月にインフルエンザが一部ユニットで蔓延した。ご利用者間の感染のペースが遅いことから、ご利用者間の感染ではなく、職員の介助による接触感染ではないかと考えられた。今回のインフルエンザの蔓延により手指消毒の意識や清掃についての課題が明らかになった。また、協力医療機関の感染管理認定看護師にお越しいただき、蔓延の検証と対策を指導していただいた。ノロウイルスの発生はなく終わった。嘔吐が発生したときには、マニュアルに沿って迅速な対応を行った。また、嘔吐発生時のマニュアルを作成し、食事面での配慮も講じられた。

⑪ 身体拘束ゼロや虐待防止

虐待に繋がると思われる言葉や介護の姿勢に問題ある職員を把握し、指導を行うことができた。今後も、主任・リーダー不在時の職員のご利用者への対応の把握も行い、問題ある職員の把握と継続した指導を行っていく。

⑫ ユニットケアの良さが生かされるような個別ケア体制の構築及び提供

馴染みの職員により、ご利用者ごとの特徴を把握し介護を行えた。ユニット会議やケース会議では、他職種で「基本ケア」の視点とともに、その方らしさの視点を大事にしたケアを実践できた。そのため、多くのご利用者に趣味活動などで好みの娯楽に参加していただくことで、日常生活の活性化にもつながった。また、ご家族等も気軽に訪問され、開かれた施設として運営できた。

**（２）財務視点**

① 年間稼働率について、本年度目標達成率（入居９７．９０％、短期８５．００％）に対して、本年度は入居９７．７１％、（昨年度９８．２５％）短期９９．５９％（同９３．８７％）となり、入居はわずかに及ばなかったもののショートステイでは昨年度を大きく上回ったことにより、入居とショートステイを合わせた総合稼働率では９７．９７％（同９２．４０％）という結果に至った。年間を通して高い稼働

率を維持することができた。また、昨年と比較して、死亡退所者１４名（昨年度１７名）、長期入院８名（昨年度４名）入院による空きベッド６４５日分（昨年度８１２日分）と１６７日分減少した。

昨年度に引き続き提携医の理解、協力のもとでターミナルケア体制の充実と各職員の専門性の高さによって、その人らしさを大切にしながら最期まで和幸園で暮らすことができるようになったものと振り返る。

② 入居では、加算取得においては、経口維持加算Ⅰ（４００単位／月）、経口維持加算Ⅱ（１００単位／月）による安定的な収入増が継続された。また、各セクションの協力体制や日々のケアの質の向上、そして緻密なベッドコントロール等が大きく影響したと考える。その他、待機者への呼び掛け、ショートステイの積極的な空床利用、医療的なニーズが高いご利用者や他施設で断られたケースの受け入れ等によって、専門性と質の高い施設運営を進められた。

短期入所生活介護事業所では、週末の定期利用者の増加により、中長期の利用者の受け入れが難しい状態であったが、入所の入院者ベッドの利用可能期間の把握や、定期利用者の入院等によるキャンセル、ロングショート利用者の入所時期を考慮しながら等のベッドコントロールにより、無駄なく、スムーズな受け入れへと繋がっていった。これらの対応が現在の稼働率に繋がっていると考えられる。

③ 理学療法士・看護師との連携により、個別機能訓練を生活リハビリの視点で実施し、入居者のＱＯＬを高め、個別機能訓練加算取得を維持した。また、管理栄養士との連携により、個別に栄養マネジメント計画書を作成し、日々の栄養状態の観察・適宜介入、個別性に基づいた食事提供方法の検討、及び食事形態の変更等の調整を図り、栄養マネジメント加算取得を維持した。

④ 協力医療機関、看護師等との連携により、和幸園で最期の時を過ごすことを望むご利用者やご家族の希望に沿い、ターミナルケアを開始することができ、平成２９年度も７名の方が、ターミナルケアにより最期まで和幸園で過ごされた。

⑤ 訪問歯科医との連携により、経口摂取が困難なご利用者に対しても、あきらめずに誤嚥性肺炎を予防しつつ、より安全に経口摂取できることを目標に支援することができた。

３０年度は口腔衛生管理加算の加算要件が緩和され、４月利用分より算定を開始した。（４月分９０単位×２２名）

⑥ 電気、水道、光熱費、日用品費等の節減を、継続して取り組んだ。

### （３）人材確保と育成

① 職員の充足及び定着率向上については、職員募集など随時行い、徐々に充足されつつあったが、継続して募集が必要な状況であった。今後も、より長く働ける職場の環境作りをしていく必要がある。

② 施設長による認知症研修も実施し、認知症ケアについての学びにより、認知症に対する介護技術の向上ができた。

③ 執行部職員により「介護福祉士」資格取得のための講習会を実施し、９０％以上の職員が合格できた。

④ プリセプター制度及び新人研修等を実施した。新人研修により基本的な介護技術向上ができた。

⑤ 外部研修で学んできたことを事業所に持ち帰り、職員への伝達研修を行った。

⑥ 福祉専門職養成機関との連携をより密にでき、次年度の新規採用者の応募に繋げることができた。

⑦ ホームページやFacebook お便りなどにより、和幸園の取り組みを広報することで、知っていただくことができ、職員の応募に繋がった。

（４）地域貢献

①「介護なんでも相談」が１０年以上続き、法人の地域貢献活動として定着している。

② 介護福祉士・社会福祉士・介護職員初任者研修等の実習機関として実習生の受け入れを行った。

③ 幼稚園、地域のボランティア、日赤ボランティアの協力を継続して仰ぐとともに、地域のお祭りなどにも、外出レクなどで参加した。

④ ハピニス祭等、施設開放時には、地域の方々にご案内を行い、お越しいただいた。

⑤ 地域で認知症高齢者の介護をする家族を対象に、ＢＰＳＤの減少を目的とし、「認知症状改善塾」を開講した。平成２７年の開始より第５期の開催となった。改善塾の開講により、参加者同士のつながりや精神的な部分のケアにも繋がり、和幸園で実践した基本ケアのノウハウを伝えることができる機会ともなった。

⑥ 社会福祉法人減免制度も、継続して行った。

（５）ガバナンス体制の強化

① 当施設は加算算定項目が比較的多いが、算定要件にしっかりと沿うよう必要書類等の整備につき定期的に確認を行っている。

② 介護保険制度に則して、契約、サービス提供及び請求が継続できた。

③ コンプライアンスに基づいたケアプランの作成と家族への説明・同意を行った。

３．事業運営状況及び事業実績

（１）職員の配置状況　　平成３０年３月３１日現在

| 職　名 | 配置基準数 | 現員数 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 施設長 | 1 | 1 | |
| 事務員 | 必要数 | 10 | うち、非常勤３名 |
| 生活相談員 | 2 | 5 | うち、介護支援専門員兼務２名 |
| 介護員 | 40 | 113 | うち、非常勤職員 51 名 |
| 看護職員（看護師） | （常勤換算） | 12 | うち、グリンハイム兼務７名、非常勤３名 |
| 医師 | 必要数 | 1 | 配置医 |
| 機能訓練指導員 | 1 | 3 | うち、非常勤職員１名 |
| 管理栄養士 | 1 | 1 | |
| 管理員 | 必要数 | 1 | |
| 外勤調整員 | 必要数 | 2 | うち、２名事務兼務 |
| 計 | | 149 | |

（２）介護・看護職員配置比率（定員／入居１２０人、短期２０人）

| 職種 | 常勤換算（人） | 算出基準 | 配置比率 |
|---|---|---|---|
| 介護職員 | 93.4 | 140 人/98.4 人<br>（基準 140 人/3＝46.6 人） | 1.42 人 |
| 看護職員 | 5.0 | | |
| 計 | 98.4 | | |

※　基準では入居者数を 3.0 で除した数値以上となっている。

（3）ご利用者状況

① 入居者状況

| | 30年3月31日 在籍者 | 入居者 | 退居者 | 29年3月31日 在籍者 |
|---|---|---|---|---|
| 男 | 21 | 9 | 7 | 19 |
| 女 | 98 | 14 | 15 | 99 |
| 計 | 119 | 23 | 22 | 118 |

② 月別平均入居者数

| | 入居 | | | 短期 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平成29年度 | 平成28年度 | 平成27年度 | 平成29年度 | 平成28年度 | 平成27年度 |
| 4月 | 98.53% | 98.17% | 98.41% | 89.17% | 86.58% | 74.34% |
| 5月 | 98.20% | 98.74% | 97.02% | 98.87% | 81.85% | 104.55% |
| 6月 | 99.56% | 99.25% | 97.38% | 97.17% | 95.00% | 92.11% |
| 7月 | 98.47% | 99.01% | 97.33% | 96.77% | 90.65% | 89.81% |
| 8月 | 97.34% | 97.31% | 98.47% | 98.55% | 99.35% | 82.93% |
| 9月 | 97.69% | 98.03% | 96.46% | 102.5% | 95.67% | 72.64% |
| 10月 | 97.12% | 99.25% | 95.94% | 99.52% | 93.39% | 79.09% |
| 11月 | 97.03% | 99.45% | 97.00% | 113.5% | 102.98% | 89.44% |
| 12月 | 99.06% | 98.33% | 98.40% | 96.29% | 100.88% | 87.92% |
| 1月 | 97.66% | 97.66% | 98.71% | 93.55% | 88.53% | 87.20% |
| 2月 | 94.97% | 97.12% | 99.19% | 104.29% | 99.64% | 94.03% |
| 3月 | 96.85% | 96.69% | 98.26% | 104.84% | 92.26% | 90.92% |
| 計 | 97.71% | 98.25% | 97.71% | 99.59% | 93.87% | 83.94% |

③ 退居理由

| 平成29年度 | 男 | 女 | 計 | 平成２８年度 | 平成２７年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 死亡 | 4 | 10 | 14 | 17 | 17 |
| 長期入院 | 3 | 5 | 8 | 12 | 11 |
| 家庭引取 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 他施設へ移動 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 |
| 計 | 7 | 15 | 22 | 31 | 32 |

④ 年齢別入居者状況（平成30年3月31日現在）

| | 65歳未満 | 65 ～ 74 | 75 ～ 84 | 85 ～ 89 | 90 ～ 94 | 95 ～ 99 | 100 ～ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 0 | 5 | 9 | 4 | 3 | 0 | 0 | 21 |
| 女 | 0 | 6 | 23 | 29 | 18 | 16 | 6 | 98 |
| 計 | 0 | 11 | 32 | 33 | 21 | 16 | 6 | 119 |

⑤ 入居者の入居前居所状況（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

| | 男 | 女 | 計 | H27年度 |
|---|---|---|---|---|
| 自　宅 | 3 | 8 | 11 | 23 |
| 介護老人福祉施設 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 介護老人保健施設 | 1 | 2 | 3 | 0 |
| 介護療養施設 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医療機関 | 5 | 1 | 6 | 6 |
| 他の福祉施設 | 1 | 2 | 3 | 3 |
| 計 | 10 | 13 | 23 | 32 |

⑥ 月別入院状況（月延べ人数）

| 入院状況 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | H28 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院者数 | 1 | 3 | 2 | 4 | 5 | 5 | 4 | 2 | 3 | 2 | 4 | 6 | 41 | 44 |
| 入院延日数 | 13 | 54 | 7 | 51 | 94 | 92 | 69 | 60 | 30 | 18 | 71 | 86 | 645 | 812 |

⑦ 入居者の要介護度（平成30月31日現在）

| 要介護度<br>性　別 | 要介護度1 | 要介護度2 | 要介護度3 | 要介護度4 | 要介護度5 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 男　性 | 0 | 0 | 5 | 8 | 8 | 21 |
| 女　性 | 0 | 4 | 19 | 33 | 44 | 100 |
| 計 | 0 | 4 | 24 | 41 | 52 | 121 |

⑧ 事故報告件数

| | 件数 | | 施設外医療機関対応（件） | |
|---|---|---|---|---|
| | 平成 29 年度 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 28 年度 |
| 転倒<br>転落 | 140 | 113 | 23 | 15 |
| 服薬 | 41 | 25 | 0 | 1 |
| 異食 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| 誤嚥 | 9 | 6 | 0 | 2 |
| 皮膚剥離 | 16 | 16 | 0 | 0 |
| その他（ヒヤリハット含む） | 86 | 76 | 5 | 1 |
| 計 | 294 | 238 | 28 | 19 |

⑨ 苦情受付件数

| | 件数 | |
|---|---|---|
| | 平成 29 度 | 平成 28 年度 |
| 介護等に関すること | 6 | 1 |
| 設備に関すること | 0 | 3 |
| 職員に関すること | 1 | 1 |
| その他 | 1 | 1 |
| 計 | 8 | 6 |

**4．年間行事報告**

| 日程 | 内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 4 月 12 日・13 日・14 日 | ラーメンの日 | 会場にて好きなラーメンの味を注文し、召し上がって頂きます。 |
| 5 月 22 日（月） | 和幸園運動会 | フロア対抗で玉入れや、歩行器競争などの種目を競います。 |
| 6 月 12 日・13 日・14 日 | 天ぷらの日 | 会場にて好きな天ぷらを注文し召し上がって頂きます。 |
| 7 月 13 日 | ジンギスカン | 屋外にてジンギスカンを楽しみます。 |
| 8 月 4 日 | 七夕・夏祭り | 七夕の季節感を感じる事と、夏祭り（盆踊り・ミニゲームなど）を実施します。 |
| 8 月 22 日 | １条・夏祭り | 今年度初めて、ショートステイ単独での行事。ご家族にも参加いただき、職員の出し物や出店形式での夕食を提供しました。 |
| 9 月 16 日　昼・夕開催<br>9 月 17 日　昼開催 | 敬老祭 | 敬老をお祝いし、祝寿対象者などへ記念品の贈呈や職員による催し物を行います。 |
| 10 月 19 日 | 秋の美味しいもの祭 | 秋の味覚（秋刀魚やじゃがいもなど）を炭火焼きし、秋の味覚を感じて頂きます。 |
| 11 月 16 日 | 芋煮会 | のっぺい汁や芋を用いた料理を調理し、召し上がって頂きます。 |

| | | |
|---|---|---|
| 12月15日　昼・夕開催<br>12月16日　昼開催 | クリスマス・忘年会 | クリスマス・忘年会を合わせて実施しております。クリスマスや忘年会にちなんだ催し物など実施します。 |
| 12月27日 | 餅つき | 利用者様・職員一緒に餅つきを行います。 |
| 1月18日・19日 | のど自慢大会 | 参加自由で歌声を競い合い、有償を目指します。 |
| 1月24日・25日・26日 | 寿司の日 | 会場にて好きなお寿司を注文し召し上がって頂きます。 |
| 2月2日 | 節分 | 年男・年女の方に各ユニットを回って頂き豆を撒いて頂きます。 |
| 2月15日 | 鍋の日 | すき焼き・寄せ鍋を調理し、召し上がって頂きます。 |
| 3月3日　午前・午後開催 | ひな祭 | ひな祭をお祝いし、催し物を実施ます。 |
| 3月26日・27日・29日 | そばの日 | 打ちたてのそばをその場で茹で、召し上がって頂きます。 |
| その他 | ・森の幼稚園　園児来園（6月・8月・9月）<br>・日赤ボランティア<br>・ギターボランティア<br>・サックスボランティア<br>・家族会、利用者懇談会<br>・イトーヨーカドー訪問販売（年3回～4回）<br>・ユニット外出行事<br>・球根堀り | |

## ４．看護課

### １．事業報告総括

#### （１）利用者視点

① ご利用者には、血圧測定や処置や体調変化時などの関わりの中で、積極的に挨拶をしながら、コミュニケーションを図った。相手を尊重した接遇がいつでもできる様スタッフがお互いに高め合っていきたい。ターミナル期のご家族とは担当者を明確にすることで信頼される関係の構築に努めた。

② 配置医師や協力医療機関とは、平日には連携が図れている。休日や夜間の受け入れは困難なため、予測性を持って早めに受診し、ご利用者の不利益にならない対応を今後も心掛けていく。協力病院（定山渓病院）とは、入院相談を含め連携を今後も進めていきたい。

③ ターミナルケアは年間で和幸園では８名対応し、定期的な会議や評価等を他職種協働で取り組み１事例ごとに大切し、今後も次に繋げていきたい。ご家族用のパンフレットを新たに作成し活用できた。
また、グリンハイムでも１名対応したが、初めてで体制も確立していなく介護員も不安な中、ご本人の意向を大切に取り組み学びは多かった。今後も利用者のニーズに対応すべく取り組んでいきたい。

④ 虐待、事故防止、感染症、褥創委員会へ参加しリスク管理に努めた。看護師主体で参加しやすいように感染症の研修を４回実施したが、参加者は７０名程度にとどまった。和幸園は２月にインフルエンザが３ユニットで蔓延し、入院者５名となり退所にも繋がってしまった。マニュアル等の見直しと教育に重点をおきたい。また、薬の事故に関しては、セットミスによる誤薬があり、今後も事故防止に取り組んでいく。

#### （２）財務視点

① 余剰在庫の無いように物品購入を行った。

② 緊急のショートステイに対しても、ご利用者の安全に配慮し情報等が少ない中でも柔軟に対応した。

（3）人材確保と育成

① 外部研修に５名が参加しスタッフ内で情報共有したが、内部研修の参加率は低調であった。

② ５～７日間の連続休暇取得は、職員個々の希望により年間計画を作成し、スムーズに取得することができた。次年度も継続しいく。

③ 各々が役割意識をもち、責任を持って業務ができている。

④ 積極的に業務改善は行えなかった。

（4）地域貢献

例年通り地域のゴミ拾いやお祭りの救護班として協力した。

（5）ガバナンス体勢の強化

① 組織の理念・方針を全員が理解し言えるように今後も取り組む。具体的行動は今後行動指針を参考にしていきたい。

② 組織内での決定事項を確認できるようファイルしているが、まだまだ周知できていないのが現状である。

## ２．医療業務実績

和幸園は、処置人数・件数ともに昨年と変化はないが、創傷処置は少なくなり浣腸の件数が増えている。入院者は２月のインフルエンザの影響はあったが全体では減少となった。また、配置医の往診人数も減少しており、体調は整えられていると思われる。ターミナルの方の人数は変わらないが、待機の出動回数が増加した。急変による救急搬送によるものと考えられる。利用者は高齢でもあり早めにご家族とターミナルの同意を勧めて行く。

グリンハイムは、入所の胃瘻栄養が３～４名に増加した。受け入れ人数には限界があるが今後も短期利用者も含め増加が見込まれるため、看護体制の変更も検討していく。入院件数は横ばいだが重症化が進み、入院後退所となるケースが増えている。また、利用者は体調不良時に専門病院への受診を希望するため受診件数は増加しており今後も医療ニーズが高くなると思われる。感染症の蔓延はなく、配置医への往診件数は減少した。

和幸園　2017年度

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 状態観察者 | 日勤 | 438 | 434 | 436 | 470 | 453 | 457 | 482 | 370 | 403 | 401 | 556 | 411 | 5311 | 5039 |
| | 短期 | 120 | 108 | 86 | 109 | 96 | 96 | 79 | 121 | 85 | 110 | 102 | 92 | 1204 | 1354 |
| | 夜勤 | 6 | 7 | 7 | 4 | 4 | 15 | 6 | 3 | 18 | 6 | 2 | 10 | 88 | 396 |
| 尿ｶﾃ管理者(人) | | 2 | 2 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 17 | 18 |
| 胃瘻管理 | 入所 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 24 | 2 |
| ｲﾝｼｭﾘﾝ等 （人） | 入所 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 34 | 32 |
| 処置 | 人数 | 28 | 25 | 28 | 34 | 34 | 34 | 28 | 32 | 40 | 41 | 34 | 37 | 395 | 328 |
| | 件数 | 181 | 234 | 247 | 250 | 366 | 332 | 287 | 226 | 273 | 258 | 209 | 208 | 3071 | 3235 |
| ターミナル | | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 8 | 7 |
| 入院者 | | 1 | 3 | 2 | 5 | 3 | 5 | 2 | 1 | 2 | 5 | 5 | 4 | 38 | 43 |
| 他機関受診 | | 37 | 52 | 27 | 41 | 42 | 47 | 62 | 45 | 47 | 42 | 36 | 46 | 524 | 557 |
| ショート利用 | | 76 | 84 | 84 | 80 | 80 | 93 | 87 | 89 | 80 | 81 | 71 | 86 | 991 | 1006 |
| ときわ往診 | | 23 | 23 | 25 | 23 | 22 | 22 | 23 | 25 | 20 | 19 | 18 | 19 | 262 | 291 |
| やまはな皮膚科往診 | | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 10 | 5 |
| 川沿皮膚科往診 | | 165 | 175 | 169 | 163 | 168 | 175 | 170 | 172 | 170 | 170 | 143 | 171 | 2011 | 2087 |
| 南札幌脳神経往診 | | 62 | 43 | 54 | 56 | 59 | 60 | 78 | 42 | 45 | 36 | 43 | 60 | 638 | 774 |
| 待機出動 | | 3 | 4 | 3 | 2 | 1 | 8 | 5 | 2 | 8 | 2 | 1 | 7 | 46 | 38 |

| グリンハイム2017年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 前年度 |
| 状態観察者 | 日勤 | 243 | 283 | 215 | 197 | 211 | 205 | 219 | 228 | 200 | 235 | 195 | 168 | 2599 | 2580 |
| | 夜勤 | 269 | 307 | 240 | 233 | 225 | 200 | 215 | 215 | 221 | 250 | 172 | 184 | 2731 | 2729 |
| 尿ｶﾃ管理者(人) | 入所 | 11 | 11 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 11 | 11 | 11 | 12 | 12 | 129 | 117 |
| 胃瘻管理(人) | 入所 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 4 | 37 | 32 |
| ｲﾝｼｭﾘﾝ | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 | 12 |
| 処置 | 人数 | 22 | 16 | 16 | 12 | 13 | 11 | 10 | 14 | 15 | 13 | 13 | 12 | 167 | 198 |
| | 件数 | 265 | 294 | 243 | 161 | 208 | 148 | 176 | 211 | 207 | 209 | 184 | 238 | 2544 | 2873 |
| 短期処置（件数） | | 16 | 24 | 18 | 19 | 21 | 26 | 27 | 24 | 17 | 11 | 14 | 15 | 232 | 191 |
| 入院者 | | 5 | 4 | 1 | 7 | 5 | 3 | 2 | 0 | 2 | 4 | 4 | 4 | 41 | 44 |
| 他機関受診 | | 70 | 68 | 60 | 56 | 75 | 65 | 66 | 65 | 67 | 63 | 54 | 51 | 760 | 685 |
| ショート利用 | | 28 | 31 | 32 | 37 | 33 | 38 | 37 | 32 | 36 | 32 | 30 | 35 | 401 | 424 |
| ときわ往診 | | 24 | 23 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 23 | 23 | 24 | 24 | 24 | 290 | 268 |
| やまはな皮膚科往診 | | 14 | 28 | 20 | 20 | 24 | 18 | 23 | 22 | 22 | 24 | 22 | 17 | 254 | 280 |
| 川沿皮膚科往診 | | 46 | 61 | 64 | 66 | 32 | 65 | 67 | 67 | 66 | 59 | 60 | 59 | 712 | 680 |
| 南札幌脳神経往診 | | 31 | 27 | 19 | 20 | 23 | 27 | 37 | 21 | 21 | 31 | 26 | 26 | 309 | 590 |
| 夜勤者受診の付添 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | 4 | 2 |
| 施設内での死亡 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | 2 | |

## ５．栄養課

### （１）利用者視点

・委託業者所属栄養士、調理員との連携を密にして、ご利用者・施設の要望として特色あるイベントを実施できた。

・定期的な全体ミーティングを継続して行うことができた。

・栄養ケアマネジメントを行い、個々人にあった栄養ケアの提供を遂行した。

### （２）財務視点

・加算の確実な実施を行うことができた。今後も継続して行っていく。

・追加（栄養）食品を無駄の無いよう支出管理を実施している。

・物品の購入、修理、行事等、予算に合わせて計画的に実施できた。

### （３）人材確保と育成

・研修、勉強会は各自のスケジュールに合わせて参加できている。今後も積極的な参加をして、最新の情報の取得に努める。

### （４）地域貢献の推進

・入居者、ショートステイ、デイサービスご利用者、ご家族、地域の方々の栄養相談を実施した。

### （５）ガバナンスの強化

・本年度は両施設でノロウイルス疑いの発生があり、対応を実施した。実際に運用した際の経験を活かし、より実践的なノロウイルス対策マニュアルを策定するための見直しを実施中である。

・適宜他職種との連携を図り、栄養ケアマネジメントを実施している。

（6）その他取組、行事

・食事形態、食事のおいしさの向上など、委託業者と適宜相談し実施している。さらなる向上を目指す。

・ご利用者の前で調理をするイベント（寿司、てんぷら、手打ちそば）は好評であった。今後も実施の継続し、また、他のイベントも考案していきたい。

【グリンハイム】

・入居者の体調に応じた食事・間食に関する内容等、ご本人に納得して頂けるよう寄り添いながら、栄養計画書を作成し、遂行した。

・個々の体調、体型を考慮した、良好な排便コントロールの取り組を行った。

【和幸園】

・排便コントロール対策に取り組んだが、思うような結果は出ていない。栄養面からのアプローチでは限度があるため、他職種との連携を強化し、改善を目指して行きたい。

（1）一食平均食数

| 区　分 | | 食数 |
|---|---|---|
| グリンハイム | 入居 | 100 |
| | 短期入居 | 3 |
| 生活介護事業所グリンハイム | | 14 |
| 和幸園 | 入居 | 115 |
| | 短期入居 | 20 |
| 和幸園デイサービス | | 38 |
| 計 | | 290 |

（2）食事形態

| 内　容 | グリンハイム | 和幸園 | 計 |
|---|---|---|---|
| 常　　食 | 40 | 86 | 126 |
| や わ ら か 食 | 30 | 17 | 47 |
| ゼ リ ー 食 | 5 | 11 | 16 |
| 胃　　婁 | 3 | 1 | 4 |

（3）特別食

| 内　容 | グリンハイム | 和幸園 | 計 |
|---|---|---|---|
| 糖　尿　病 | 13 | 15 | 28 |
| 脂 肪 制 限 | 7 | 1 | 8 |
| 心　臓　病 | 1 | 4 | 5 |
| 腎　臓　病 | 2 | 2 | 4 |
| 貧　　血 | 0 | 0 | 0 |
| 低 残 渣 食 | 1 | 1 | 2 |
| 計 | 24 | 23 | 47 |

（4）年間行事実績及びポイントメニュー

| 月 | 行　事 | ポ イ ン ト メ ニ ュ ー |
|---|---|---|
| 4 | 和幸園デイサービス誕生会<br>ご当地メニュー(昼) | 赤飯<br>各地のご当地メニュー |
| 5 | 子供の日(5 日)<br>和幸園デイサービス誕生会<br>ご当地メニュー(昼) | 赤飯、筑前煮,、さくら漬け、水ようかん<br>ちらし寿司<br>各地のご当地メニュー |
| 6 | 和幸園デイサービス誕生会<br>和幸園ジンギスカン・チャンチャン焼き<br>グリンハイム・和幸園<br>天ぷらバイキングの日 | 赤飯<br>ジンギスカン・チャンチャン焼き<br>天ぷら（えび・きす・なすび等)、うま煮、フルーツ、サラダ等 |
| 7 | 土用の丑の日<br>グリンハイム焼き肉昼食会<br>和幸園デイサービス誕生会 | うなぎちらし、すまし汁、<br>焼き肉<br>ちらし寿司 |
| 8 | 和幸園デイサービス誕生会<br>グリンハイム焼肉昼食会<br>グリンハイムデイサービス焼き肉 | 赤飯<br>焼き鳥<br>焼き肉 |
| 9 | 敬老の日<br>グリンハイムデイサービス焼き肉<br>和幸園デイサービス誕生会 | 赤飯、煮しめ、焼き魚、てんぷら、茶碗蒸し、なます、お吸い物<br>焼き肉<br>ちらし寿司 |
| 10 | 和幸園 秋の味覚祭<br>和幸園デイサービス誕生会<br>グリンハイム蕎麦の日 | さんまの炭火焼き、ジャガイモ、サツマイモ、かぼちゃ、豚汁<br>赤飯<br>手打ち蕎麦を楽しむ |
| 11 | グリンハイム寿司の日<br><br>和幸園芋煮会<br>和幸園デイサービス誕生会 | 握り寿司（マグロ、サーモン、カレイ、ツナマヨ、とびっこ、エビ、ホタテ、イクラ、玉子、いなり）<br>のっぺい汁、栗ごはん、鮭ときのこのホイル焼き<br>ちらし寿司 |
| 12 | グリンハイム・和幸園クリスマス会<br>餅つき大会<br>大晦日　（31 日）<br>和幸園デイサービス鍋の日 | オードブル・ケーキ等<br>納豆餅、お汁粉<br>年越しそば、黒豆等<br>寄せ鍋 |
| 1 | 元旦（1 日）<br>三が日<br>七草（7 日）<br>鏡開き<br>グリンハイムデイサービス鍋の日<br>和幸園寿司の日<br>和幸園デイサービス誕生会 | おせち料理<br>雑煮、お寿司等<br>七草(七草粥)<br>お汁粉<br>寄せ鍋・すき焼き<br>握り寿司（マグロ、サーモン、エビ、イクラ、玉子、いなり等)<br>ちらし寿司 |
| 2 | 節分<br>グリンハイムデイサービス鍋の日<br>和幸園デイサービス誕生会 | 太巻き、いなり<br>寄せ鍋・すき焼き<br>赤飯 |
| 3 | ひなまつり(3 日)<br><br>お彼岸<br>グリンハイムデイサービス鍋の日<br>和幸園デイサービス誕生会 | ちらし寿司、すまし汁（アサリ、三つ葉)、炊き合わせ、イチゴ饅頭<br>手作りおはぎ<br>寄せ鍋・すき焼き<br>ちらし寿司 |

# ６．訓練

## １．グリンハイム機能訓練

### （1）事業報告総括

① 利用者視点

・個別評価を行い、リハビリテーション実施計画書を作成し、本人または家族のニーズに合わせて関節可動域訓練（ROM ex.）、筋力訓練、日常生活動作（ADL）、訓練や平行棒やトランスファー手すりなど機械器具を用いた自主訓練なども盛り込み実施した。

・車いすカンファレンスを定期的に開催し、個々に合わせ快適にできるだけ長時間車いすに乗車し、有意義な時間を過ごせるよう支援した。

・ご利用者の生活状況などを把握した上で、継続可能な生活リハビリを助言・提案した。

・ご利用者個々にニーズに合わせて車いすを含めた補装具に関する助言・提案をした。

・ご利用者個々のニーズに合わせた福祉用具（ポジショニング枕・福祉靴・自助具など）に関する助言・提案をした。

・ご利用者の各種診断書類（医師意見書・補装具費申請書類など）理学療法評価部分の作成をした。

・個別訓練のみならず、集団訓練も継続して行ない、他ご利用者との関わりを持つ機会を提供し、社会性を保持するよう支援した。それぞれご利用者の特性を活かし、役割を持てるよう支援した（体操の先生・参加者人数数え等）。

・気候の良い時期は園庭を生活リハビリとして見守り散歩などを行った。

・生活リハビリにつながる介助方法を介護職員と検討し、助言・提案を行った。

・ご利用者個々の状況に合わせた創作活動（ビニールステンドグラス作製・牛乳パック工芸など）を提案し、作品の作製を行い、訓練室や掲示板に掲示した。

・日常生活動作（移乗動作やトイレ動作など）の介助法や適切な動作などを実際場面でのデモンストレーションを交えて助言・提案を行った。

・転倒・転落事故などの検証や防止策検討も他職種協働で行った。

② 財務視点

・コスト管理の徹底のため、在庫管理を定期的に行い、必要な物品購入を心がけた。また、発注先を複数検討しコスト削減を図った。

・節約意識を持ち、必要ない時には電気のスイッチを切るなどし、暖房も温度管理をこまめに行った。

③ 人材確保と育成

・通常の相談で、福祉用品や介護技術の再検討などを協力して行った。

・移乗方法の検討なども行い、ご利用者・介護者に負担が少ない方法や介護用品（スライディングシートやボード・グローブなど）を提案した。

④ 地域貢献の推進

・Facebook などに訓練室ドアのビニールステンドグラス作品の写真などを載せた。

⑤ ガバナンス体制の強化

・リハビリテーション実施計画書作成や同意、その根拠となる日々の業務やご利用者の経過記録の整備を行った。

（2）参加者年間集計表

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 運動療法 | 集団訓練 | 61 | 51 | 64 | 42 | 49 | 33 | 43 | 16 | 63 | 45 | 55 | 65 | 587 |
| | 個別訓練 | 97 | 118 | 114 | 96 | 133 | 95 | 141 | 130 | 111 | 112 | 119 | 141 | 1,407 |
| 参加総延べ人数 | | 158 | 169 | 178 | 138 | 182 | 128 | 184 | 146 | 174 | 157 | 174 | 206 | 1,994 |
| リハ日数 | | 16 | 18 | 18 | 15 | 18 | 16 | 19 | 18 | 15 | 18 | 17 | 18 | 206 |
| 1回平均延べ人数 | | 9.9 | 9.4 | 9.9 | 9.2 | 10.1 | 8.0 | 9.7 | 8.1 | 11.6 | 8.7 | 10.2 | 11.4 | 9.7 |

※リハ日数とは、ご利用者の直接訓練を行った日数とした。
※集団訓練は、本館ご利用者を対象に月２回ペースで４グループ順番に食堂を借りて車いす座位でできる運動を集団で行った。西館でも同様の運動を週１回ペースで食堂を借りて行っている。

## ２．和幸園機能訓練

### （1）事業報告総括

① 個別機能訓練計画書及び実施表の作成、実施状況確認、ファイルの記入など記録の整備を実施した。

② オムツゼロの推進による離床時間の拡大に伴い、車いすでの安全なシーティングの検討を行い、座や背クッションの調整と必要に応じて姿勢改善のためのクッションの検討を行った。必要に応じて業者ともシーティング調整を実施した。

③ 必要に応じて個別の対応を実施し、身体機能の向上につながる訓練を行った。

④ 褥瘡対策のために外部研修への参加を行った。
臥床時のポジショニングを検討し、体交の参考として個別の資料を作成し介護員へ伝達した。

⑤ 摂食・嚥下困難者において、嚥下状態の確認や食事動作（スプーン）の検討、口腔マッサージの実施及び介護場面での口腔マッサージ資料の作成を行った。また、食事前に嚥下体操や発声練習を行いユニットの職員に伝達した。

⑥ 経口維持加算のための食事評価を実施した。

⑦ 車いす等の福祉用具の検討を実施した。車いすクッションや車いすの修理依頼や個別購入に対する物品の機能選択の実施をした。靴に関する相談に応じ、購入にあたって靴選択や注文・納品後の適合チェックを実施した。

⑧トイレ介助方法の検討、トイレ介助の補助など実施した。

⑨ 移乗介助方法の指導、スライディングシートやポジショニンググローブなどの福祉用具の使用方法の指導を行った。

⑩ 集団でのレクリェーション、体操、ゲーム、カラオケ、ＤＶＤ（映画や歌）鑑賞、麻雀クラブ（月１回）のど自慢大会や特技発表会、運動会などの行事を実施した。また、１条のショートステイユニットで月２回ＯＴによる集団レクも実施した。

⑪ ＤＶＤ貸し出しシステムを維持し、映像ソフトを増やした。

⑫ ご利用者の生活歴などを把握し、その方にあった余暇活動を提供した。また、季節に合った創作活動を提供する場としてクラブ活動の実施もした。

⑬ 下肢装具の作製及びチェックアウト、修理を専門業者と共に評価・実施した。

⑭ 新人研修として、移動移乗の説明部分の担当を行い、新人職員の指導を実施した。

（2）参加者年間集計表

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 個別訓練 | 入居 | 152 | 163 | 150 | 159 | 162 | 32 | 94 | 84 | 78 | 76 | 61 | 79 | 1,290 |
| | 内メドマー | 8 | 9 | 6 | 7 | 4 | 0 | 7 | 3 | 4 | 7 | 1 | 2 | 58 |
| | ショート | 36 | 16 | 16 | 30 | 14 | 18 | 23 | 21 | 18 | 12 | 13 | 23 | 240 |
| | 1日平均人数 | 10.4 | 10.8 | 8.5 | 11.8 | 9.5 | 3.8 | 6.1 | 6.2 | 5.6 | 5.0 | 5.7 | 5.5 | 7.4 |
| 集団訓練 | 入居 | 380 | 449 | 473 | 432 | 324 | 501 | 393 | 388 | 571 | 316 | 145 | 346 | 4,718 |
| | ショート | 76 | 78 | 97 | 130 | 89 | 89 | 113 | 102 | 103 | 78 | 36 | 87 | 1,078 |
| | 1回平均人数 | 50.6 | 52.7 | 57 | 46.8 | 51.6 | 59 | 63.3 | 49.0 | 67.4 | 43.8 | 60.3 | 48.1 | 54.1 |
| リハ日数 | | 18 | 16.5 | 19.5 | 16 | 18.5 | 13 | 19 | 17 | 17 | 17.5 | 13 | 18.5 | 17 |
| 参加延べ人数 | | 644 | 706 | 736 | 751 | 589 | 640 | 630 | 598 | 774 | 489 | 256 | 537 | 7,350 |

※個別訓練：個別の対応を実施。基本的な身体機能維持のための関節可動域訓練、筋力維持向上訓練、座位保持、座位や立位でのバランス訓練、歩行訓練、呼吸訓練、ＡＤＬ訓練としては、移乗動作訓練、起居動作訓練、車いす駆動やトイレ動作訓練、歩行器歩行、摂食嚥下向上のための口腔マッサージ、認知機能維持のための脳トレ（パズル・マッチング・漢字・計算・歌など）

※集団訓練：各ユニットや多目的ホールにおいて、リハビリテーションの視点を考慮した体操、ゲーム、嚥下体操や発声練習、音楽歌唱など

※リハ日数は、ＰＴ（平成29年10月1日～平成30年3月31日）・ＯＴ・柔道整復師（平成29年3月1日～平成29年8月30日）が個別訓練に従事した日数（会議・書類整理・レクは含まず）

※平成30年2月9日から2月17日　インフルエンザ蔓延により個別・集団訓練中止となっている。

## ７．相談支援事業所グリンハイム

### １．基本方針

障がい種別、障がいの程度に関わらず、各々が望む当たり前の生活の実現のため、相談支援専門員としての知識、技術、ネットワークを活用し、フォーマル、インフォーマルな社会資源を繋ぎ合わせた相談支援を実践する。

### ２．具体的な取り組み

（1）相談支援従事者としての専門性の向上

① 札幌市自立支援協議会南区地域部会への参画

② 札幌市相談支援事業所研修会への参加

③ 法人内部及び外部研修への参加

④ 関係資格の取得

（2）相談ケースの確保

① 相談支援事業所の役割の理解及び当事業所の認知度向上のために、関係機関の研修や会議等へ参加を通じた顔の見える関係作りの推進

② 相談ケースに対して、丁寧な対応を行い、札幌市委託障がい者相談支援事業所、医療機関、区役所、各福祉事業所との連携体制の構築

③ 札幌市南区自立支援協議会役員として、南区内障がい関係事業所との連携体制の構築

（3）コンプライアンス体制の確立

定例会議、ミーティング等において、ケース・事例検討の実施や契約関係書類及び経過記録の確認を実施した。

（4）コスト管理の徹底

事業所の実績状況、収入状況については、毎月確認を行い、管理者並びに相談支援専門員ともに経営意識を高く持つことができている。現状としては、計画作成件数の増加に向けて取り組むことが急務なため、コストを意識しつつも、実績の向上、増収に向けて精力的に活動を展開している。また、相談ケースの増加に合わせて、業務効率化のために業務整理等を随時行っている。

## 3．事業運営状況

（1）職員の配置状況（平成 30 年 3 月 31 日現在）

| 職　種 | 人　数 | 資　格 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 管理者兼<br>相談支援専門員 | 1 人 | 社会福祉士 | |
| 相談支援専門員 | 1 人 | 社会福祉士・介護福祉士 | ― |
| 計 | 2 人 | ― | ― |

（2）相談ケースの確保状況

① 札幌市自立支援協議会南区地域部会（以下南区地域部会）

南区内障がい関係事業所及び行政で構成される南区地域部会において、管理者は事務局として参画し、福祉・医療・教育・就労・行政との信頼関係構築を図ることができ、南区地域部会役員の行政担当者、福祉事業者等からのケース紹介を得ることができた。

② 相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、医療機関等との関係構築について

今年度も新規ケースを断らず、丁寧な対応を心がけ、専門職としての信頼関係構築を行い、より幅広い事業所等から新規ケース紹介を得ることができた。また、計画・モニタリング件数も順調に伸びている。

一方、入所施設からの新規相談の減少（一通りの利用者分を作成したため）があり、新規相談ケースが昨年に比べ、減少している。

| 紹介経路 | 基本相談 | 計画相談 | 障害児計画相談 | 地域移行計画相談 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 法人内施設 | 0 | 7 | 2 | 0 | 9 |
| 法人内ＳＲＶ | 1 | 3 | 0 | 0 | 4 |
| 他相談支援事業所 | 2 | 22 | 0 | 0 | 24 |
| 医療機関 | 1 | 5 | 0 | 0 | 6 |
| ご家族・本人 | 3 | 4 | 1 | 0 | 8 |
| 行政機関 | 1 | 2 | 0 | 0 | 3 |
| その他 | 2 | 11 | 3 | 0 | 16 |
| 計 | 10 | 54 | 6 | 0 | 70 |

## （3）相談対応実績

① 新規相談ケース

| | 申請済み | 未申請 | 計 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|
| 4月 | 5 | 4 | 9 | 3 |
| 5月 | 2 | 5 | 7 | 1 |
| 6月 | 3 | 5 | 8 | 1 |
| 7月 | 2 | 1 | 3 | 3 |
| 8月 | 4 | 2 | 6 | 5 |
| 9月 | 4 | 4 | 8 | 3 |
| 10月 | 3 | 1 | 4 | 3 |
| 11月 | 2 | 3 | 5 | 10 |
| 12月 | 2 | 2 | 4 | 2 |
| 1月 | 2 | 6 | 8 | 22 |
| 2月 | 3 | 3 | 6 | 35 |
| 3月 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 計 | 33 | 37 | 70 | 90 |

② 新規相談ケース紹介経路

| | 法人内施設 | 法人内SRV | 他相談支援 | 医療機関 | ご家族 | 行政機関 | その他 | 計 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 2 | 0 | 4 | 0 | 0 | 1 | 2 | 9 | 3 |
| 5月 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 4 | 7 | 1 |
| 6月 | 0 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 3 | 8 | 1 |
| 7月 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 8月 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 1 | 6 | 5 |
| 9月 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 0 | 3 | 8 | 3 |
| 10月 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 4 | 3 |
| 11月 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 2 | 5 | 10 |
| 12月 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 4 | 2 |
| 1月 | 0 | 0 | 2 | 3 | 2 | 0 | 1 | 8 | 22 |
| 2月 | 0 | 1 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 6 | 35 |
| 3月 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 2 |
| 計 | 3 | 4 | 26 | 6 | 8 | 4 | 19 | 70 | 90 |

③ 新規相談ケース障がい福祉サービス事業所への紹介件数（法人内）

| | 生活介護 | ホームヘルプ | 短期入居 | 入居 | 高齢者サービス | その他 | 計 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 5月 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 |
| 6月 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 |
| 7月 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 8月 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 9月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10月 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 11月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2月 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 3月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 3 | 8 | 0 | 0 | 2 | 0 | 13 | 4 |

④ 相談支援給付費対象相談件数（計画、継続支援、地域移行支援）

| | 区分1 | 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 非該当 | 計 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 0 | 10 | 9 | 10 | 3 | 9 | 10 | 51 | 62 |
| 5月 | 0 | 13 | 7 | 11 | 7 | 13 | 9 | 60 | 53 |
| 6月 | 0 | 13 | 13 | 12 | 4 | 13 | 10 | 65 | 53 |
| 7月 | 0 | 11 | 19 | 8 | 5 | 14 | 10 | 67 | 54 |
| 8月 | 1 | 14 | 7 | 6 | 7 | 10 | 3 | 48 | 43 |
| 9月 | 1 | 16 | 8 | 10 | 8 | 16 | 10 | 69 | 61 |
| 10月 | 0 | 12 | 8 | 10 | 6 | 8 | 9 | 53 | 49 |
| 11月 | 0 | 11 | 10 | 15 | 5 | 11 | 10 | 62 | 49 |
| 12月 | 0 | 10 | 10 | 10 | 10 | 20 | 12 | 72 | 70 |
| 1月 | 0 | 15 | 11 | 14 | 10 | 13 | 9 | 72 | 64 |
| 2月 | 0 | 10 | 6 | 8 | 11 | 13 | 9 | 57 | 49 |
| 3月 | 1 | 15 | 9 | 15 | 5 | 14 | 11 | 70 | 74 |
| 計 | 3 | 150 | 117 | 129 | 81 | 154 | 112 | 746 | 681 |

**（4）職員研修、相談支援技術の向上を図る取り組み**

① 定例会議、個人面談の実施

定期的に定例会議を開催し、その中で全てのケースに係るケース検討等を実施し、情報の共有、方針・方向性の確認を行った。また、職員育成、個人目標達成のため、相談支援専門員との個人面談を年２回実施した。

② 外部研修への参加

札幌市及び基幹型相談支援事業所、自立支援協議会関係の研修会へ参加し、専門的な知識を身に付けると同時に関係機関との関係をより強いものにすることができた。法人内研修に参加させていただき、リスク管理について、再度振り返ることができた。

③ 研修状況

＜法人内研修・職員有志研修＞

| 開催日 | 会議・研修名 | 研修主体 | 参加職種 |
|---|---|---|---|
| h29.6.9 | ワークライフバランスを実現するためのチームワークについて | 法人研修 | 相談支援専門員1名 |
| h29.8.16 | なぜ人と人は支え合うのか～相模原市障害者施設殺傷事件を踏まえて | 法人研修 | 相談支援専門員1名 |
| h29.10.8 | 人とのかかわり・発想の転換～しんどい時ほど笑え～ | 法人研修 | 相談支援専門員1名 |
| h29.12.6 | 事例から学ぶ介護事業者の事故対応 | 法人研修 | 相談支援専門員2名 |
| h30.2.26 | 「人」と「認知症」と向き合うという事 | 法人研修 | 相談支援専門員1名 |

＜外部研修＞

| 開催日 | 会議・研修名 | 研修主体 | 参加職種 |
|---|---|---|---|
| h29.6.16 | 平成30年障害者総合支援法改正～そのほか札幌の福祉サービスの現状も含めて～ | 札幌市 | 相談支援専門員2名 |
| h29.7.7 | 重症心身障がい児者の在宅ケア座談会 | 南・豊平区 | 相談支援専門員1名 |
| h29.8.30 | 地域移行支援を学ぶ～基本 | 札幌市 | 相談支援専門員1名 |
| h29.9.8 | 子ども達の生活を彩る場を知ろう | 南区 | 相談支援専門員1名 |
| h29.10.10～11 | 全国地域生活定着支援センター協議会　北海道・東北ブロック研修会 | 地域生活定着支援センター | 相談支援専門員2名 |
| h29.11.2 | 医療観察制度地域連絡協議会 | 札幌市 | 相談支援専門員2名 |
| h28.11.14 | 全国児童発達支援施設運営協議会 | 日本知的障害者福祉協会児童発達支援部会 | 相談支援専門員1名 |
| h30.1.31～2.1 | 第17回地域生活支援推進研究会議 | 全国身体障害者施設協議会 | 相談支援専門員1名 |
| h30.2.23 | 「障がい分野とＭＳＷのお互いの理解を深める」医療福祉活動部公開部会 | 北海道医療大学 | 相談支援専門員1名 |
| h30.2.23 | 精神障がい者地域生活移行推進研修会 | 札幌市 | 相談支援専門員1名 |
| h30.3.1 | 「重度心身障がいを学ぶ」 | 札幌市 | 相談支援専門員1名 |
| h30.3.15 | アルコール依存のある違法行為をした障がい者・高齢者の地域生活支援の在り方を考える | 地域生活定着支援センター | 相談支援専門員2名 |

## ８．通所事業部

### １．通所事業部総括

平成２９年度より、通所事業所間のスムーズな情報交換、またご利用者確保、職員確保・育成、備品使用・購入等に対し、柔軟且つ効率的な運営を可能とすることを目的に、３通所事業所（和幸園デイサービスセンター、和幸園芸術の森デイサービスセンター「のえるの森」、生活介護事業所グリンハイム）を統括管理する通所事業部を創設した。組織体制は、通所事業部長、係長、各事業所主任の役職構成として、通所事業部各事業所の統括を部長及び係長により行った。

その結果として、これまで関わりの少なかった通所事業所間の情報交換、連携を図ることができるようになり、通所事業所合同研修会の開催や人事交流等も行うことができるようになった。また、運営の方法などの情報交換を行うことにより、運営管理や書類管理などを見直すことにより業務効率化と、適正化の情報共有することができた。また、求人・採用等についても、通所事業部としての働きかけができるようになったことは、組織として効率化を図ることができたものと評価している。

さらに、平成２９年度通所事業部創設の目的の１つであった新規事業の開設については、予定通り平成３０年４月１日付で機能訓練に特化したデイサービスとして、「和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森」を開設することとなった。特別養護老人ホーム和幸園を中心に取り組んできた自立支援介護の理論を基にした専門デイサービスとして運営をしていく。また、職員配置としては、通所事業所に所属する経験豊富な有資格職員を異動する等により、これまでのデイサービスの経験を活かすことで安心され、信頼される事業としてスタートすることを目指す。

現在、介護業界においては、通所系事業所の数が著しく増加する一方で、ここ数年では倒産も増加傾向にある。通所事業所の経営は、ますます難しい状況となっていくことが予想されるが、当法人の運営する通所事業所は、各々に創意工夫し、独自性と専門性を持って運営する事によって、ご利用者・ご家族からの信頼を獲得し、今年度も実績を上げることができた。

今後より一層、居宅介護支援事業所や相談支援事業所と連携し、専門性を活かしながら地域との交流を積極的に行い、そして地域に開かれた事業所として認知されるよう共生に向けて取り組んでいくことが、事業所として生き残っていくことに繋がるものと考えている。

## ９．和幸園デイサービスセンター

### １．事業活動報告

平成２９年度は「自立支援介護」の本格的な取り組みを開始し、職員間でも「基本ケア」「自立支援介護」に対する学習や研修に参加しながら理解を深めた。そのような取り組みを行っていく中で、ご利用者の中でも「水分」や「歩行」などの重要性の意識付けができてきており、自ら率先して取り組まれる方も増えてきている。合わせて、日頃より行っているレク活動や脳トレ活動にも意欲的に参加をすることができている。ご家族に対しては、送迎時や担当者会議等でご利用者の状況や困りごとなどの相談に対して、理論に基づいた適切なアドバイスや助言を行い、必要な関係各所への連絡体制などを構築していくように努めている。

事業所の実績としては、１日平均利用者数が３６．７７名となり、前年度と比較して０．８名の増加となっている。毎月比較的安定した利用状況ではあるが、１週間の中で利用人数に大きく差がある曜日もあり、今後

その部分をどのように調整をしていくかということも課題の一つと考えている。

冬期間の感染症として心配されていたインフルエンザによる利用キャンセルはごく少人数にとどまったが、他法人施設において１月～２月にかけてノロウイルスの蔓延により、その施設より通所している４名（延べ人数４４名）の方が利用停止を余儀なくされたため、一時的に実績の落ち込みが見られた。

新規のご利用者数は４３名となり、そのうち他法人居宅介護支援事業所からの依頼件数が昨年度同様に６割を超えており、信頼関係の構築ができてきている考えている。これに対して廃止のご利用者数は４２名で、その主な理由として長期の入院やご逝去、施設入所などがあげられる。

今後も安定した事業所運営ができるように、ケアマネジャーや関係機関との連絡を密にして、ケアプランに沿った介護計画書の作成やモニタリング、アセスメントの実施、新規加算への情報収集・書類の整備を行い法令を遵守するとともに、ご利用者お一人おひとりがその人らしい生活を目指していけるような支援を継続していきたいと考えている。

## ２．事業運営状況

### （１）職員配置状況（平成３０年３月３１日現在）

| 職　種 | 人数 | 区　分 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 常勤 | | 非常勤 | | |
| | | 専任 | 兼務 | 専任 | 兼務 | |
| 管理者 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 事業部長兼務 |
| 生活相談員 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 名介護職員兼務 |
| 介護職員 | 18 | 6 | 2 | 10 | 0 | 2 名相談員兼務 |
| 看護職員 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 名機能訓練指導員兼務 |
| 機能訓練指導員 | 5 | 2 | 0 | 0 | 3 | 3 名看護職員兼務 |
| 事務員 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | |
| エイド | 4 | 0 | 0 | 4 | 0 | |
| 計 | 36 | 10 | 5 | 15 | 6 | |

### （２）職員研修実施状況

| No | 開催日 | 研　修　名 | 参加職種 |
|---|---|---|---|
| 1 | H29.5.16 | 基本ケア研修 | 和デイ職員全体 |
| 2 | H29.6.9 | ワークライフバランスについて | 職員全体 |
| 3 | H29.7.3 | 介護支援専門員研修会 | 通所係長 |
| 4 | H29.7.6 | 北海道デイサービスセンター研究協議会 | 管理者他 |
| 5 | H29.8.16 | なぜ人と人は支え合うのか | 職員全体 |
| 6 | H29.8.21 | クレーム応対セミナー（困難編） | 通所係長 |
| 7 | H29.10.6 | 人との関わり・発想の転換 | 職員全体 |
| 8 | H29.10～H30.1 | リーダー研修 | 通所係長・主任相談員 |
| 9 | H29.10.12 | 高齢者虐待防止について | 和デイ職員全体 |
| 10 | H29.10.17 | 介護現場におけるリスクマネジメント | 主任相談員 |
| 11 | H29.10.19 | 感染症対策研修 | 職員全体 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 12 | H29.10.28～29 | 自立支援介護実践セミナー（基礎編） | キャリア正職 |
| 13 | H29.11.10 | H29 年度通所ケアマネジメント研修 | 介護職員 |
| 14 | H29.11.17 | 安全運転講習会 | 職員全体 |
| 15 | H29.11.21 | 介護・口腔ケアセミナー/口腔ケアの実践 | 通所職員全体 |
| 16 | H29.12.6 | リスクマネジメントについて | 職員全体 |
| 17 | H30.1.27～28 | 自立支援介護実践セミナー（事例検討編） | キャリア正職 |
| 18 | H30.2.26 | 人と認知症と向き合うということ | 職員全体 |

**（３）ご利用者状況**

① 利用者登録状況

| | 30.3.31 | 29.4.1～30.3.31 | | 29.3.31 |
|---|---|---|---|---|
| | ご利用者 | 新規<br>登録者 | 廃止者 | ご利用者 |
| 男 | 52 | 17 | 15 | 54 |
| 女 | 82 | 26 | 27 | 79 |
| 計 | 134 | 43 | 42 | 133 |

② 年齢別状況　（平成３０年３月末　実人員数）

| | ～59 | 60～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | H29 年度 | H28 年度 |
| 男 | 0 | 2 | 7 | 7 | 12 | 13 | 5 | 1 | 47 | 46 |
| 女 | 0 | 0 | 4 | 7 | 17 | 19 | 21 | 2 | 70 | 69 |
| 計 | 0 | 2 | 11 | 14 | 29 | 32 | 26 | 3 | 117 | 115 |

③ 要介護状態区分状況（平成３０年３月末現在）

| | | 要支援 1 | 要支援 2 | 要　介　護 | | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| 男　性 | | 3 | 2 | 21 | 8 | 10 | 2 | 2 | 48 |
| 女　性 | | 8 | 13 | 24 | 15 | 6 | 2 | 1 | 69 |
| 計 | H29 | 11 | 15 | 45 | 23 | 16 | 4 | 3 | 117 |
| | H28 | 8 | 15 | 39 | 27 | 15 | 8 | 3 | 115 |

④ ＡＤＬ区分

| | 自　立 | 一部介助 | 全介助 |
|---|---|---|---|
| 歩　行 | 105 | 26 | 3 |
| 排　泄 | 107 | 25 | 2 |
| 食　事 | 132 | 2 | 0 |
| 入　浴 | 38（サービス不要 16） | 78 | 2 |
| 更　衣 | 104 | 30 | 0 |

⑤ 取消理由状況

| | 平成 29 年度 | 平成 28 年度 |
|---|---|---|
| 死亡 | 12 | 12 |
| 入居 | 8 | 11 |
| 入院 | 13 | 14 |
| 引越し | 0 | 4 |
| その他 | 9 | 17 |
| 計 | 42 | 58 |

⑥ 月別利用状況

| | | | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 計 | 1 日平均 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | H29 | H28 |
| 実人員 | | | 117 | 122 | 118 | 114 | 117 | 120 | 118 | 118 | 119 | 113 | 113 | 117 | 1,406 | | |
| 実施日数 | | | 25 | 27 | 26 | 26 | 27 | 26 | 26 | 26 | 26 | 24 | 24 | 27 | 310 | | |
| 延べ利用人員 | | | 897 | 982 | 938 | 935 | 1,001 | 992 | 986 | 936 | 990 | 860 | 845 | 1,001 | 11,395 | | |
| 1 日平均利用数 | | | 35.8 | 36.3 | 36.0 | 35.9 | 37.4 | 38.1 | 37.9 | 36.8 | 38.1 | 35.8 | 35.2 | 37.0 | | 36.7 | 35.9 |
| 介護状態区分 | 要支援 1 | | 41 | 27 | 34 | 26 | 38 | 31 | 33 | 36 | 33 | 26 | 28 | 44 | 397 | | |
| | 要支援 2 | | 119 | 131 | 120 | 115 | 108 | 109 | 116 | 109 | 105 | 87 | 92 | 110 | 1321 | | |
| | 要介護 | 1 | 329 | 381 | 374 | 332 | 386 | 392 | 385 | 359 | 384 | 335 | 314 | 379 | 4,350 | | |
| | | 2 | 183 | 188 | 179 | 197 | 197 | 201 | 212 | 207 | 224 | 196 | 184 | 207 | 2,375 | | |
| | | 3 | 146 | 167 | 150 | 182 | 172 | 171 | 160 | 153 | 173 | 156 | 166 | 192 | 1,988 | | |
| | | 4 | 53 | 58 | 56 | 52 | 67 | 58 | 56 | 48 | 47 | 40 | 40 | 26 | 601 | | |
| | | 5 | 26 | 30 | 25 | 31 | 33 | 30 | 24 | 24 | 24 | 20 | 21 | 43 | 331 | | |

（4）苦情受付件数　（　）内H28 年度

| | 件　数 |
|---|---|
| 介護に関する事 | 1（0） |
| 職員に関する事 | 1（1） |
| その他 | 1（0） |
| 計 | 3（1） |

（5）事故報告件数　（　）内H28 年度

| | 件　数 | 施設外受診 |
|---|---|---|
| 転　倒 | 11（1） | 2（1） |
| 介護上の事故 | 1（0） | 0 |
| 異　食 | 1（1） | 0 |
| 誤　薬 | 1（0） | 0 |
| その他 | 5（1） | 0 |
| ヒヤリハット | 3（0） | 0 |
| 計 | 22（3） | 2（1） |

（６）行事及び活動実施状況

| 月 | 日　程 | 行事及び活動内容 | 延べ参加人数 |
|---|---|---|---|
| 4 月 | 4 月 17 日～21 日（5 日間） | 外出行事　＝喫茶レク　定山渓ビューホテル＝ | 80 名 |
| 5 月 | 5 月 3 日～ 9 日（うち 6 日間） | 外出行事　＝お花見　石山緑地＝ | 95 名 |
| 6 月 | 6 月 12 日～ 17 日（6 日間） | 演芸週間（コーラス、手品、サックス演奏、フラダンス、ハーモニカ演奏、日本舞踊、バイオリン） | 214 名 |
| 7 月 | 6 月末～7 月 7 日 | 七夕かざり | |
| | 7 月 10 日～14 日（5 日間） | 外出行事　＝大通公園＝ | 68 名 |
| 8 月 | 8 月 14 日～ 19 日（6 日間） | 夏祭り | 214 名 |
| 9 月 | 9 月 3 日（1 日間） | ハピニス祭 | 40 名 |
| | 9 月 11 日～ 16 日（6 日間） | 敬老会 | 228 名 |
| 10 月 | 10 月 30 日～11 月 4 日 15 日（6 日間） | 秋の味覚会（ジャガイモ、かぼちゃ、さつまいも） | 183 名 |
| 11 月 | 11 月 6 日～ 10 日（5 日間） | 外出行事　＝外食会（和食レストランとんでん川沿店）＝ | 85 名 |
| 12 月 | 12 月 18 日～23 日（6 日間） | クリスマス会 | 227 名 |
| | 12 月 26 日（1 日間） | もちつき | 37 名 |
| 1 月 | 1 月 4 日～10 日（6 日間） | 宝引き | 225 名 |
| | 1 月 29 日～2 月 3 日（6 日間） | 節分 | 214 名 |
| 2 月 | 2 月 5 日～ 10 日（5 日間） | 雪まつりスライドショー | 207 名 |
| | 2 月 26 日～3 月 3 日（6 日間） | ひな祭り | 221 名 |
| 3 月 | 3 月 19 日～ 24 日（6 日間） | 年度末ゲーム大会 | 210 名 |

（７）ボランティア受け入れ状況

・有償ボランティア　　２名　週６回（午前３回・午後３回）利用者お茶提供、洗い物、掃除など

（８）実習生受け入れ状況

・大原医療福祉専門学校　１１月　　４名
・札幌医科大学　　４月　　４名
・鹿光学習センター　　年間　１３名
・サンシャイン総合学園　　年間　　５名
・北星学園　　６月　　１名
　　８月　　１名
・認知症実践者研修実習　１１月　　２名

## １０．和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森

### １．事業活動報告

平成２９年度の目標は、前年度の利用実績を維持するため、登録者数３５名、一日平均利用者数９．６名を目標に取り組んできた。法人内居宅からの新規紹介が７名（前年度は４名）、法人外居宅からの新規紹介で５名ご利用頂く事ができた。施設入所などによる廃止者は１０名、平成３０年３月３１日現在の登録者数３０名（年間平均は３０．３３名）、年間一日平均利用者数は１０．７１名（前年度１０．８６名）、ショートステイ利用やキャンセル等で空きが出た時に振替利用・追加利用を提

案し実績維持に努め、平均利用者数１１名を超えた月が計４カ月に及んだ。曜日により人数の偏りが見られた時は、ご利用者・ご家族とケアマネジャーと相談し曜日変更して頂く事で平均的な利用状況や新規・追加利用に繋げる事ができた。広報紙は月１回定期的に発行しホームページにも掲載した。今後もショートステイ利用によるキャンセルや入院、施設入居等への迅速な対応、常に新規獲得できるよう法人内居宅に限らず、法人外居宅への定期的な情報発信を行っていきたい。

前年度同様に、通常のサービス提供時間にご利用頂く事ができない方へ送迎時間を変更する等、柔軟な対応をする事で利用に繋がったケースも多い。綿密な受け入れ態勢で、ご利用者、ご家族のニーズに合わせたサービスを提供してきた職員の力が生んだ結果と考えられる。今年度は２回家族会を開催し、９～１２名の方が参加された。１０月はご家族同士交流を深める会、３月は運営推進会議も兼ねて開催した。毎回当センターで活動されているご様子をスライドショーでご覧頂き、最後には介護職員による弾き語りをお聴き頂いた。夏祭りは途中雨が降る事もあったが予め用意しておいたタープを利用するなど職員の臨機応変な対応により、屋外で最後まで行う事ができ、職員が変装した歌謡ショーやフラダンス、風船ゲームなど、ご参加頂いたご利用者・ご家族から楽しかったというご意見を頂いた。クリスマス会は３４名のご利用者とご家族にご参加頂いたが、テーブルの配置などを工夫し限られたスペースの中でも皆さんで参加できる催しを行う事ができた。定期的に大道芸人による催しや、音楽療法を取り入れ普段とは一味違う脳リハビリ活動を行う事ができた。外出行事では動物園見学や、ドライブで植物見学等に出掛け季節感の喚起を図り、ショッピングモールや地域のカフェでの昼食会を行った。今後も、地域との繋がりを深め、地域から必要とされる事業所を目指していきたい。

また、認知症の専門として、日常的に自立支援介護の理論を学び、基本ケアの視点で水分摂取や運動など、よりご本人の気持ちに寄り添う支援を職員全員で目指してきた。それにより職員の専門性も向上してきた。今後も、自立支援介護の視点でご利用者お一人おひとりに必要なケアを行うために学び実践し認知症状の改善ができるデイサービスとして信頼を得ていきたいと考えている。また、法人主催の認知症状改善塾に参加し日頃の知識や経験をお伝えしている。今後も地域にお住いの認知症状の方々がいつまでも幸せに過ごせるよう支援していきたい。

## ２．事業運営状況

① 職員配置状況

| 職　　種 | 人数 | 区　　分 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 常勤 | | 非常勤 | | |
| | | 専任 | 兼務 | 専任 | 兼務 | |
| 管理者 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 主任生活相談員兼務 |
| 生活相談員 | 3 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1名管理者兼務、1名介護職員兼務 |
| 介護職員 | 15 | 0 | 0 | 14 | 1 | 1名生活相談員兼務 |
| 看護職員 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 機能訓練指導員兼務 |
| 機能訓練指導員 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 看護職員兼務 |
| 事務員 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | |
| エイド | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | |
| 計 | 28 | 1 | 2 | 17 | 8 | 再掲あり |

② 職員研修実施状況

| No. | 開催日 | 研　修　名 | 開催地 | 参加職種 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | H29.4～H30.3<br>毎月１回 | 音楽療法研修 | 札幌市 | 介護職員 |
| 2 | H29.10～H30.1<br>毎月１回 | リーダー職以上研修 | 法人内 | 管理者 |
| 3 | H30.1～4<br>毎月１回 | 自立支援介護実践研修 | 法人内 | 生活相談員 |
| 4 | H29.6.9 | ワークライフバランス | 事業所内 | 職員全体 |
| 5 | H29.6.13 | 接遇について | 法人内 | 職員全体 |
| 6 | H29.7.19 | 認知症介護基礎研修 | 札幌市 | 介護職員 |
| 7 | H29.8.16 | なぜ人と人は支え合うのか | 法人内 | 職員全体 |
| 8 | H29.8.23 | メンタルヘルスについて | 札幌市 | 生活相談員 |
| 9 | H29.9.12 | メンタルヘルスについて | 事業所内 | 職員全体 |
| 10 | H29.9.12 | 生活相談員の業務について | 札幌市 | 生活相談員 |
| 11 | H29.9.16 | 急変時の介護医学について | 札幌市 | 看護職員 |
| 12 | H29.10.6 | 人との関わり・発想の転換について | 法人内 | 職員全体 |
| 13 | H29.11.14 | 防災訓練について | 事業所内 | 職員全体 |
| 14 | H29.11.17 | 安全運転研修 | 法人内 | 職員全体 |
| 15 | H29.12.6 | リスクマネジメントについて | 法人内 | 職員全体 |
| 16 | H30.1.9 | タッピングタッチケア | 事業所内 | 職員全体 |
| 17 | H30.1.27～28 | 自立支援介護実践セミナー | 札幌市 | 管理者 |
| 18 | H30.2.13 | 認知症ケア（ユマニチュード） | 事業所内 | 職員全体 |
| 19 | H30.2.20 | 施設長研修 | 札幌市 | 管理者 |
| 20 | H30.2.26 | 人と認知症と向き合うという事 | 法人内 | 職員全体 |

③ ご利用者登録状況

| | 30.3.31 | 29.4.1～30.3.31 | | 29.3.31 |
|---|---|---|---|---|
| | 登録者 | 新規者 | 廃止者 | 登録者 |
| 男 | 11 | 6 | 2 | 7 |
| 女 | 19 | 6 | 8 | 21 |
| 計 | 30 | 12 | 10 | 28 |

④ 年齢別状況

| | 55～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 計 | | 平均年齢 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | H29 | H28 | H29 | H28 |
| 男　　性 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 4 | 1 | 0 | 11 | 7 | 83.3 | 82.7 |
| 女　　性 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 | 8 | 2 | 3 | 19 | 21 | 87.0 | 87.2 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 4 | 8 | 12 | 3 | 3 | 30 | 28 | 85.2 | 84.9 |

⑤ 要介護状態区分状況

| | | 介護度 | | | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 支援 2 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| 男性 | | 1 | 2 | 4 | 1 | 2 | 1 | 11 |
| 女性 | | 0 | 2 | 10 | 5 | 1 | 1 | 19 |
| 計 | H29 | 1 | 4 | 14 | 6 | 3 | 2 | 30 |
| | H28 | 0 | 6 | 9 | 9 | 1 | 3 | 28 |

⑥ ＡＤＬ状況

| | 自力可能 | | | 一部介助 | | | 全介助 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 |
| 歩　　行 | 8 | 9 | 17 | 1 | 8 | 9 | 2 | 2 | 4 |
| 排　　泄 | 6 | 6 | 12 | 3 | 10 | 13 | 2 | 3 | 5 |
| 食　　事 | 9 | 18 | 27 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 入　　浴 | 6 | 7 | 13 | 5 | 10 | 15 | 0 | 2 | 2 |
| 着　脱　衣 | 6 | 8 | 14 | 4 | 8 | 12 | 1 | 3 | 4 |

⑦ 認知状況

| | 記　憶　障　害 | | | | 失　見　当　識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 重度 | 中度 | 軽度 | 計 | 重度 | 中度 | 軽度 | 計 |
| 男　　性 | 1 | 8 | 2 | 11 | 2 | 6 | 3 | 11 |
| 女　　性 | 1 | 10 | 8 | 19 | 1 | 11 | 7 | 19 |
| 計 | 2 | 18 | 10 | 30 | 3 | 17 | 10 | 30 |

⑧ 認知症状類型

| 種類 | 計 | |
|---|---|---|
| | 平成 29 年 | 平成 28 年 |
| アルツハイマー型認知症 | 15 | 15 |
| レビー小体型認知症 | 4 | 3 |
| 脳血管性認知症 | 1 | 1 |
| ピック病（前頭側頭型） | 1 | 0 |
| その他（混合型・不明） | 9 | 9 |

⑨ 廃止理由状況

| | 男 | 女 | 計 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | H29 | H28 |
| 死亡 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 長期欠席 | 0 | 2 | 2 | 0 |
| 入院・入居 | 2 | 6 | 8 | 4 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 計 | 2 | 8 | 10 | 8 |

⑩ ご利用者世帯状況

| | | 独居 | 夫婦 | 息子と同居 | 娘と同居 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男　　性 | | 0 | 7 | 0 | 1 | 3 | 11 |
| 女　　性 | | 3 | 4 | 1 | 3 | 8 | 19 |
| 計 | H29 | 3 | 11 | 1 | 4 | 11 | 30 |
| | H28 | 4 | 11 | 1 | 6 | 6 | 28 |

⑪ 月別利用状況

| 項　目 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 1日平均 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | H29年 | H28年 |
| 実人員 | | 26 | 27 | 31 | 31 | 31 | 31 | 31 | 31 | 31 | 32 | 33 | 33 | 368 | | |
| 実施日数 | | 25 | 27 | 26 | 26 | 27 | 26 | 26 | 26 | 26 | 24 | 24 | 27 | 310 | | |
| 延べ利用人員 | | 254 | 271 | 283 | 283 | 281 | 290 | 288 | 270 | 269 | 275 | 267 | 291 | 3,322 | | |
| 1日平均利用者数 | | 10.16 | 10.03 | 10.88 | 10.88 | 10.40 | 11.15 | 11.07 | 10.38 | 10.34 | 11.45 | 11.12 | 10.77 | | 10.71 | 10.86 |
| 支援 | 2 | 0 | 0 | 1 | 4 | 4 | 3 | 4 | 7 | 8 | 7 | 7 | 8 | 53 | 0.17 | 0 |
| 介護度 | 1 | 39 | 46 | 42 | 43 | 44 | 45 | 51 | 37 | 41 | 31 | 32 | 36 | 487 | 1.57 | 1.96 |
| | 2 | 87 | 98 | 90 | 87 | 82 | 91 | 96 | 107 | 87 | 116 | 101 | 131 | 1,173 | 3.78 | 4.59 |
| | 3 | 90 | 95 | 119 | 113 | 119 | 117 | 106 | 86 | 102 | 94 | 91 | 75 | 1,207 | 3.89 | 2.85 |
| | 4 | 16 | 12 | 12 | 14 | 11 | 11 | 10 | 21 | 22 | 20 | 29 | 32 | 210 | 0.68 | 0.15 |
| | 5 | 22 | 20 | 19 | 22 | 21 | 23 | 21 | 12 | 9 | 7 | 7 | 9 | 192 | 0.62 | 1.31 |

⑫ 苦情受付件数

| | 件　数 | |
|---|---|---|
| | 平成29年度 | 平成28年度 |
| 介護等に関すること | 0 | 0 |
| 職員に関すること | 2 | 1 |
| その他 | 0 | 1 |
| 計 | 2 | 2 |

⑬ 事故報告件数

| | 件　数 | |
|---|---|---|
| | H29年度 | H28年度 |
| 転　　倒 | 1 | 1 |
| 介護上の事故 | 1 | 2 |
| 異　　食 | 0 | 0 |
| そ　の　他 | 4 | 2 |
| ヒヤリハット | 4 | 1 |
| 計 | 10 | 6 |

⑭ 行事及び活動実施状況

| 月 | 行　事 |
|---|---|
| 4月 | 音楽レク・大道芸 |
| 5月 | お花見ドライブ |
| | のえる森誕生会～祝10歳～ |
| | 苗植え |
| | 端午の節句 |
| | 音楽レク |
| | 大道芸 |
| 6月 | 音楽療法・大道芸 |
| | お花見ドライブ |
| | 円山動物園見学会 |
| 7月 | 避難訓練 |
| | 音楽療法 |
| | お花見ドライブ |
| | 運営推進会議 |
| 8月 | 音楽療法 |
| | 夏祭り |
| | お花見ドライブ |
| 9月 | 敬老会 |
| | 芸術の森見学会 |
| | 大道芸 |

| 月 | 行　事 |
|---|---|
| 10月 | 紅葉狩り |
| | 音楽療法 |
| | 大道芸 |
| | 家族会 |
| 11月 | 紅葉狩り・外食会 |
| | 避難訓練 |
| | お茶の間懇談会 |
| | 音楽療法・大道芸 |
| 12月 | クリスマス会 |
| | 音楽療法・大道芸 |
| 1月 | 初詣 |
| | 音楽療法・大道芸 |
| | 外食会 |
| 2月 | 節分 |
| | 外食会 |
| 3月 | 大道芸 |
| | 音楽療法 |
| | ひな祭り |
| | 家族会 |
| | 運営推進会議 |

⑮ 有償ボランティア受入状況

| 人　数 | 回　数 | 活動内容 | 活動開始年月 |
|---|---|---|---|
| 1名 | 週4回 | 屋内外の整備等 | 平成22年 4月 |

⑯ 地域貢献活動（福祉教育）

職業体験・実習生受入状況

・平成２９年１１月１７日　１０：００～１５：００

藤野中学校職業体験　　２名

## １１．生活介護支援事業所グリンハイム

### １．事業実績の要約・課題

平成２９年度は、新たに医療的ケア（痰の吸引）が必要な利用者を受け入れ、事業所として利用者の受け入れる幅が広がるきっかけを作ることができた。看護師の体制上、医療的ケアが必要な利用人数には制限があるが、今後の新規利用受け入れ時に柔軟に対応できるようになった事は大きな成果であったと考える。

事業所の年間事業実績は、１日平均利用者数１３．９５名と前年度比でマイナス０．８５名（延べ２３５名）の利用実績減となった。年間を通して新規利用者は５名、廃止者は９名と、廃止者が多く登録人数が減少する結果であった。特に年明け以降に体調が急変するなどして、急な廃止者が連続したことが実績減少の要因であったと考える。

財務面では重度ご利用者の受け入れを進めた事で、障がい区分５・６割合が６８％を超え「人員配置体制

加算Ⅰ」を取得し、安定した収益を得ることができた。次年度においても障がい区分５・６割合６０％以上を確実に維持する為に、日々の実績管理を行っていくことが求められる。地域との連携において、札幌市自支援協議会南区地域子ども部会へ参加し、研修や交流の中で他事業所や養護学校と連携強化を図ることができた。今後も養護学校の実習生を積極的に受け入れ、将来的なご利用者の確保を行っていきたい。

人員の面では、職員一丸となって新規採用のパート介護員へ教育を行ったことで、早期に現場で活躍する事ができた。今後も職員育成に取り組むと共に、毎年、春先に家庭環境の変化によるパート介護員退職が予想されるため、事前に状況を把握し、ご利用者に不利益を与えないよう計画的にパート介護員の確保を行い、事業所の安定運営を図っていきたい。

次年度における大きな課題として、新規ご利用者の獲得があげられる。今後、ご利用者の高齢化が更に進み、利用廃止者が増加する可能性が予想されるので、実績を維持していく為に対策が急務である。南区内にある相談支援事業所、養護学校、知的障がい施設等へのアプローチをひとつずつ丁寧に行っていきたい。特に相談支援事業所グリンハイムとの連携強化を図り、新規ご利用者確保に努めていきたい。また、ショートステイ利用ができる施設と併設している強みを生かし、ショートステイと絡めた利用者の獲得も行っていきたい。

## ２．事業運営状況

### （１）職員配置

| 職　　名 | 現　員　数 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 管理者 | 1 | 常勤兼務(正職員) |
| サービス管理責任者 | 1 | 常勤（正職員） |
| 看護師<br>機能訓練指導員 | 2 | 非常勤職員 |
| 生活支援員(介護員) | 15 | 正職員２名 非常勤職員 13 名 |
| 計 | 19 | |

### （２）職員研修実施状況

【施設外研修】

| NO | 研　　修　　名 | 開催日 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 自立支援介護実践セミナー（基礎編） | 29.10.28・29 | １名 |
| 2 | 自立支援介護実践セミナー（事例検討編） | 30.1.27・28 | １名 |
| 3 | 障がい者支援員養成研修　レベル２ | 30.2.27・28 | １名 |

### （３）ボランティアの受入状況

有償ボランティア・・・・・１名　月～金曜日　１１時３０分から１５時３０分

有償運転ボランティア・・・１名　月・火・木・金曜日　朝・夕の送迎時間内のみ

### （４）実習生受け入れ状況

鹿光学習センター　介護職員初任者研修１日実習　２名　１１月・１月

介護職員実務者研修２～４日間実習　８名　６～１２月

せいとく介護こども福祉専門学校（介護実習５日間）　１名　１１月

（5）ご利用者状況

① ご利用者登録状況

| 区 分 | 30年3月31日 | 29年4月1日～30年3月31日 | | 29年3月31日 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 登　　録<br>ご利用者 | 新　　規<br>登 録 者 | 登　　録<br>廃 止 者 | 登　　録<br>ご利用者 | |
| 男性 | 14 | 3 | 7 | 18 | |
| 女性 | 27 | 2 | 2 | 27 | |
| 計 | 41 | 5 | 9 | 45 | |

② 登録廃止理由状況（平成30年3月末現在）

| | 男性 | 女性 | 計 | 平成28年度 |
|---|---|---|---|---|
| 死亡 | 4 | 0 | 4 | 1 |
| 長期入院 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 施設入居 | 2 | 1 | 3 | 0 |
| 地域移行 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 1 | 1 | 2 | 0 |
| 計 | 7 | 2 | 9 | 1 |

③ 年齢別状況（平成30年3月末現在）

| 区　　分 | ～20歳未満 | 20～30歳未満 | 30～40歳未満 | 40～50歳未満 | 50～60歳未満 | 60～70歳未満 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 0 | 0 | 4 | 1 | 3 | 4 |
| 女性 | 0 | 3 | 7 | 4 | 4 | 4 |
| 計 | 0 | 3 | 11 | 5 | 7 | 8 |
| 区　分 | 70歳～ | | 計 | 最低年齢 | 最高年齢 | 平均年齢 |
| 男性 | 2 | | 14 | 31 | 72 | 53.53 |
| 女性 | 5 | | 27 | 22 | 82 | 50.70 |
| 計 | 7 | | 41 | | | 51.76 |

④ 疾患別・障害程度区分別状況（平成30年3月末現在）

| | 疾 患 別 状 況 | | | 障害程度区分別状況 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男性 | 女性 | 計 | 2 | | 3 | | 4 | | 5 | | 6 | |
| | | | | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 |
| 脳性麻痺 | 3 | 8 | 11 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 6 |
| 脳血管障害 | 3 | 4 | 7 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 心臓病 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 頭部外傷 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 視覚障害 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| リウマチ | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 知的障害 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| その他 | 3 | 12 | 15 | 0 | 0 | 2 | 5 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 計 | 14 | 27 | 41 | 0 | 0 | 5 | 7 | 5 | 3 | 0 | 2 | 4 | 15 |

⑤ ＡＤＬ状況（平成 30 年 3 月末現在）

| | 食　事 | | | | 更　衣 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 全介助 | 一部介助 | 自立 | 計 | 全介助 | 一部介助 | 自立 | 計 |
| 脳性麻痺 | 5 | 2 | 4 | 11 | 7 | 1 | 3 | 11 |
| 脳血管障害 | 1 | 1 | 5 | 7 | 2 | 0 | 5 | 7 |
| 心臓病 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 頭部外傷 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 視覚障害 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| リウマチ | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 知的障害 | 0 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| その他 | 5 | 1 | 9 | 15 | 7 | 1 | 7 | 15 |
| 計 | 11 | 9 | 21 | 41 | 19 | 5 | 17 | 41 |
| | 排　泄 | | | | 入　浴 | | | |
| | 全介助 | 一部介助 | 自立 | 計 | 全介助 | 一部介助 | 自立 | 計 |
| 脳性麻痺 | 7 | 1 | 3 | 11 | 8 | 3 | 0 | 11 |
| 脳血管障害 | 1 | 1 | 5 | 7 | 2 | 4 | 1 | 7 |
| 心臓病 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 頭部外傷 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 視覚障害 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| リウマチ | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 知的障害 | 1 | 2 | 0 | 3 | 2 | 1 | 0 | 3 |
| その他 | 6 | 2 | 7 | 15 | 6 | 5 | 4 | 15 |
| 計 | 15 | 10 | 16 | 41 | 21 | 14 | 6 | 41 |

⑥ 移動の状況（平成 30 年 3 月末現在）

| | 全介助 | 補助具使用で歩行可能 | 車椅子で移動可能（電動含む） | 独歩可能（不安定者含む） | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 脳性麻痺 | 7 | 0 | 3 | 1 | 11 |
| 脳血管障害 | 1 | 0 | 4 | 2 | 7 |
| 心臓病 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 頭部外傷 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 視覚障害 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| リウマチ | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 知的障害 | 1 | 0 | 0 | 2 | 3 |
| その他 | 5 | 1 | 5 | 4 | 15 |
| 計 | 15 | 1 | 16 | 9 | 41 |

⑦ 言語障害の状況（平成30年3月末現在）

| | 正　常 | ほぼ聞き取れる | 半分程度聞き取れる | 時々聞き取れる | 会話不能 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 脳性麻痺 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 11 |
| 脳血管障害 | 2 | 4 | 0 | 0 | 1 | 7 |
| 心臓病 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 頭部外傷 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 視覚障害 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| リウマチ | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 知的障害 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| その他 | 8 | 0 | 0 | 1 | 5 | 14 |
| 計 | 17 | 7 | 3 | 5 | 9 | 41 |

**（6）苦情処理状況　（　）は平成28年度分**

| | 件　　数 | 第三者機関依頼 |
|---|---|---|
| 職員との関係 | 0　(0) | 0　(0) |
| 運営等関係 | 0　(1) | 0　(0) |
| 計 | 0　(1) | 0　(0) |

**（7）事故発生状況　（　）は平成28年度分**

| | 件数 | 施設外受診対応 |
|---|---|---|
| 転倒 | 2　(2) | 0　(1) |
| 誤薬 | 0　(1) | 0　(0) |
| 介護事故 | 1　(0) | 1　(0) |
| その他 | 0　(0) | 0　(0) |
| 計 | 3　(3) | 0　(1) |

**（8）活動内容・行事他**

① 活動・行事内容

| 月 | 行　事 | 創作活動 |
|---|---|---|
| 4月 | | 折り紙製作教室<br>鯉のぼり製作 |
| 5月 | 園芸活動～花、野菜などの植物を育てよう<br>外出行事（アリオ・札幌ビール園） | 樹脂粘土製作<br>さくらの木飾り製作 |
| 6月 | 外出行事（札幌駅周辺）<br>外出行事（アリオ・札幌ビール園）<br>移動動物園　見学 | 夏の飾り作り |
| 7月 | 外出行事（新千歳空港）<br>外出行事（小樽・札幌駅） | 七夕飾り製作<br>和紙工作 |
| 8月 | バーベキュー（中庭にて）４回 | 折り紙製作教室<br>調理教室 |
| 9月 | バーベキュー（中庭にて）１回<br>たこ焼きパーティー　２回 | ハロウィンリース作り |

| | | |
|---|---|---|
| 10月 | 焼き芋パーティー　4回 | ハロウィンリース作り<br>トレー作り |
| 11月 | たこ焼きパーティー　4回 | クリスマス飾り製作 |
| 12月 | クリスマス会　1回<br>餅つき見学 | クリスマス飾り製作<br>正月飾り製作 |
| 1月 | 新春ビンゴゲーム大会　5回<br>鍋料理の日（寄せ鍋）2回 | 春の飾り作り<br>節分お面作り |
| 2月 | 節分の豆まき<br>鍋料理の日（寄せ鍋）3回 | 和紙工作<br>ひな祭り飾り製作 |
| 3月 | どら焼きパーティー　4回 | 和紙工作<br>折り紙製作教室 |

② スポーツレク活動（H29.4～H30.3まで毎日午後に行っていた活動）
スカットボール、ボウリング、シャッフルゴルフ、ペットボトルボウリング、缶コロリンゲーム、シャッフルゲーム、ゲーゴルゴルフ、ゲーゴルゲーム、めくってポンゲーム、風船バレー、ペットボトルサッカー、物送りゲーム、豆まめリレー、アニマルゲーム、黒ひげゲーム、トランプ、外気浴、館内散歩

③ 個別活動：（H29.4～H30.3まで行っていた活動）
ストレッチ、マージャン、将棋、オセロ、花札、カラオケ、塗り絵、和紙工作、数学勉学、DVD 試聴、編み物、歩行訓練（廊下内）、日光浴、館内散歩

## （9）月別利用状況

| 項　目 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 区分別延ご利用者数（下段は登録数） | 登録者数 | 41 | 39 | 41 | 40 | 41 | 42 | 42 | 40 | 42 | 40 | 39 | 38 | |
| | 区分2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 5 | 4 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | |
| | 区分3 | 55 | 53 | 62 | 54 | 59 | 57 | 55 | 50 | 52 | 55 | 58 | 57 | |
| | | 11 | 10 | 9 | 9 | 9 | 9 | 10 | 9 | 10 | 11 | 11 | 10 | |
| | 区分4 | 45 | 43 | 53 | 46 | 53 | 50 | 41 | 47 | 47 | 43 | 46 | 51 | |
| | | 7 | 6 | 8 | 7 | 8 | 8 | 7 | 7 | 8 | 8 | 8 | 8 | |
| | 区分5 | 45 | 43 | 51 | 45 | 47 | 32 | 36 | 35 | 31 | 15 | 19 | 11 | |
| | | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | |
| | 区分6 | 176 | 178 | 198 | 197 | 206 | 197 | 206 | 187 | 189 | 172 | 162 | 195 | |
| | | 19 | 19 | 20 | 20 | 20 | 21 | 21 | 20 | 20 | 19 | 18 | 18 | |
| 開設日数 | | 23 | 23 | 25 | 24 | 25 | 23 | 24 | 23 | 22 | 22 | 22 | 25 | 281 |
| 延ご利用者数 | | 321 | 317 | 364 | 342 | 365 | 340 | 342 | 324 | 323 | 285 | 285 | 314 | 3,922 |
| 1日平均ご利用者数 | | 13.96 | 13.78 | 14.56 | 14.25 | 14.60 | 14.78 | 14.25 | 14.09 | 14.68 | 12.95 | 12.95 | 12.56 | 13.95 |
| 区分5・6の割合（%） | | 68.85 | 69.72 | 68.41 | 70.76 | 69.32 | 67.35 | 70.76 | 68.52 | 68.11 | 65.61 | 63.51 | 65.61 | 68.04 |

### ３．日中一時支援事業グリンハイム

（１）登録者（定員３名）

男性　０名

女性　０名

（２）月別利用状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4時間未満 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4時間以上～8時間未満 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8時間以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

## １２．地域事業部

### １．地域事業部総括

平成２９年度は、「地域との共存・共栄・共生」を目指し、地域の方々の要望に基づき、法人の地域貢献事業として実施している「いしやま朝市送迎バス」の運行が、以前から話のあった地域の他法人と協力し、エリア分け同時に複数方向で送迎を行うことで、一層ご利用者数も増え意義のあるものとなっている。地域の中で不足するサービスを補うものとして、地域の高齢の方々や障がいをもたれている方々の外出機会の確保のための足として法人の資源を有効に活用することができている。

また、例年、地域事業部の職員や法人の各部署の職員の協力により石山地区の福祉のまち推進センターの方々と一緒に行ってきた「お茶の間懇談会」では、地域の課題の一つでもある「認知症高齢者を在宅で支える」を題材にした寸劇「認知症を予防するためには・・・」を行った。また、芸術の森地区においても地区社会福祉協議会主催の「認知症研修」に石山地区と同じ内容の寸劇を実施することができた。今回の寸劇も職員有志による劇団「みんなのみどりちゃん」が行い、非常に好評を博していた。

地域事業部の各事業所は地道に地域に根ざした活動ができてきているが、平成２９年度も、和幸園ホームヘルプサービス事業所のみ苦戦を強いられる結果となってしまった。法人内の居宅介護支援事業所のみならず他法人居宅介護支援事業所からの信頼も厚い事業所ではあったが、前年度のヘルパーの退職後、常勤職員は採用できたが登録ヘルパーの補充が進まず、稼動数を上げることができず予算よりも減収となってしまった。２９年度から始まった要支援者対象の日常生活支援総合事業により、それまでの給付のありようとは変化した分も影響している。

居宅介護支援事業所は、職員の状況も安定し、当初の計画に近い実績とすることができ、今後ますます強化しなければならない医療との連携も、一人ひとりの介護支援専門員の意識の高さによりスムーズに行うことができていた。

介護予防センターの活動も地域に根ざした活動を多く行い、法人内外の人脈を生かし、地域との連携を強化しながら推し進めることができている。介護予防に資する活動の最先端として、地域との関わりをより円滑に行えるよう職員の創意工夫により転倒予防教室などの利用者数は、総体で増加している。

今まで石山の地で１５年間ほど活動してきた地域事業部であったが、年度途中から芸術の森地区に事業所を移転したことから、それまでなかなか根ざすことができていなかった芸術の森地区にも、今までの予防センターの活動を足がかりに、十分に地域との協力体制を整えていくことが可能と考える。
どんな依頼に対しても「断らない」方針を基本として、次年度もより一層地域に密着した事業展開を図っていきたいと考える。

## １３．和幸園指定居宅介護支援事業所

### １．事業活動報告

平成２９年度の居宅介護支援事業所の目標件数は、給付管理数を要介護者数１７４件、要支援者数３０件の計２０４件としており、結果は要介護者数１７５．７５件、要支援者数２６．８３件の計２０２．５８件となり要介護のみ目標達成、要支援は目標達成できなかった。対前年との実績比は要介護が約３件減となり約５０万円程の減収、予算比較では約２０万円の増収となった。黒字を出すことが難しいと言われている居宅介護支援事業所であることを考えると、最低限の実績は残すことができたと考える。また昨年の反省を活かし、実績が落ち込みがちである年度末も、高い実績を残すことができており、次年度に向けた土台作りはできたと考える。
次年度は、事業所の職員の入れ替わりが控えており、ご利用者に負担をかけることなく、またサービスの質を落とすことなく変革を進めていき、同時に課題であった管理者業務の整理も行い、より質の高いサービスが提供できる事業所作りを進めていく方針である。

### ２．本年度の重点目標

#### （１）安定したご利用者確保に向けた関係機関との連携強化

地域で少しでも長く生活できるようにご家族及び地域の方々、サービス事業所と連携しながら、ご利用者の選択に基づき適切な保健医療サービスが受けられるよう支援を継続した。

また、在宅生活に支障をきたす状況を施設で軽減し、再び在宅で生活していただくため法人本体の施設との連携を今まで以上に密にし行ったことで、ご利用者が望まれる在宅生活の継続ができた。その結果、法人内事業所の和幸園短期入所・和幸園デイサービス・芸術の森デイサービスの高い実績維持に貢献することがすることができたと考える。

#### （２）自立生活支援の理念に沿ったケアプラン作成と運営基準の遵守

居宅サービスの運営基準を遵守し不備のない分かりやすい記録を目指し、取り組みを進めてきた。
毎週木曜日に行っている伝達会議でケアプラン点検を定期的に行い、またスタッフ間で共有しているケアマネジメント進捗表（資料チェック表）も活用し、不備のない記録作りを行うことができた。

### ３．法人の５つの視点に対する取り組み

#### （１）利用者視点

① 質の高いケアマネジメントの実践

積極的に医療との連携を図り、疾病と生活障害との関連性について精査し、ご利用者の生活課題を解決するための取り組みを行った。

② 中立性・公平性の確保

ご利用者の利益を最優先に活動を行い、独立かつ幅広い関係機関との連係を保ち、公平・中立なケアマネジメントを実践した。

③ 高齢者の権利擁護のための必要な援助

高齢者虐待防止法の理解を深め、早期発見及び予防に努め、行政から依頼のあった緊急対応も受けてきた。事業所担当利用者で虐待の疑いがある場合も、事業所として方針を決め札幌市・地域包括支援センターへ相談を行った。

④ 説明責任について

制度改正に伴う情報、ケアプランの内容をご利用者に適切な方法で分かりやすく説明した。

⑤ 緊急時における迅速な対応

特定事業所として、緊急時に即対応できるよう、各ケアマネジャーが連携し対応を行った。

⑥ 支援困難ケースの積極的受け入れ

認知症等の疾患が原因でサービス利用に対して拒否的な方に対しては、サービス内容の理解が容易に進むよう、ご家族等より詳細に情報を収集し、関係事業所との綿密な打ち合わせのもと対応することで、スムーズなサービス利用に繋がるよう支援した。

**（２）財務の視点**

① サービス提供エリアにおける情報収集

常に経営分析を念頭に置きつつ、関係機関との連携の強化を図り、サービス提供エリアにおける新規参入事業所等、福祉サービスの動向を把握し、安定した事業所経営に努めた。

② ケアマネジメント力の向上による在宅生活期間の延長

事業所のケアマネジメント力の向上を図りながら、できるだけ住み慣れた在宅生活を長く継続できるよう、地域にある各種サービス事業所との連携強化に努めた。

③ 新規ケースの確保

新規ケースの確保では電話相談や訪問による相談に随時対応しており、法人内新規事業所である「あうるの森」の相談も年度末にかけて増えており新規相談件数・新規ご利用者数は増加している。

④ コスト管理の徹底

管理者と主任の業務分担を積極的に行い、業務の効率化を推し進めた。その他の節減については自主的に行い経費節減に心掛けた。

**（３）人材確保と育成**

この１年間退職者なく、安定的な人員で事業所サービスを継続することができた。その要因としてはその都度の面談の実施や役職体制の再構築が考えられる。有給休暇取得率においては、個人差があり全員が消化率向上することができたとはいえない。育成面についてはケアプラン内容のレベルアップのため会議で都度個別ケースの検討や２表点検を定期的に行い実践したが、まだ足りていないのが実情である。

**（４）地域貢献の推進**

① 地域に密着した相談機関として地域の方々が入りやすく利用しやすい環境を整え、対応した結果、相談に来られる方は昨年より３件増加した。（２９年度１９件、２８年度１６件、２７年度１９件）

② 石山・芸術の森のお茶の間懇談会を実施する等、地域の行事に積極的に参加し、地域の方々との距離を縮めることに努めた。また「朝市バス」の添乗員にケアマネジャーも加わることで、より一層地域に根ざした事業所作りができたと考える。

### （5）ガバナンス体制の強化

① 運営減算の発生防止として、コンプライアンス体制を構築し、今年の２月に内部監査も実施した。

② プライバシーの尊重と秘密保持については、事業所内での検討を基に個人情報の安全な取り扱いをマニュアル化し見直しを定期的に行った。

## ４．事業運営状況

① 職員の配置状況　　平成３０年３月３１日現在

| 職　種 | 人　数 | 備　考 |
|---|---|---|
| 管理者・介護支援専門員 | １人 | 地域事業部係長兼務 |
| 主任介護支援専門員 | １人 | 地域事業部部長兼務 |
| 居宅主任・主任介護支援専門員 | １人 | |
| 主任介護支援専門員 | ４人 | キャリア正職員３名 |
| 計 | ７人 | |

② 従業者研修実績

| 日　程 | 研修名 | 参加者名 |
|---|---|---|
| H29. 4.16 | これからの介護保険の展望　30 年度の改正に向けて | 中野 |
| H29. 4.20 | 事例検討会（ケアプラン内容見直し） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29. 4.27 | 病院との連携について（札幌南整形外科病院　吉本 SW） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29. 5.18 | タイムマネジメントについて | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29. 6.1 | 事例検討会（家族システムについて） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29. 6.8 | 伝達研修～これからの介護保険の展望 30 年度の改正に向けて | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29. 6.9 | ワークライフバランスについて　※法人研修 | 中野、金澤、椿野、安藤 |
| H29. 6.13 | 医療と介護の連携　※外部研修 | 椿野 |
| H29. 6.15 | 事例検討会（ケアプラン内容見直し） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29.6.22・29 | 事例検討会（認知行動療法について） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29.8.3 | 事例検討会（スーパービジョンについて） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29.8.10 | 事例検討会（困難事例の対応について） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29.8.16 | なぜ人と人とは支えあうのか　※法人研修 | 檜森、木村、金澤、寺本 |
| H29.8.17 | 事例検討会（ロールプレイでの振り返り） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29.8/24 | 事例検討会（困難事例の対応について） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29.8.31 | 事例検討会（ICF 書式の利用について） | 檜森、中野、木村、金澤、安藤、寺本 |
| H29.9.6 | 札幌市ケアマネ能力向上研修会 | 檜森、木村、金澤、寺本 |
| H29.9.7 | 事例検討会（個別地域ケア介護について） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29.10.5 | 事例検討会（困難事例の対応について） | 中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |

| | | |
|---|---|---|
| H29.10.6 | 人との関わり　発想の転換　※法人研修 | 檜森、中野、木村、安藤 |
| H29.11.27 | 夕べの語りを聞く　自死による喪失体験　※外部研修 | 金澤 |
| H29.12.4 | 札幌市予防給付ケアマネジメント研修会 | 中野・金澤 |
| H29.12.6 | 介護事業所の自己対応について　※法人研修 | 中野・安藤 |
| H29.12.7 | 事例検討会（ICF 書式の利用について） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H29.12.18 | 高齢者虐待を防止するために　※外部研修 | 木村 |
| H29.12.21 | 事例検討会（ICF 書式の利用について） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H30.1.11 | アセスメントとは | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H30.1.25 | 事例検討会（困難事例の対応について） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H30.2.8 | 精神病について（ときわ病院　沖田 PSW） | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H30.2.15 | ソリューション面接技法 | 檜森、中野、木村、金澤、椿野、安藤、寺本 |
| H30.2.26 | 「人」と「認知症」と向き合うということ　※法人研修 | 檜森、中野 |
| H30.3.1 | ケアプランチェック | 中野、木村、金澤、椿野、安藤、 |

③ 平成２９年度居宅介護支援事業所請求実績数

| | 要介護１ | 要介護２ | 要介護３ | 要介護４ | 要介護５ | 未確定 | 計 | 要支援 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ４月 | 71 | 52 | 32 | 7 | 7 | 2 | 171 | 31 | 202 |
| ５月 | 68 | 52 | 34 | 8 | 8 | 3 | 173 | 30 | 203 |
| ６月 | 65 | 53 | 34 | 8 | 8 | 1 | 169 | 32 | 201 |
| ７月 | 65 | 53 | 40 | 8 | 8 | 3 | 177 | 29 | 206 |
| ８月 | 69 | 49 | 38 | 11 | 9 | 4 | 180 | 27 | 207 |
| ９月 | 72 | 52 | 38 | 10 | 9 | 1 | 182 | 24 | 206 |
| 10 月 | 73 | 56 | 36 | 12 | 8 | 0 | 185 | 23 | 208 |
| 11 月 | 67 | 54 | 36 | 12 | 6 | 2 | 177 | 23 | 200 |
| 12 月 | 70 | 54 | 32 | 13 | 5 | 1 | 175 | 26 | 201 |
| １月 | 71 | 52 | 29 | 13 | 6 | 1 | 172 | 26 | 198 |
| ２月 | 68 | 51 | 29 | 15 | 6 | 1 | 170 | 26 | 196 |
| ３月 | 71 | 52 | 28 | 18 | 7 | 2 | 178 | 25 | 203 |
| 合計 | 830 | 630 | 406 | 135 | 87 | 21 | 2,109 | 322 | 2,431 |
| 昨年 | 899 | 657 | 369 | 100 | 96 | 23 | 2,144 | 395 | 2,539 |

④ 平成２９年度　相談ケース経路

| | 来　所 | 法人内 | 民　生<br>委　員 | 事業所 | 継　続<br>相　談 | ご利用<br>者関係 | 電　話 | 地　域<br>包　括 | 認定調<br>査　員 | 住　宅 | 医師、<br>病　院<br>ＭＳＷ | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合計 | 19 | 17 | 0 | 7 | 0 | 4 | 51 | 10 | 0 | 0 | 9 | 117 |

⑤ 平成２９年度　新規利用者紹介経緯（給付管理を行った件数）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 元ご利用者(再開) | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 5 |
| 病院 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 8 |
| 法人内紹介 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 12 |
| ご利用者家族 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 第一包括 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 第二包括 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 第三包括 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 医師 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 電話 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| 来所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 5 |
| 他居宅 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 7 |
| 職員紹介 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 継続相談 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 他事業所紹介 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 民生委員 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 住宅より紹介 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 9 | 5 | 4 | 5 | 6 | 6 | 5 | 2 | 5 | 8 | 5 | 3 | 63 |

⑥ 要介護者における事業種別　居宅給付管理件数（法人内にある４事業のみ、要支援含まず）

| 種　別 | 件 数（左側全体利用件数　右側法人内利用件数） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平成29年度 | | 平成28年度 | | 平成27年度 | | 平成26年度 | |
| | 全件数 | 法人内 | 全件数 | 法人内 | 全件数 | 法人内 | 全件数 | 法人内 |
| 訪問介護 | 875 | 451<br>(52%) | 869 | 624<br>(72%) | 927 | 667<br>(72%) | 1,001 | 724<br>(72%) |
| 通所介護 | 861 | 566<br>(66%) | 875 | 634<br>(73%) | 1,038 | 625<br>(60%) | 928 | 639<br>(69%) |
| 認知症<br>通所介護 | 333 | 238<br>(71%) | 342 | 251<br>(73%) | 343 | 254<br>(74%) | 371 | 318<br>(86%) |
| 短期生活介護 | 384 | 308<br>(80%) | 336 | 276<br>(82%) | 294 | 253<br>(86%) | 250 | 218<br>(87%) |

# １４．和幸園・グリンハイムホームヘルプサービス事業所

## １．事業活動報告

平成２９年度は、前年度の９名（体調不良や家族の転勤や親の介護等）の退職者から、登録ヘルパーを募集しても応募がなく一人も採用に繋がらなかった。ヘルパー不足の中で４、７月に常勤ヘルパー２名の採用とサービス提供責任者の稼働でヘルパー不足に対応してきたが、前年度の退職者の補充ができなかったこともあり、稼働数をあげることができず予算よりも減収となってしまった。また現ヘルパーの働きたい時間帯（９時から５時ぐらい、午前か午後だけ）での稼働調整が難しく、ご利用者の希望される起床、就寝の時間で働けるヘルパーを確保できなかったことは大きな要因であり、次年度の課題でもある。今年度の新規ケースは介護保険１４件、障がいサービス９件であった。介護保険は死亡、施設入所（通所回数増でヘルプ減）、入院等で実績を伸ばすことができなかったと考える。障がい福祉サービスは新規９件であったが、利用に繋がると介護保険のご利用者ほど入院等が少なく、１名が終了した以外は継続していることで予算はほぼ達成できた。事業所の取組みとしている８名のシニアリーダーも平均年齢６４歳であるが会議でのグループワークでリーダシップを発揮し、直行・直帰で普段は顔を合わせる事のないヘルパーたちをまとめてくれた。何よりも、一人もかけることなく元気に一年間活動し、技術や経験を伝えてくれたことは、次年に繋がる強い力になったと考える。さらに今年度の広報委員は昨年とは違う形で掲示物を作り地域の方に発信し、立ち止って見て下さる方も多く見られた。また、ヘルパーのレクリェーションとして、一年ぶりに藻岩山登山を実施することができ楽しい時間を過ごし、仕事を離れてのチームワーク作りができた。

次年度はホームヘルパー一人ひとりのやさしさや思いやりが地域に届くよう、どんな困難ケースにも対応し支援していきたいと考える。

## ２．事業運営状況

① 職員の配置状況

| | ヘルパー体制 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 常勤 | 非常勤 | 総数 | |
| | | | 平成 29 年度 | 平成 28 年度 |
| 平成 29 年　4 月 | 5 | 30 | 35 | 41 |
| 5 月 | 5 | 30 | 35 | 41 |
| 6 月 | 5 | 29 | 34 | 40 |
| 7 月 | 6 | 28 | 34 | 40 |
| 8 月 | 6 | 28 | 34 | 40 |
| 9 月 | 6 | 28 | 34 | 49 |
| 10 月 | 6 | 28 | 34 | 41 |
| 11 月 | 6 | 28 | 34 | 37 |
| 12 月 | 6 | 28 | 34 | 37 |
| 平成 30 年　1 月 | 6 | 28 | 34 | 36 |
| 2 月 | 6 | 27 | 33 | 34 |
| 3 月 | 6 | 27 | 33 | 34 |

② ヘルパー資格状況

| | 平成29年度 | 平成28年度 |
|---|---|---|
| 介護福祉士 | 21 | 21 |
| ホームヘルパー1級 | 1 | 0 |
| ホームヘルパー2級 | 11 | 13 |
| ガイドヘルパー | 20 | 20 |
| 臨床検査技師 | 1 | 1 |
| 社会福祉主事 | 1 | 1 |

（重複有り）

③ 研修状況

＜事業所内研修＞

| 開催日 | 会議・研修名 | 研修主体 | 参加職種 |
|---|---|---|---|
| H29.4.15 | 法令遵守 | 事業所 | ヘルパー24名 |
| H29.5.20 | 生活援助と掃除のコツ | 事業所 | ヘルパー22名 |
| H29.6.17 | ポジショニング | 事業所 | ヘルパー24名 |
| H29.7.15 | ヒヤリハットの事例検討 | 事業所 | ヘルパー26名 |
| H29.8.19 | 調理のこつ | 事業所 | ヘルパー23名 |
| H29.9.16 | 緊急時の対応 | 事業所 | ヘルパー23名 |
| H29.10.21 | 高齢者の病気と症状 | 事業所 | ヘルパー20名 |
| H29.11.18 | ケアカンファレンス | 事業所 | ヘルパー25名 |
| H29.12.16 | おむつトラブル | 事業所 | ヘルパー19名 |
| H30.1.20 | 感染症及び食中毒の発生の予防及び蔓延の防止 | 事業所 | ヘルパー19名 |
| H30.2.17 | 洗濯のこつ | 事業所 | ヘルパー20名 |
| H30.3.17 | 接遇 | 事業所 | ヘルパー23名 |

＜会議内グループワーク研修＞

| 開催日 | 会議・研修名 | 研修主体 | 参加職種 |
|---|---|---|---|
| H29.4.15 | 適切な声掛け | 事業所 | ヘルパー24名 |
| H29.5.20 | 食中毒について　活動中に気を付けている事 | 事業所 | ヘルパー22名 |
| H29.6.17 | ベッド上での安楽な姿勢を保つために | 事業所 | ヘルパー24名 |
| H29.7.15 | 勉強したいことやってみたい事、課題を話し合う | 事業所 | ヘルパー26名 |
| H29.8.19 | 勉強したいことやってみたい事。発表 | 事業所 | ヘルパー23名 |
| H29.9.16 | ヒヤリハット | 事業所 | ヘルパー23名 |
| H29.10.21 | 調理 | 事業所 | ヘルパー20名 |
| H29.11.18 | 調理 | 事業所 | ヘルパー25名 |
| H29.12.16 | オムツ交換時の声掛け | 事業所 | ヘルパー19名 |
| H30.1.20 | 食中毒の予防 | 事業所 | ヘルパー19名 |
| H30.2.17 | 洗濯について | 事業所 | ヘルパー20名 |
| H30.3.17 | マナーの基本 | 事業所 | ヘルパー23名 |

＜事業所内研修＞

| 研修名 | 開催日 | 研修主体 | 参加職種 |
|---|---|---|---|
| 寝返り・起きあがり介助 | H29<br>5/11(3名)、5/15(4名)5/24(3名)、5/29(1名)、5/31(2名)、6/7(1名)、6/9(2名)、6/13(1名)、6/14(1名)、6/20(1名)、6/21(1名)、6/23(2名)、7/14(1名)、8/29(2名) | 事業所 | ヘルパー25名 |
| ベッドから車椅子の移乗介助 | 6/28(4名)、7/10(1名)、7/11(3名)、7/13(2名)、7/24(3名)、8/7(4名)、8/8(1名)、8/21(1名)、 | 事業所 | ヘルパー19名 |
| 調理実習 | 10/21（20名）、11/18（5名） | 事業所 | ヘルパー25名 |
| リフター操作 | 12/19(3名)、12/20(2名)、<br>H30　1/9(2名)、1/10(3名)、1/12(1名)、1/22(2名)、1/24(3名)、 | 事業所 | ヘルパー16名 |
| 調理実習 | 10/21（20名）、11/18（5名） | 事業所 | ヘルパー25名 |
| 更衣介助（車イス） | 1/6（4名）、2/5（6名）、2/6(4名)、2/8（6名） | 事業所 | ヘルパー20名 |
| 入浴介助 | 1/5(4名)、1/6(4名)、1/15(3名)、1/18(3名)、2/6(3名)、2/7(2名)、2/9(2名) | 事業所 | ヘルパー21名 |

＜法人内研修・職員有志研修＞

| 開催日 | 会議・研修名 | 研修主体 | 参加職種 |
|---|---|---|---|
| H29.6.9 | 「ワークライフバランス」を実現する為のチームワーク | 法人 | ヘルパー 6名 |
| H29.8.16 | 「なぜ人と人は支え合うのか」 | 法人 | ヘルパー 3名 |
| H29.10.6 | 人とのかかわり | 法人 | ヘルパー 6名 |
| H29.12.6 | 事例から学ぶ介護事業所の事故対応 | 法人 | ヘルパー 9名 |
| H30.2.26 | 人との認知症と向き合うこと | 法人 | ヘルパー 7名 |

＜レクリェーション＞

| 開催日 | | |
|---|---|---|
| H29.10.15 | 藻岩山登山 | ヘルパー9名（＋子供４名） |

# １５．介護予防センター石山・芸術の森

## １．事業活動報告

平成２９年度は、主催事業である転倒予防教室について、両地区において地域に定着し地域の社会資源の一つとして認知され、地域住民に一定の評価をいただけていると考えている。特に石山地区では、ご利用者からの口コミでの参加が増えている状況である。また、アクロスプラザ集会所でも、石山地区に隣接している藤野地区からのご利用者が増えた。

芸術の森地区では、地域の課題でもある縦長の町内が、会場へのアクセスの問題となり、参加者が限定されることから、現在の実施方法を検討する必要があると考えている。しかし、芸術の森地区への事務所移転にともない、より身近な存在となったことで福祉活動支援への依頼がある等、期待の大きさを感じさせた。

介護予防教室の安全な実施のため、人員配置においてボランティアや法人職員からの協力を得ながら事業を進めることができ、協力体制の定着化を図る事ができた。

認知症予防教室として実施している「森の寺子屋」については、今年度は、地域包括支援センターの撤退により、２回の実施を確保するための話し合いをご利用者と行い、半分を自主活動とすることで実施に至った。予防センターとしては、今まで通り脳トレや体操、レクリェーション等を第１水曜日に担当し、第３水曜日を自主活動とし、自主運営が継続してできるように支援をすることとなった。

法人内の事業所等との連携については、石山地区において平成２５年度より開催している「石山お茶の間懇談会」を石山地区福祉のまち推進センターと共同で開催をした。今年度も、地域課題の解決の場として、認知症をテーマとした寸劇による「認知症高齢者を予防するためには…」と題し、公演の実施、グループワークでの意見交換を行った。法人の方針である地域貢献と地域の方々と北海道ハピニスの交流の機会となった。次年度以降も着実に継続していけるように、開催方法等を検討しながら進めていきたい。

また、芸術の森地区では、地区社会福祉協議会と連携し認知症予防研修に参加させてもらい、認知症をテーマとした寸劇による「認知症高齢者を予防するためには…」と題して公演を実施した。

地域との関わりについて、芸術の森地区では主に地区社会福祉協議会・地区福祉のまち推進センターと連携し「もりの仲間のさわやかクラブ」を実施、体力測定や生活機能チェック等を行い、介護予防の普及・啓発に繋げた。その他、単位町内会の福祉推進委員会、老人クラブ等との交流も継続して実施している。また、平成２９年１０月、１１月に実施した芸術の森地区福祉のまち運営委員会主催の「福祉のまち推進委員研修会」では、区保健福祉課・第一地域包括支援センター・介護予防センターの３機関による、地域での役割について講話をし、各地域関係者へ地域での役割について理解を得る機会となった。石山地区では、昨年度から引き続き、地区まちづくり協議会福祉部会の副部長をさせていただいていることで、様々な組織・団体、地域住民と連携を図りながら、介護予防のみならず「まちづくり」という視点でも関わり事業を進めることができた。さらに、まちづくり協議会福祉部会を中心に、福祉のまち推進センター、民生委員児童委員協議会、南区保健福祉課、南区第一地域包括支援センター、南区社会福祉協議会等の関係団体も含め、日々の目配り活動について現状や課題、関係機関と連携できることは何か等をテーマとしたワークショップを実施し、活発な意見交換・情報共有の場となった。

全体を通し、地域の皆様や関係機関の皆様のご理解、ご協力のもとに、介護予防センター事業が展開できたことに感謝し、今後もより一層の関係構築、事業連携を目指していきたい。

## ２．事業運営状況

### （１）職員の配置状況

| 職　　種 | 人　　数 | 備　　考 |
|---|---|---|
| センター長 | １名 | 兼任、常勤 |
| ケースワーカー | １名 | 専任、常勤 |

### （２）年間重点目標について

① 担当地域において、介護予防センターの存在･役割、特に相談機関であることの周知を図っていく

介護予防センターや法人各事業のチラシを、介護予防教室・介護イベント等で配布した。さらに関係機関・団体等との関わりの中で介護予防センターの役割の周知を図り、実績として介護保険に関連する相談が一番多かった。次年度も引き続き周知活動を継続し、介護予防センターについての理解促進に努めていきたい。

② 事業参加者、地域関係者、関係機関等との関係形成に努める

各事業において、地域関係者、関係機関と連携を図りながら事業を実施し、事業参加者においても積極的なコミュニケーションを取り関係形成に努めた。引き続き、中・長期的な視点で信頼関係を形成し、地域活動の基盤を築いていきたい。

③ 転倒予防教室実施について

介護予防教室の自主運営化の支援として､現在行っている介護予防教室の地域住民による積極的な教室運営の実施のための支援を行う。また、空白地域での自主運営での教室立ち上げ・支援を行うことを目的に、今後は、地域での介護予防の普及・啓発事業について、広く地域との関わりを持ちつつ必要に応じた支援により継続した運営と空白地域の活動支援を実施したい。

④ 関係機関、法人内部とも連携しながら事業を進める

主に南区保健福祉部、南区第一地域包括支援センターと連携を図りながら事業を進めることができた。事業内容に応じ南区社会福祉協議会や札幌南老人福祉センター等とも連携を図った。法人内部については、居宅介護支援事業所、特別養護老人ホーム和幸園等と連携により各種事業を実施し、地域貢献や法人認知度向上に努めた。

⑤ 地域住民の介護予防に対する理解促進に努める

介護予防センター主催事業並びに、地域組織・団体等との連携の中で、介護予防の必要性や取り組みについて実技や講話、会議等を行った。

【地域介護予防活動の支援状況】

| 機関・団体名 | 内　容 | 回　数 |
|---|---|---|
| 石山地区まちづくり協議会 | 総会・役員会出席<br>福祉部会会議出席<br>福祉部会「生き活き健康教室とゲーム大会」共催<br>福祉部会「高齢者目配り活動意見交換会（地域ケア会議）」共催<br>福祉部会「石山地域学習会」共催 | 4回<br>12回<br>1回<br>1回<br>1回 |
| 石山福祉のまち推進センター | 運営委員会参加（オブザーバー）<br>福祉推進委員研修会共催<br>福まちふれあいの集い共催<br>お楽しみゲーム大会共催 | 12回<br>1回<br>1回<br>1回 |
| 石山民生児童委員協議会 | 介護予防事業連携協力依頼 | 2回 |
| 石山コミュニティサロン「駅」実行委員会 | 介護予防教室実施協力 | 11回 |
| 青樹町内会 | 介護予防教室実施協力 | 9回 |
| 七宝会（老人クラブ） | ふまねっと実施協力 | 2回 |
| 芸術の森地区社会福祉協議会 | もりの仲間のさわやかクラブ共催（南老人福祉センター）<br>関係者打合せ・振り返り<br>地区地域ケア会議 | 1回<br>4回<br>2回 |
| 芸術の森福祉のまち推進センター | 推進委員研修会 | 2回 |
| 滝野町内会 | 健康体操・体力測定会実施協力 | 11回 |
| プラチナクラブ（老人クラブ） | 介護予防教室 | 2回 |
| 常盤団地町内会<br>（常盤団地福祉推進委員会） | スマイルクラブ（体力測定・生活機能チェックリスト等）<br>ゲーム | 2回 |

⑥ 地域関係団体との連携を図り、地域での相談支援や事業実施を進める

相談については、昨年度同様に他相談機関、或いは居宅介護支援事業所等に流れることが多く、介護予防センターへの相談件数自体は決して多くないが、地域の方等から直接相談を受けるケースもある。相談内容は介護予防に関する問い合わせや相談が主だが、介護保険制度に関する問合せや相談もあり、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへつなぐケースもあった。地域での相談支援は日頃からの関係形成が重要と捉え、次年度も良好な関係を構築していきたい。

⑦ 介護予防事業に関する知識・技術の向上に努め、事業実施に繋げる

法人内外の研修に参加し、担当地域での事業実施に結びつくものや、活動の参考となるアイディアを得ることができ、実際に事業等で実施した。

＜研修参加状況＞

| No. | 開催日 | 研修名 | 備 考 |
|---|---|---|---|
| 1 | H29.8.18 | ファシリテーションの基礎について | |
| 2 | H29.9.29 | 札幌市介護予防センター連絡会議 | |
| 3 | H30.2.13 | 介護予防センター運営方針の運用に係る説明会及び研修会 | |
| 4 | H30.3.1 | 札幌市介護予防センター連絡会議 | |
| 5 | H29.7～H30.3 | 法人内研修（6回） | |

（3）法人の５つの視点に対する取り組み（該当項目のみ）

① 利用者視点

年間重点目標②で挙げたように、地域関係者をはじめとした地域住民と、積極的な意見交換、コミュニケーションをとり、関係形成、情報収集に努めた。⑥で挙げたように、相談件数は決して多くは無いが、地域の方から直接相談を受けるケースもあり、地域住民と良好な関係を構築できていると考えられる。

② 財務視点

予防センターの運営に必要な物を見極め、無駄を省き経費削減に努めた。

③ 地域貢献の推進

担当地域での行事や町内会・老人クラブ等の集まりや、転倒予防教室等事業にて、講話や介護予防教室等を実施し介護予防の普及・啓発に努めた。また、随時、介護予防センターの存在、役割、さらには相談機関であることを周知した。

法人内部、石山地区福祉のまち推進センターと連携し開催した、「石山お茶の間懇談会」を今年度も開催することができ、地域との連携強化につながったと感じる。

④ ガバナンス体制の強化

区連絡会議や地区連絡会議をはじめ、必要に応じて、区・地域包括支援センター等関係機関と情報交換を行い、目的の共有、人的・技術的な連携を取ることができた。また、実施事業の活動実績等報告書類や、予防センター運営に関わる書類等の提出期日を守り、安定した運営を行うことができた。

**（3）事業実績**

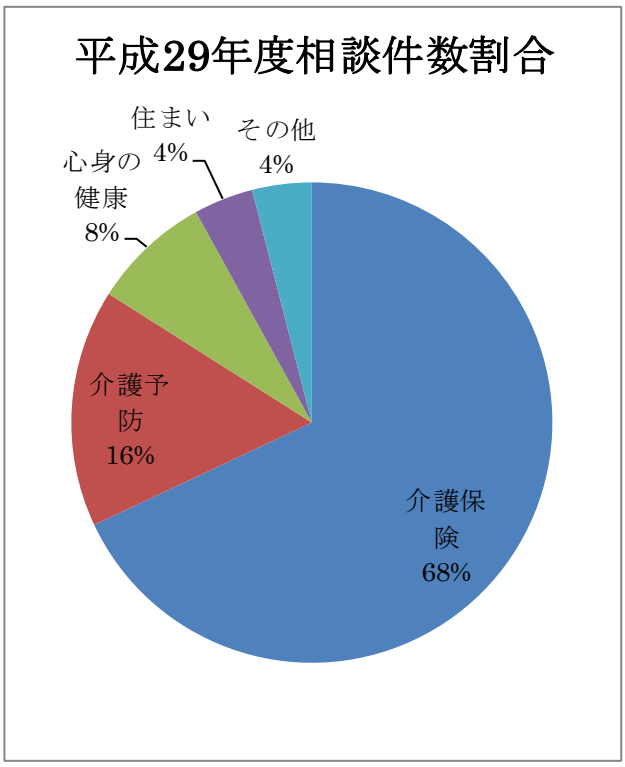
① 相談事業

＜相談経路＞

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | 29年度 | 28年度 |
| 電　話 | 1件 | 1件 | 2件 | 2件 | - | - | 5件 | 2件 | 1件 | 2件 | - | 2件 | 18件 | 15件 |
| 訪　問 | － | - | - | - | - | － | － | － | － | － | － | － | 0件 | 0件 |
| 面　接 | － | 1件 | － | － | 1件 | 1件 | - | － | － | 1件 | 1件 | 1件 | 6件 | 4件 |
| 計 | 1件 | 2件 | 2件 | 2件 | 1件 | 1件 | 5件 | 2件 | 1件 | 3件 | 1件 | 3件 | 24件 | 19件 |

※「面接」は、「来所」「事業実施時」「その他」を包含する。

＜相談種別・割合＞




| 相談内容内訳 | 件数 | | H29年度割合 |
|---|---|---|---|
| | H29年度 | H28年度 | |
| 介護保険制度 | 17件 | 10件 | 68% |
| 介護予防 | 4件 | 1件 | 16% |
| 保健福祉サービス | 0件 | 1件 | 0% |
| 権利擁護 | 0件 | 0件 | 0% |
| 消費者被害に関すること | 0件 | 0件 | 0% |
| 認知症に関すること | 0件 | 4件 | 0% |
| 高齢者虐待に関すること | 0件 | 0件 | 0% |
| 心身の健康に関すること | 2件 | 2件 | 8% |
| 住まいに関すること | 1件 | 1件 | 4% |
| その他 | 1件 | 3件 | 4% |
| 計 | 25件 | 22件 | |

（重複あり）

② 介護予防普及・啓発事業

＜転倒予防教室予防教室の開催＞

石山地区のうち石山会館は月２回、年２４回、アクロスプラザ集会所は、毎週１回、年４９回の教室を実施した。石山会館は、登録者は昨年より微増し、参加者の延べ人数、平均人数共に若干上回った。アクロスプラザについても、登録者、延べ人数、平均人数全てで前年度より若干上回った。芸術の森地区は芸術の森会館で月２回、年２４回の教室を実施した。こちらについては登録者は横ばいであったが、参加者延べ人数、平均人数は昨年より減少となった。

ア）参加登録者状況

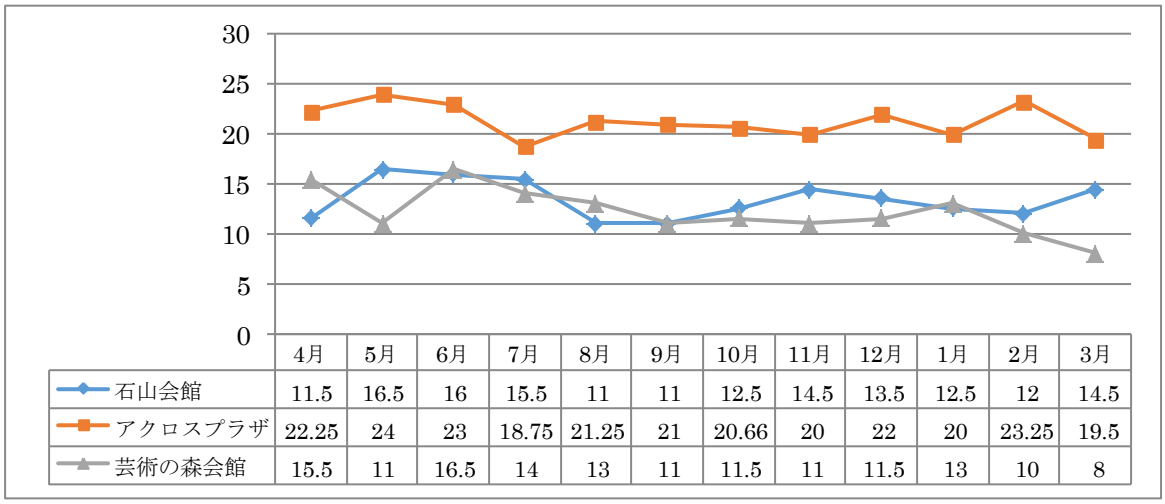
| 実施会場 | 登録者 | | 28年度比 |
|---|---|---|---|
| | H30.3.31 | H29.3.31 | (伸び率) |
| 石山会館 | 26名 | 24名 | 108.3% |
| アクロスプラザ | 49名 | 46名 | 106.5% |
| 芸術の森会館 | 26名 | 26名 | 100.0% |
| 計 | 101名 | 96名 | 105.2% |

※登録者は当年度において１回以上教室に参加された方。

イ）参加実施状況

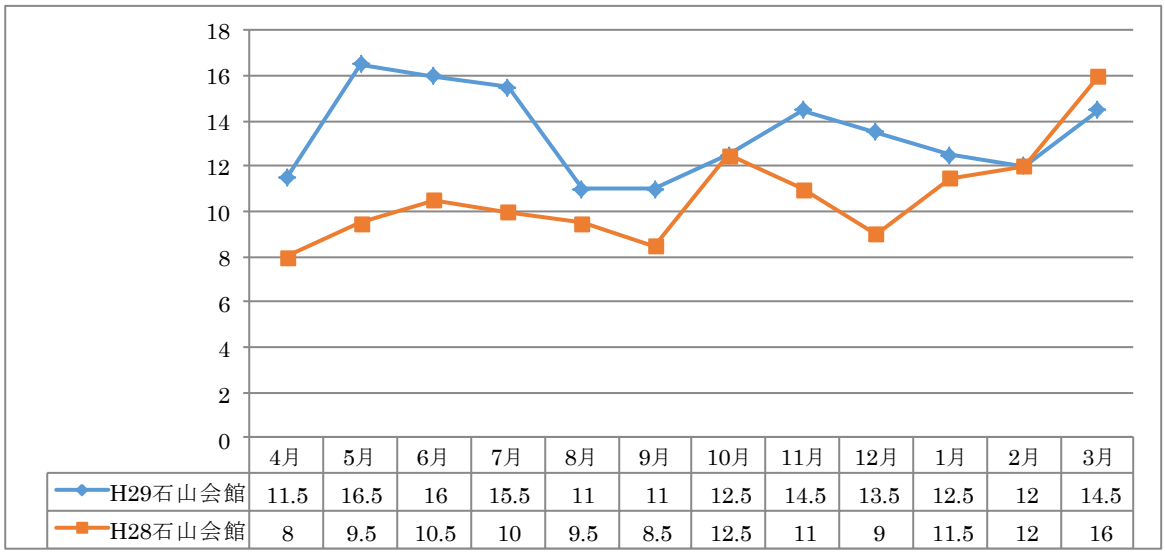
| 実施会場 | 実施回数 | | 参加者延べ人数 | | 参加平均人数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 29 年度 | 28 年度 | 29 年度 | 28 年度 | 29 年度 | 28 年度 |
| 石山会館 | 24 回 | 24 回 | 326 名 | 247 名 | 13. 58 名 | 10. 29 名 |
| アクロスプラザ | 49 回 | 52 回 | 998 名 | 972 名 | 20. 37 名 | 18. 69 名 |
| 芸術の森会館 | 24 回 | 24 回 | 287 名 | 308 名 | 11. 96 名 | 12. 83 名 |
| 計 | 97 回 | 100 回 | 1, 611 名 | 1, 527 名 | 16. 61 名 | 15. 27 名 |

ウ）平成２９年度転倒予防教室月別平均参加者推移



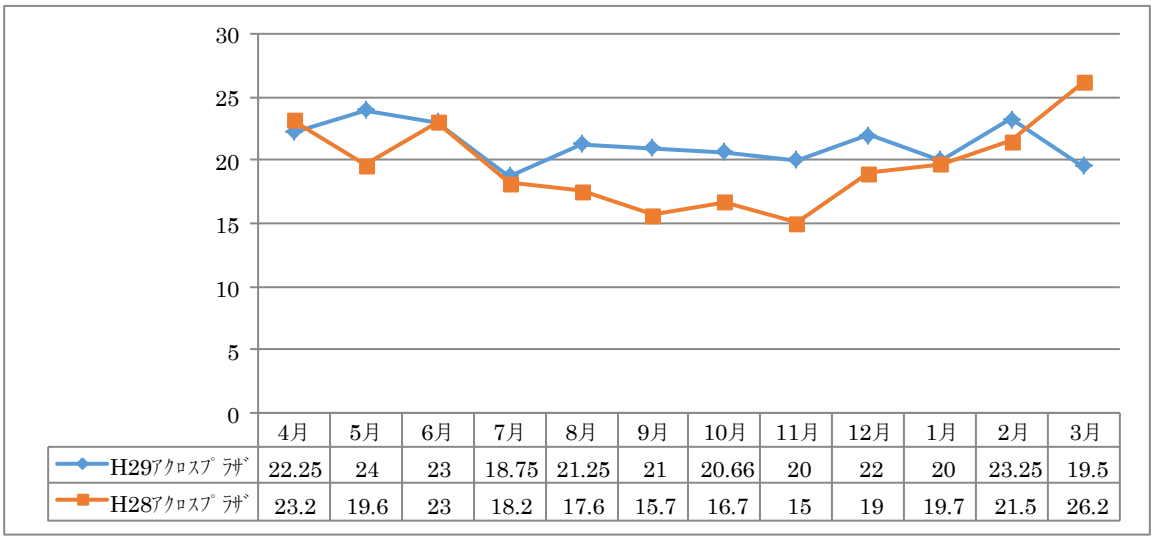

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石山会館 | 11.5 | 16.5 | 16 | 15.5 | 11 | 11 | 12.5 | 14.5 | 13.5 | 12.5 | 12 | 14.5 |
| アクロスプラザ | 22.25 | 24 | 23 | 18.75 | 21.25 | 21 | 20.66 | 20 | 22 | 20 | 23.25 | 19.5 |
| 芸術の森会館 | 15.5 | 11 | 16.5 | 14 | 13 | 11 | 11.5 | 11 | 11.5 | 13 | 10 | 8 |

エ）平成２９年度転倒予防教室（石山会館）参加者月別平均推移（平成２８年度同月比）



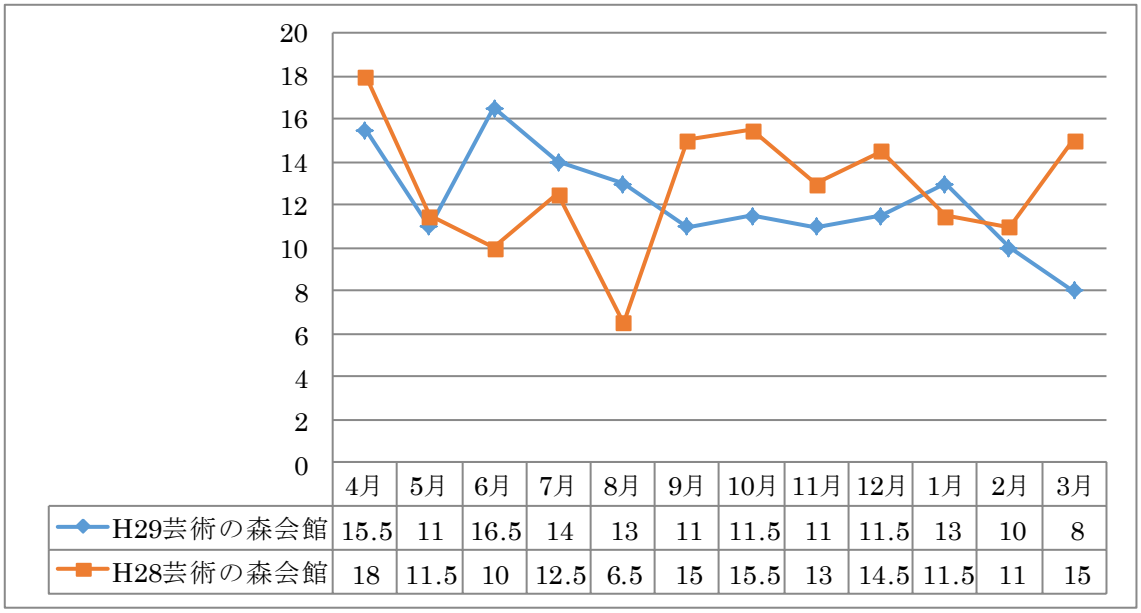

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H29石山会館 | 11.5 | 16.5 | 16 | 15.5 | 11 | 11 | 12.5 | 14.5 | 13.5 | 12.5 | 12 | 14.5 |
| H28石山会館 | 8 | 9.5 | 10.5 | 10 | 9.5 | 8.5 | 12.5 | 11 | 9 | 11.5 | 12 | 16 |

オ）平成２９年度転倒予防教室（アクロスプラザ）参加者月別平均推移（平成２８年度同月比）




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H29ｱｸﾛｽﾌﾟﾗｻﾞ | 22.25 | 24 | 23 | 18.75 | 21.25 | 21 | 20.66 | 20 | 22 | 20 | 23.25 | 19.5 |
| H28ｱｸﾛｽﾌﾟﾗｻﾞ | 23.2 | 19.6 | 23 | 18.2 | 17.6 | 15.7 | 16.7 | 15 | 19 | 19.7 | 21.5 | 26.2 |

カ）平成２９年度転倒予防教室（芸術の森会館）参加者月別推移（平成２８年度同月比）




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H29芸術の森会館 | 15.5 | 11 | 16.5 | 14 | 13 | 11 | 11.5 | 11 | 11.5 | 13 | 10 | 8 |
| H28芸術の森会館 | 18 | 11.5 | 10 | 12.5 | 6.5 | 15 | 15.5 | 13 | 14.5 | 11.5 | 11 | 15 |

＜認知症予防教室（森の寺子屋）の開催＞

今年度より予防センターの単独事業となり、認知症予防に関するテーマでの脳トレや体操、レクリェーション等を実施。平成２９年度は、第１水曜日を担当の日とし、月１回、年１０回実施した。参加者からも好評を頂いている。次年度も、第１水曜日を予防センターが担当し、第３水曜日は自主活動で継続することとなる。今後も、第３水曜日の自主活動においても継続して活動ができるように関わりをもっていくこととなる。

なお、次年度は新第一地域包括支援センターとの連携が取れないか検討する予定である。

| 実施会場 | 実施回数 | | 参加者延べ人数 | | 参加平均人数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | H29 年度 | H28 年度 | H29 年度 | H28 年度 | H29 年度 | H28 年度 |
| 南老人福祉センター | 10 回 | 11 回 | 75 名 | 108 名 | 7.50 名 | 9.82 名 |

ハピネスリング